

観光需要の動向と対応

- 地域戦略、観光戦略に必要な視点 -



日比野 直彦

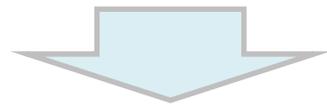
政策研究大学院大学 大学院 政策研究科

講演内容

1. はじめに
2. 国内宿泊観光旅行者の動向
3. 訪日外国人観光旅行者の動向
4. 外国エアラインの国内運航の検討
5. まとめ

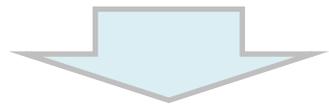
1. はじめに 今、なぜ観光か？

人口減少・少子高齢社会の進展、
国土形成計画、地域社会の持続可能な発展 など



観光振興、都市間交通整備 など

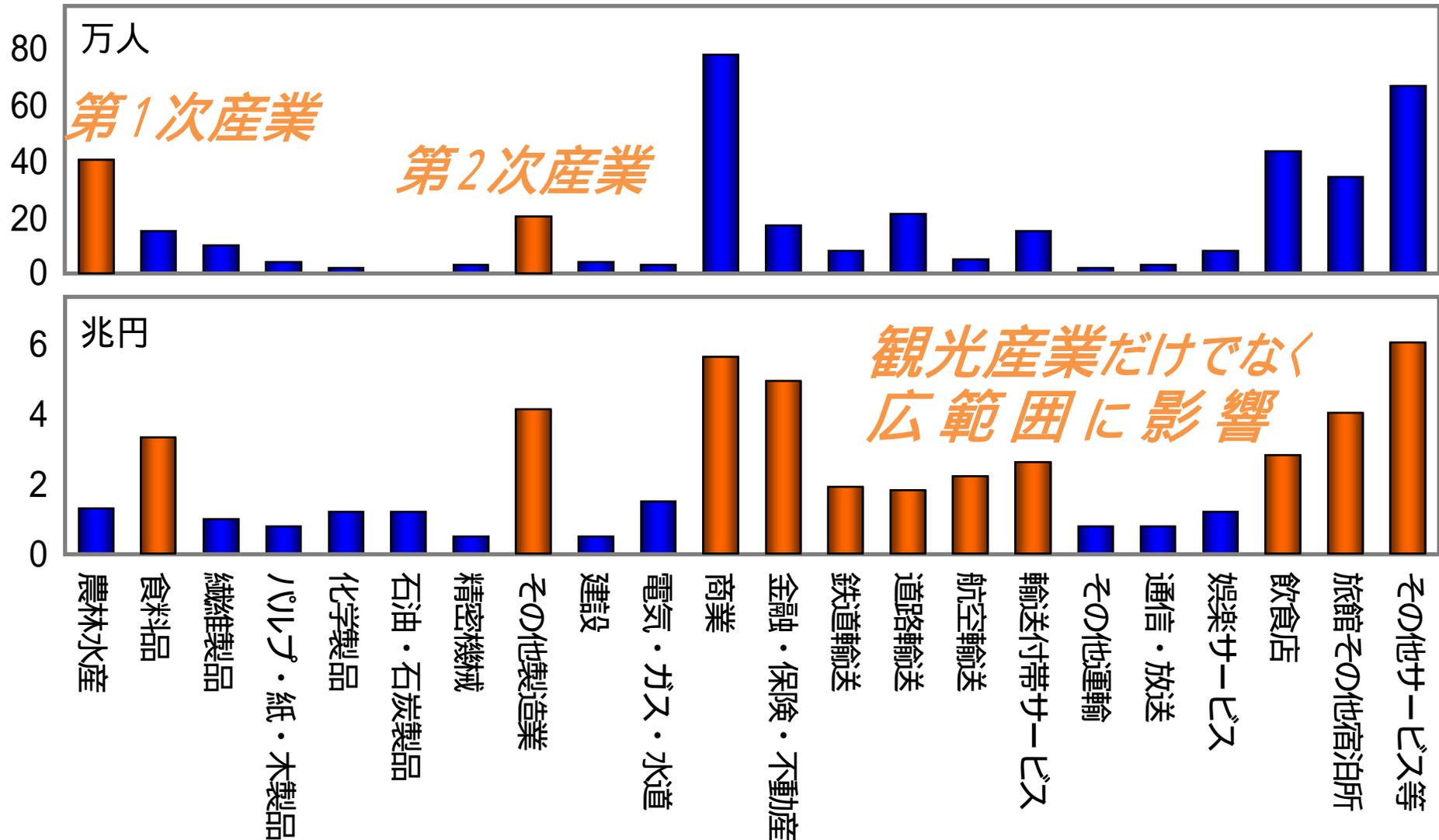
交流人口を増加



地域の活性化、地域格差の是正

観光は6次産業

観光消費による他産業への波及効果



(出典) 観光庁資料より作成

観光消費の経済波及効果 (2007年度)

観光産業

波及効果

雇用創出

211 万人 → 441 万人

消費額

23.5 兆円 → 53.1 兆円

(出典) 観光庁資料より作成

5

観光立国推進基本法の施行と観光庁の設立

観光立国推進基本法

2006(平成18)年12月13日に議員立法により成立

2007(平成19)年1月1日より施行

1963(昭和38)年制定の観光基本法を全部改正

地域における創意工夫を生かした主体的な**取組みを推進**

地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの**観光旅行を促進**



観光立国推進基本計画

(観光立国に関する施策のマスタープラン)



観光庁の設立

(出典) 観光庁資料より作成

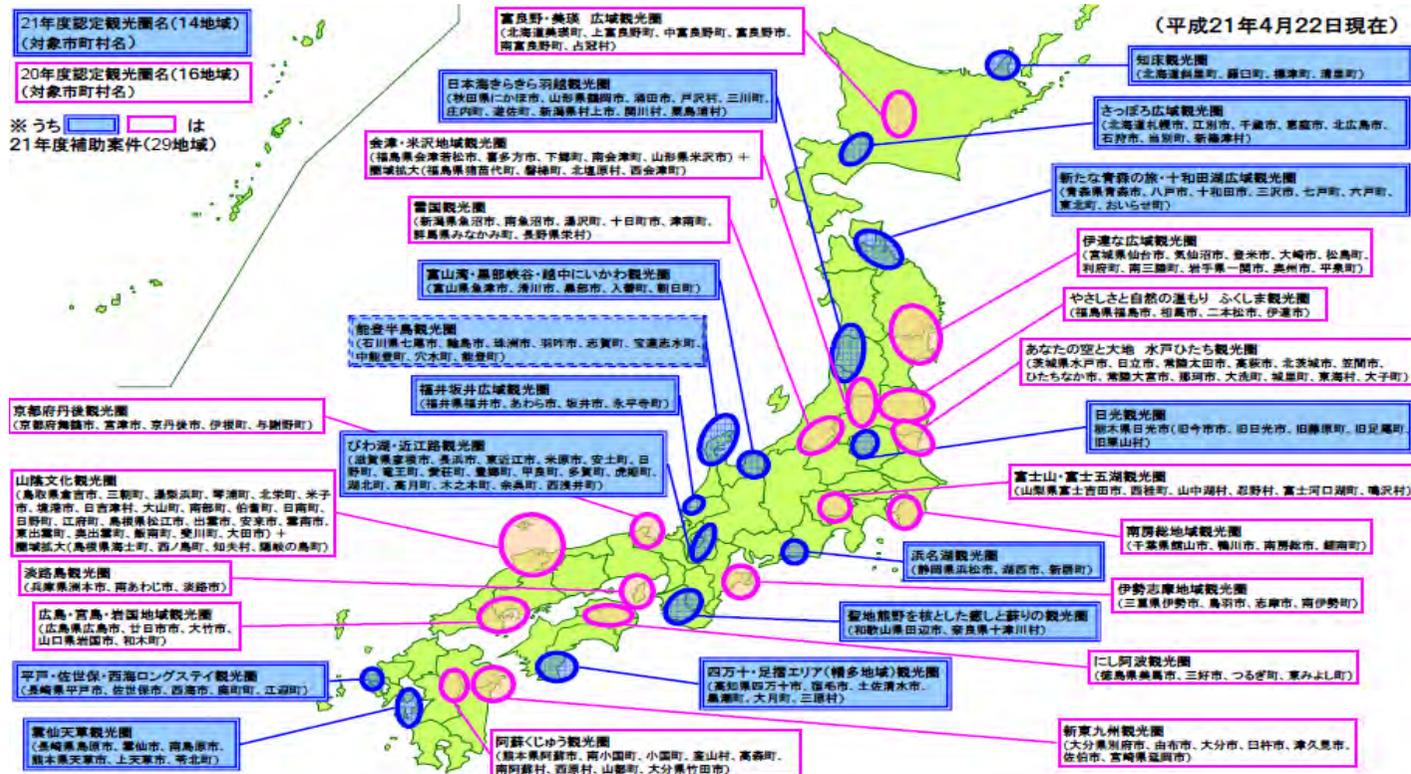
観光立国推進基本計画における基本的な目標

	基本的な目標	目標値
1	訪日外国人旅行者数を2010年までに 1,000万人 にすることを目標とし、将来的には、日本人の海外旅行者数と同程度にすることを旨す。	733 万人(2006) 1,000 万人(2010)
2	日本人の海外旅行者数を2010年までに 2,000万人 にすることを目標とし、国際相互交流を拡大させる。	1,735 万人(2006) 2,000 万人(2010)
3	旅行を促す環境整備や観光産業の生産性向上による多様なサービスの提供を通じた新たな需要の創出等を通じ、国内における観光旅行消費額を2010年度までに 30兆円 にすることを目標とする。	24.4 兆円(2005) 30 兆円(2010)
4	日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数を2010年度までもう1泊増やし、年間 4泊 にすることを目標とする。	2.77 泊(2006) 4 泊(2010)
5	我が国における国際会議の開催件数を2011年までに 5割以上 増やすことを目標とし、アジアにおける最大の開催国を目指す。	168 件(2006) 252 件(2010)

(出典) 観光庁資料より作成 7

観光圏の整備 (30(16 + 14)地域)

国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を促進するため
 「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」に基づき、複数の観光地が連携して2泊3日以上
 の滞在型観光を目指す「観光圏」の形成を促進している



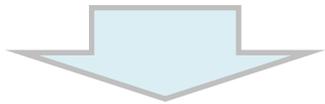
(出典) 観光庁資料より作成

観光政策の課題

国内宿泊観光

インバウンド観光

の需要構造の変化の把握とその対応



マーケティング

統計データに基づいた長期のマーケティング

短期のマーケティング

本日のテーマと研究目的

- ・ 国内宿泊観光旅行者の観光地における活動
- ・ 居住地別の訪日中国人観光旅行者の行動
- ・ 外国エアラインの国内運航



地域戦略、観光戦略、航空戦略などに
必要な視点と政策立案のための基礎的な
情報を示すことを目的

2. 国内宿泊観光旅行者の動向

使用データ

「国民の観光に関する動向調査」



社団法人
日本観光協会が調査し、
「観光の実態と志向」として出版

1964年からほぼ共通の項目で調査

個票データの利用

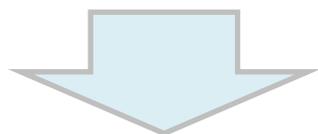
今までの研究成果

日比野ら(2007)観光を目的とした都市間交通の特性に関する基礎的研究,
土木計画学研究・論文集, Vol.24, No.2, pp.389-396.

日比野ら(2007):観光地入込客数の時系列変化に関する分析,土木計画学
研究・講演集 No.36, 4 pages.

日比野, 森地(2006)世代の特徴に着目した国内観光行動の時系列分析,土
木計画学研究・論文集, Vol.23 No.2, pp.399-406.

日比野(2006)世代毎の国内観光行動の特徴を考慮した高齢社会における
観光施策の検討, 運輸政策研究, Vol.9, No.2, pp.94-97.



ある程度のことはわかってきたが...

- ・ 集計データのみからでは限界
- ・ 年齢階層別、活動別といった深い分析をするためには、より詳しいデータが必要

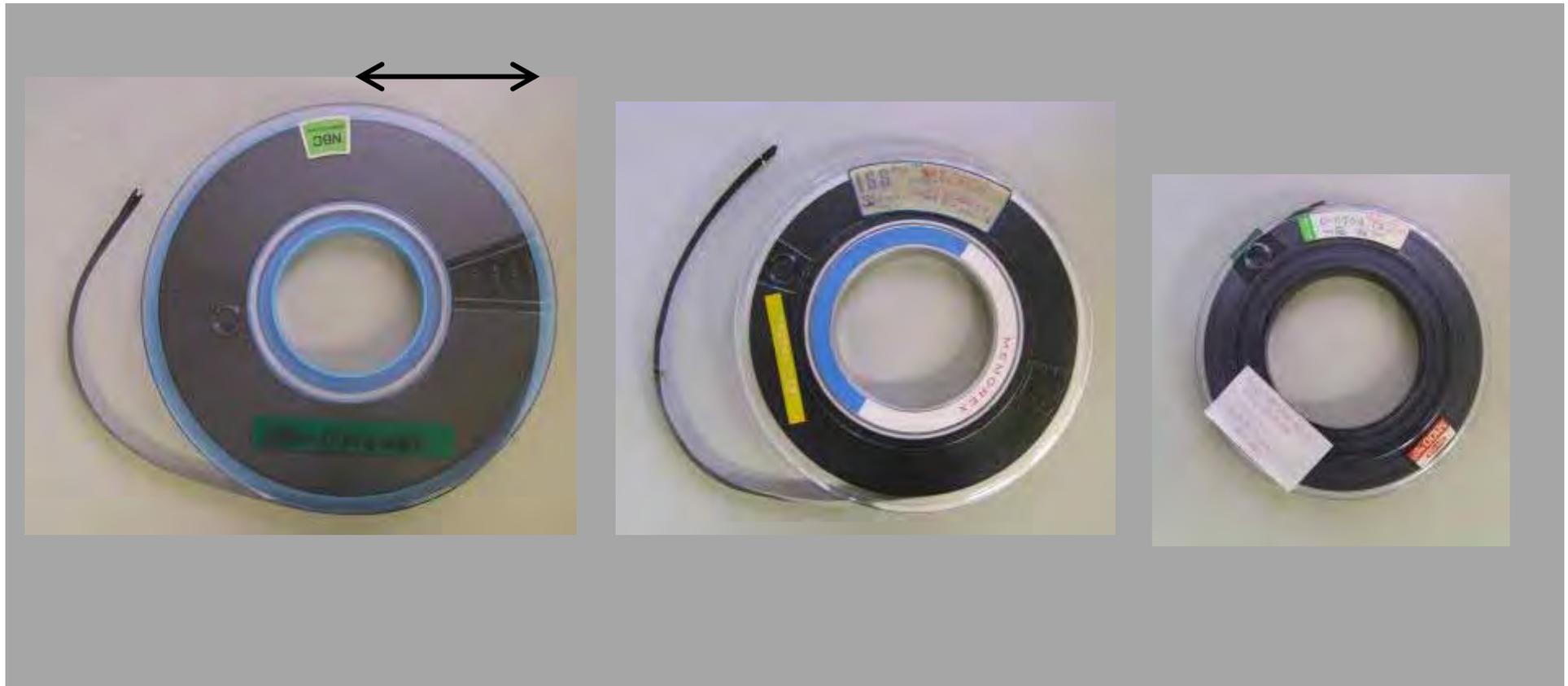
磁気テープ

34本 (3種合計)

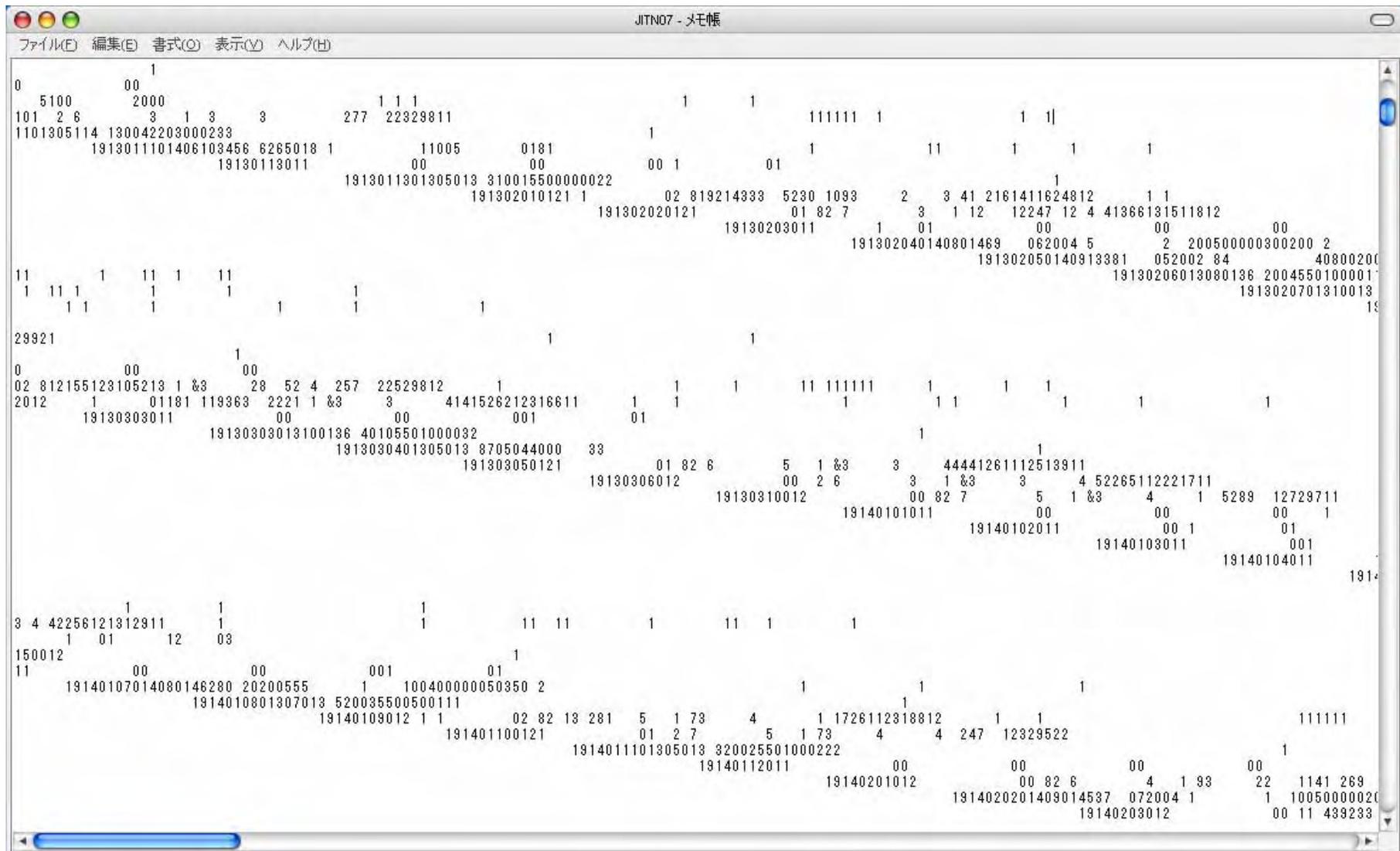
$r = 29.5 \text{ cm}$

24.5 cm

20.5 cm



コンバート後のデータ



ファイルレイアウト

観光レジャーシーズンについての調査(昔19回)

ファイル名 KANKO.DAT 非該当無回答付も(アスタ)
 レコード長 200バイト/レコード
 レコード数 2000
 総容量 2990
 形式 DOS/V, 1.45MB フォーマット

タイトル	その他	年月日	作成者	印	版	承認

名称:
 ファイル名:
 媒体: F・D・C
 ラベル:
 レコード: /AREC
 レコード長: REC/BLOCK

ID		A. 旅行全般												B. 宿泊先旅行																																																																																											
回数	地区No	対象No	調査No	調査月	調査日	Q3 (MA)						Q4						観光レジャーシーズン				出張				帰省				兼観光				Q5 (MA)																																																																							
19						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

名称:
 ファイル名:
 媒体: F・D・C
 ラベル:
 レコード: /AREC
 レコード長: REC/BLOCK

ID		B. 宿泊																																																																																																					
回数	地区No	対象No	調査No	調査月	調査日	Q5 (MA)																																																																																																	
19						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100																																																																																																	

名称:
 ファイル名:
 媒体: F・D・C
 ラベル:
 レコード: /AREC
 レコード長: REC/BLOCK

ID		D. 日帰り旅行												Q25 (MA)												E. 海外旅行												F. 今後の予定																																																																			
回数	地区No	対象No	調査No	調査月	調査日	Q16						Q25 (MA)						Q26				Q28				Q28-6 (MA)																																																																															
19						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

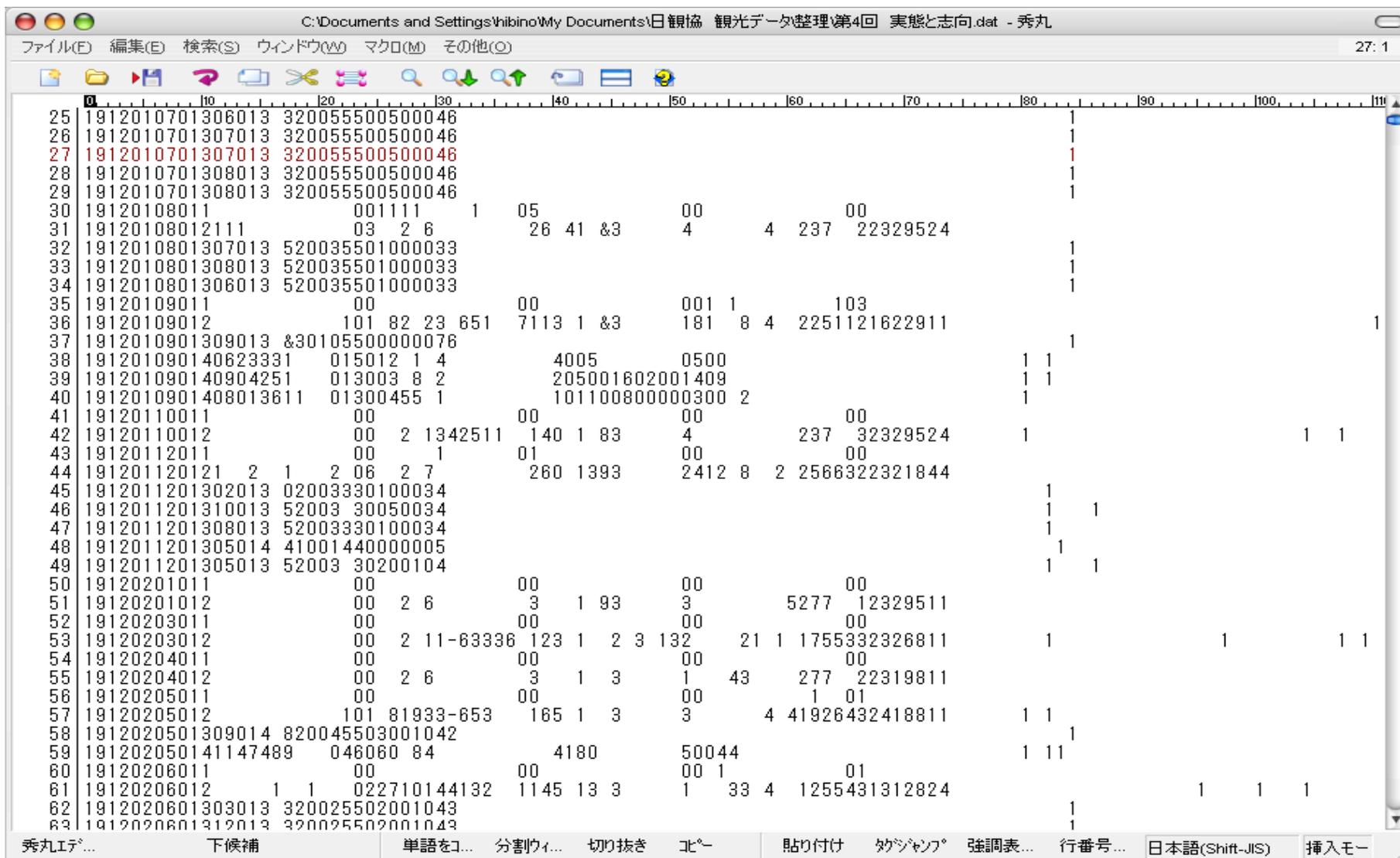
名称:
 ファイル名:
 媒体: F・D・C
 ラベル:
 レコード: /AREC
 レコード長: REC/BLOCK

ID		F. 今後の予定												G. レジャー利用												H. レポート																																																																															
回数	地区No	対象No	調査No	調査月	調査日	Q28						Q29						Q30 (MA)						Q32						Q33a (MA)						Q33b (MA)																																																																					
19						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

名称:
 ファイル名:
 媒体: F・D・C
 ラベル:
 レコード: /AREC
 レコード長: REC/BLOCK

ID																																																																																																							
回数	地区No	対象No	調査No	調査月	調査日																																																																																																		
19																																																																																																							

データ整備例



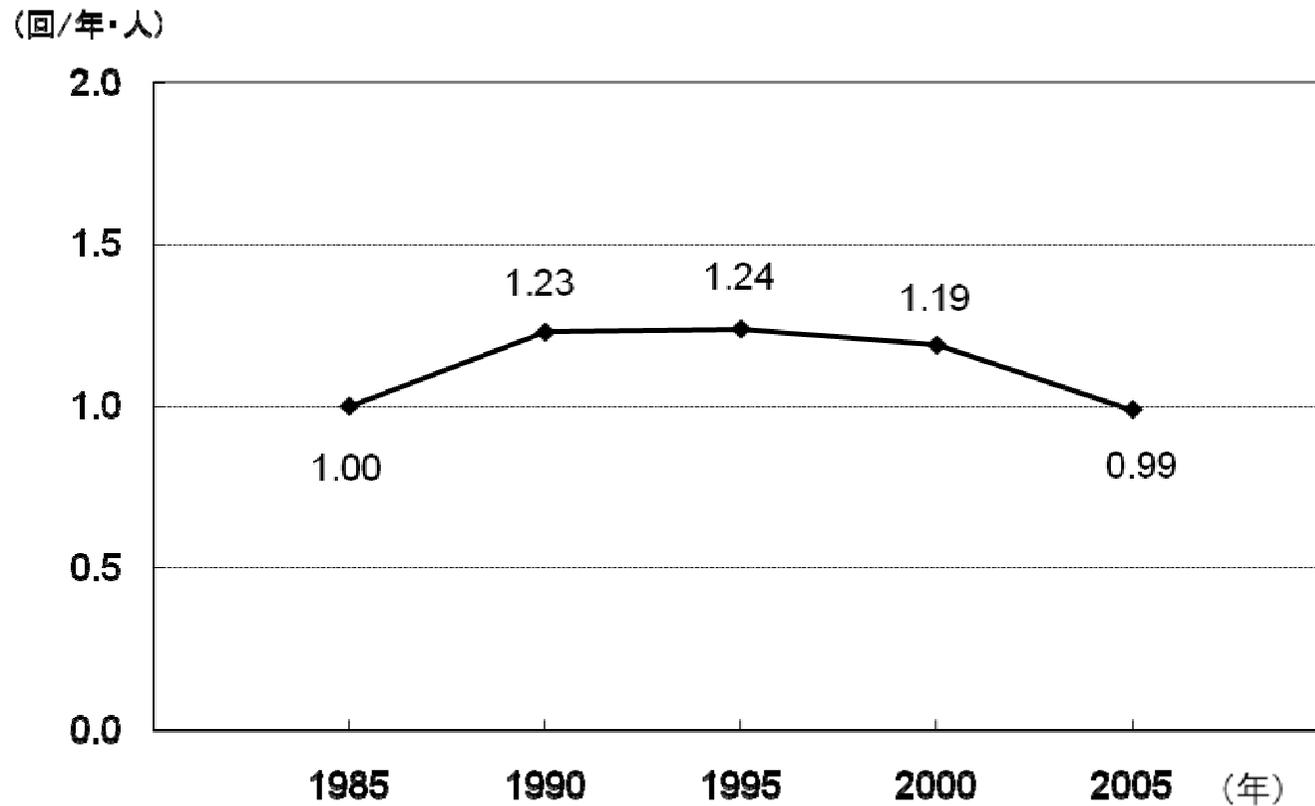
「国民の観光に関する動向調査」の 個票データの有無

調査回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
調査年	'64	'66	'68	'70	'72	'74	'76	'78	'80	'82	'84	'86	'88
個票データ	×	×	×	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○
分析可能データ	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	○
調査回	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
調査年	'90	'92	'94	'96	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06
個票データ	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
分析可能データ	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○

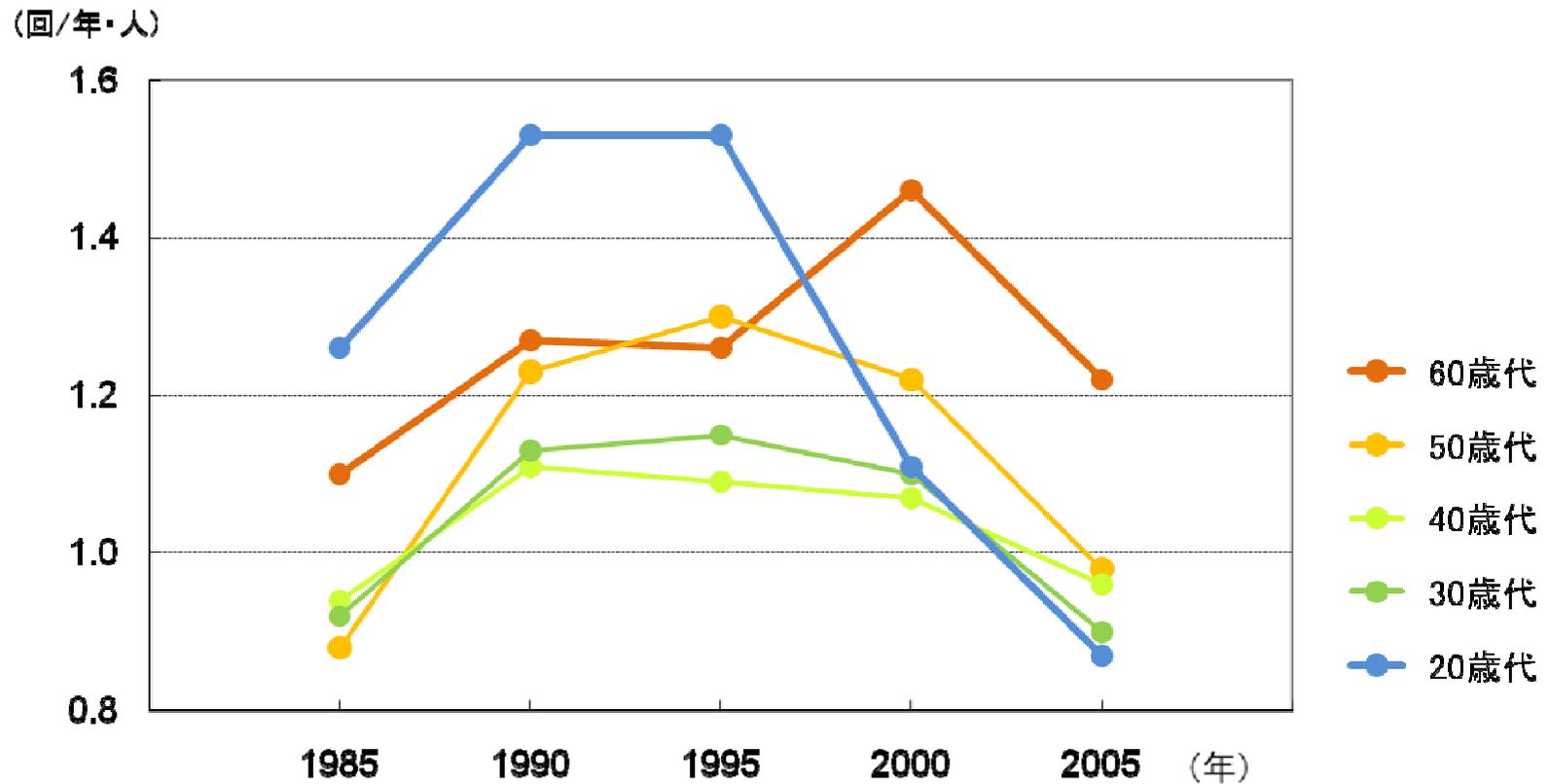
分析データの概要

調査年	1985 (1984)	1990	1995 (1994)	2000 (1999)	2005 (2004)
調査回	第11回	第14回	第16回	第19回	第24回
調査地域	全国	全国	全国	全国	全国
調査対象	満15歳以上男女	満15歳以上男女	満15歳以上男女	満15歳以上男女	全国民
調査対象期間	1983年9月～ 1984年8月	1989年9月～ 1990年8月	1993年9月～ 1994年8月	1999年4月～ 2000年3月	2004年4月～ 2005年3月
標本数	3,000	3,000	3,000	4,000	4,500
有効回収数	2,499	2,367	2,387	2,990	3,286
回収率 (%)	83.3	78.9	79.6	74.8	73.0

人口1人あたりの国内宿泊観光旅行回数 (全体傾向)



人口1人あたりの国内宿泊観光旅行回数 (年齢階層別)

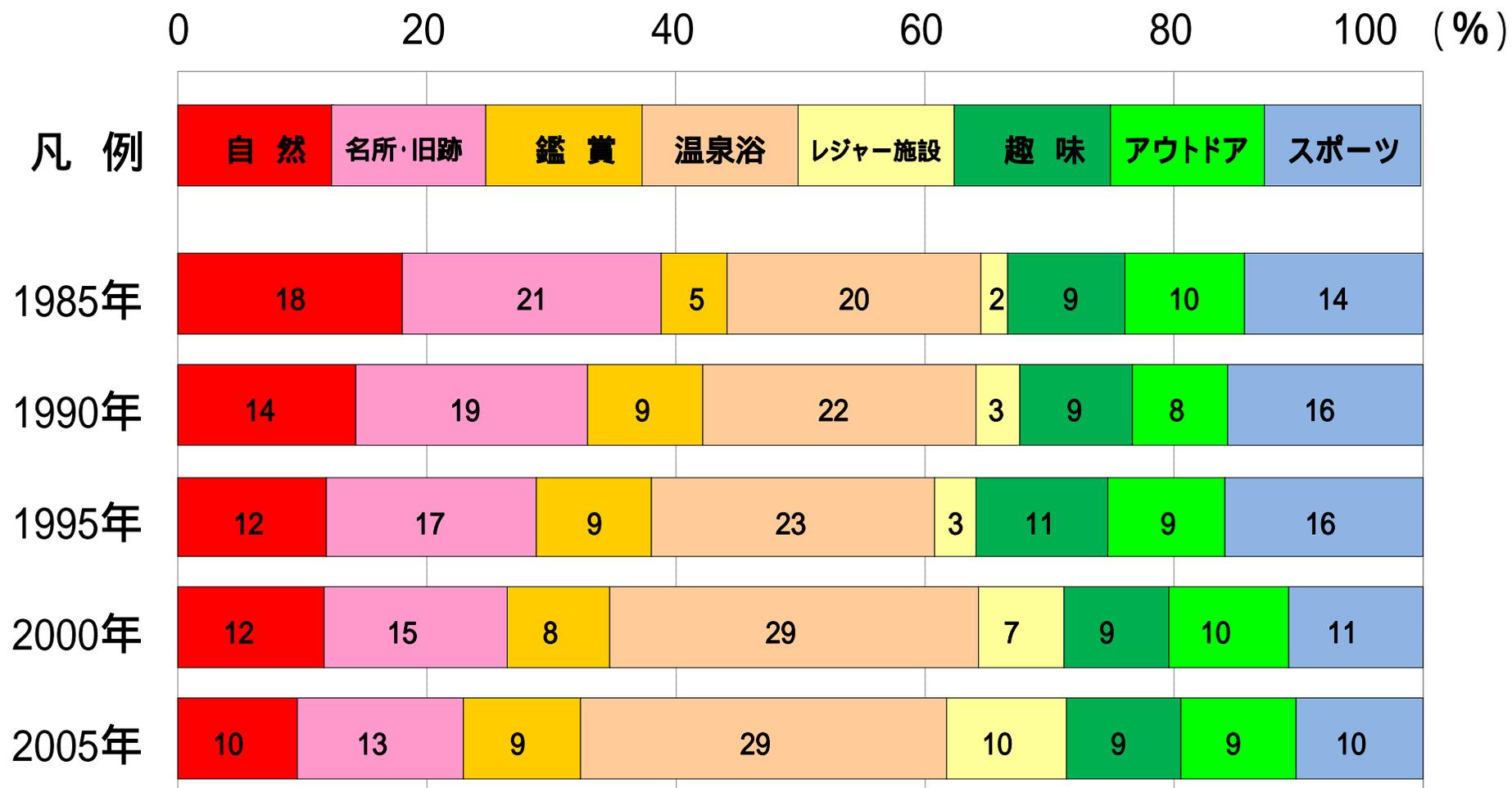


観光地における活動の内容

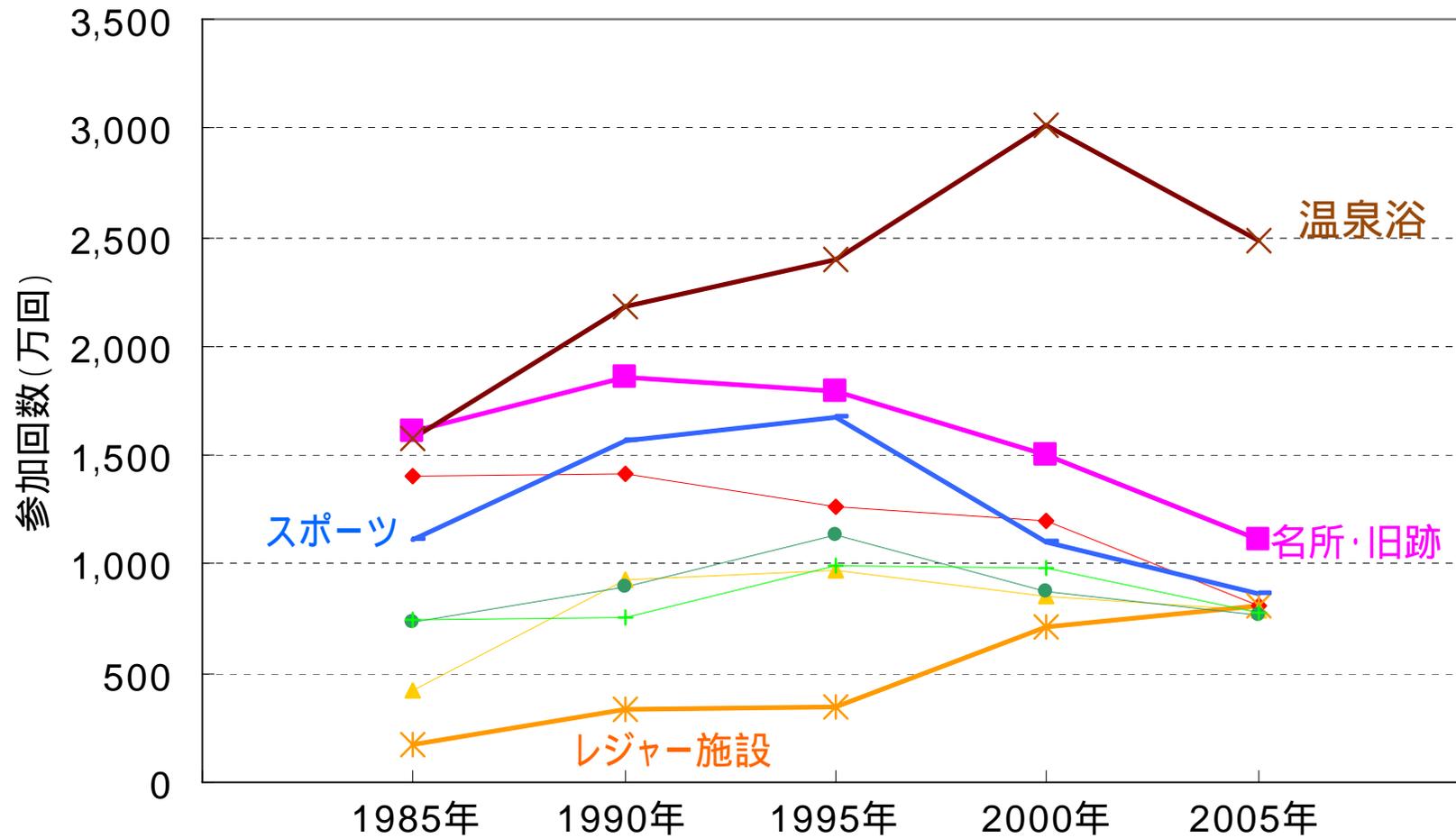
活動内容8分類(全27分類中)

自然	自然をみる、季節の花見
名所・旧跡	名所・旧跡をみる、祭りや行事をみる、神仏詣
観賞	動物園・博物館等見物、演劇・スポーツの鑑賞 など
温泉浴	温泉浴
レジャー施設	レジャーランド・テーマパーク
趣味	特産品の買物・飲食、ドライブ、釣り など
アウトドア	登山・ハイキング、キャンプ・オートキャンプ、海水浴 など
スポーツ	水泳、スキー、ゴルフ、テニス など

観光地における活動内容の時系列変化



観光活動別の参加回数の推移



参加回数の内訳

参加回数(回/年)

$$= \frac{\text{参加者数(人/年)}}{\text{参加者1人あたりの回数(回/人・年)}}$$



広く、多くの人に参加

一般化

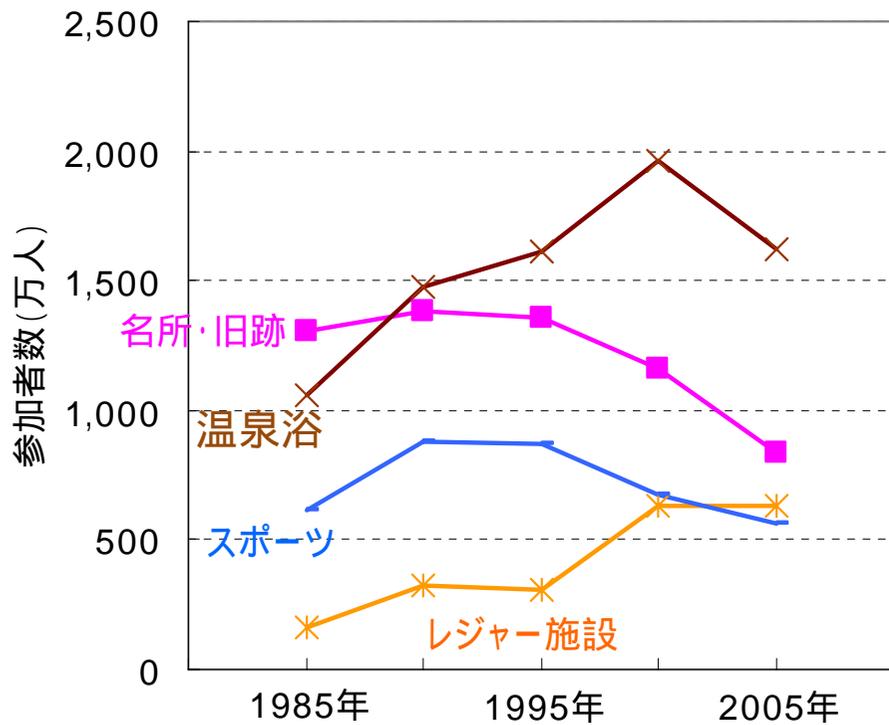


何回も繰り返すことにより深度化進む

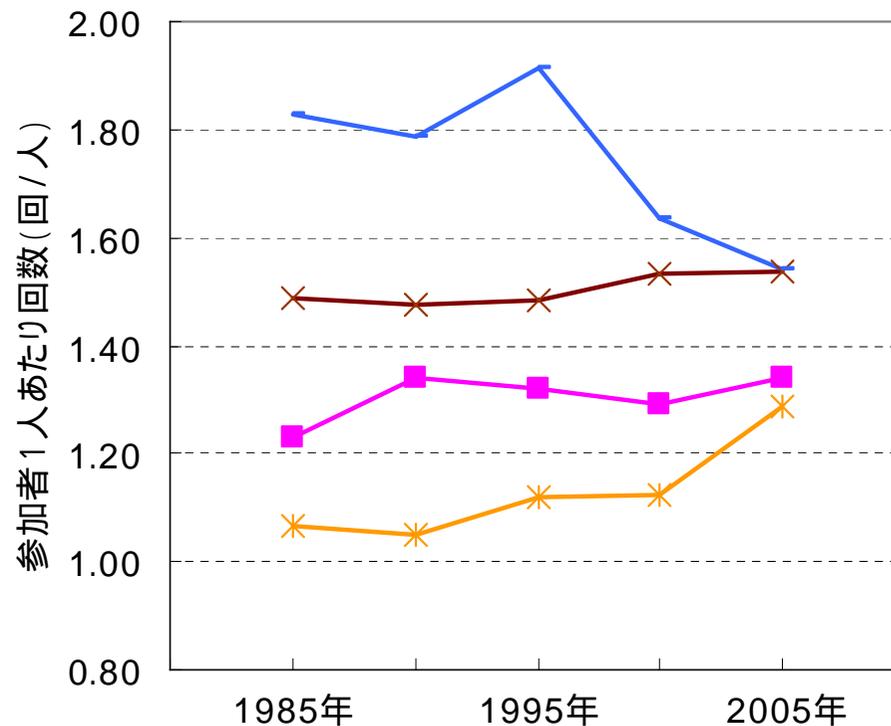
リピーター化

活動別の参加者数および 参加者1人あたり回数の推移

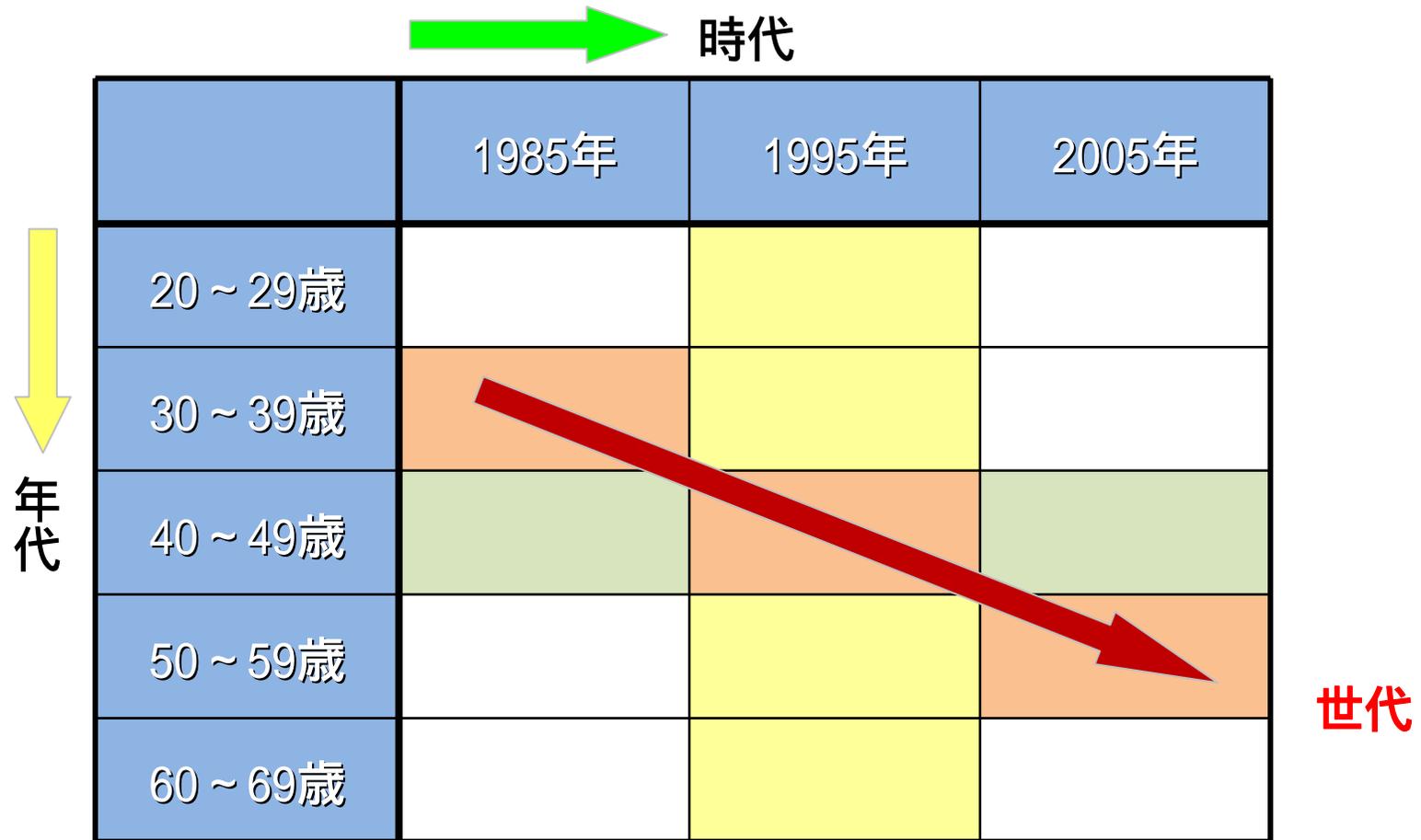
参加者数



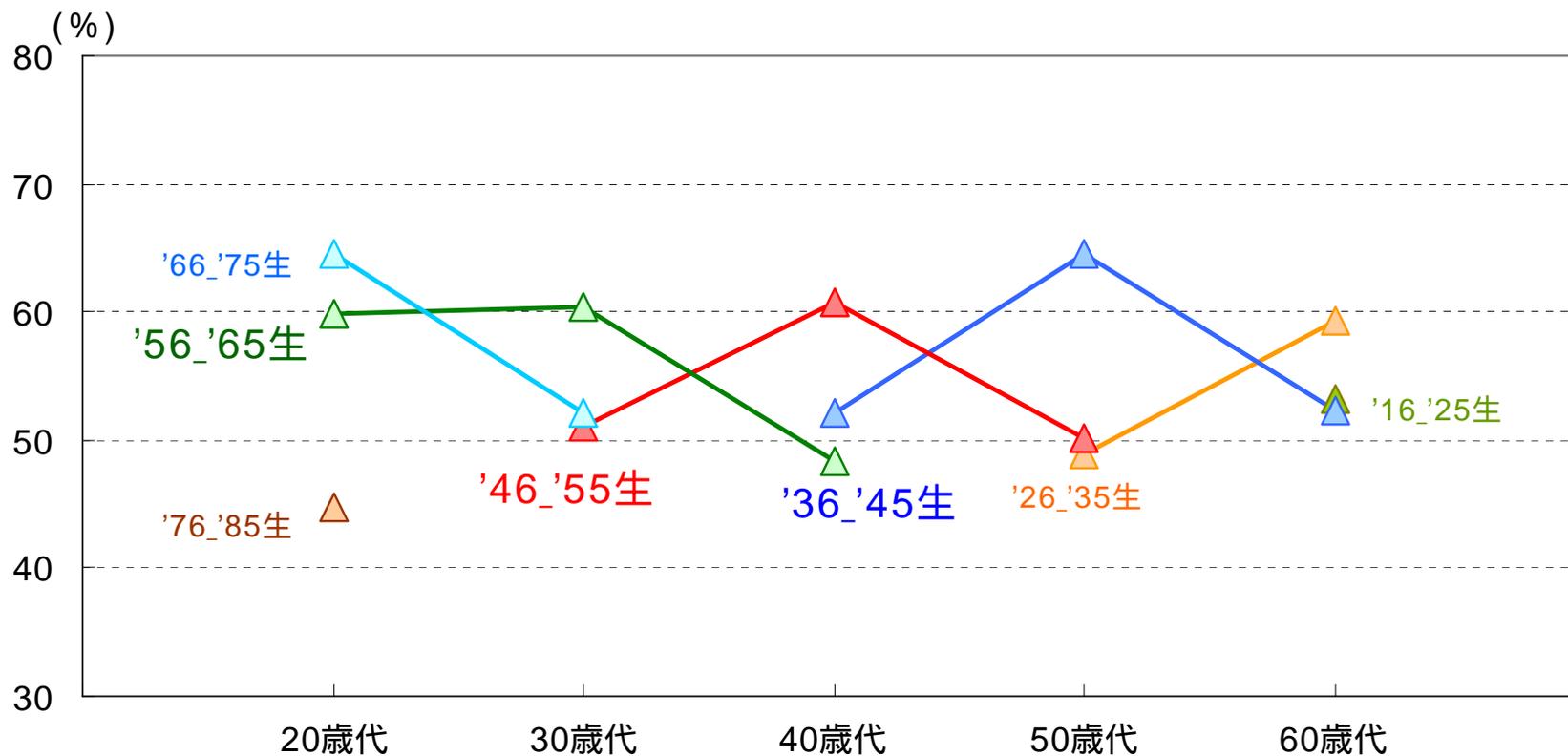
参加者1人あたり回数



「世代」に着目した 宿泊観光参加行動の時系列分析

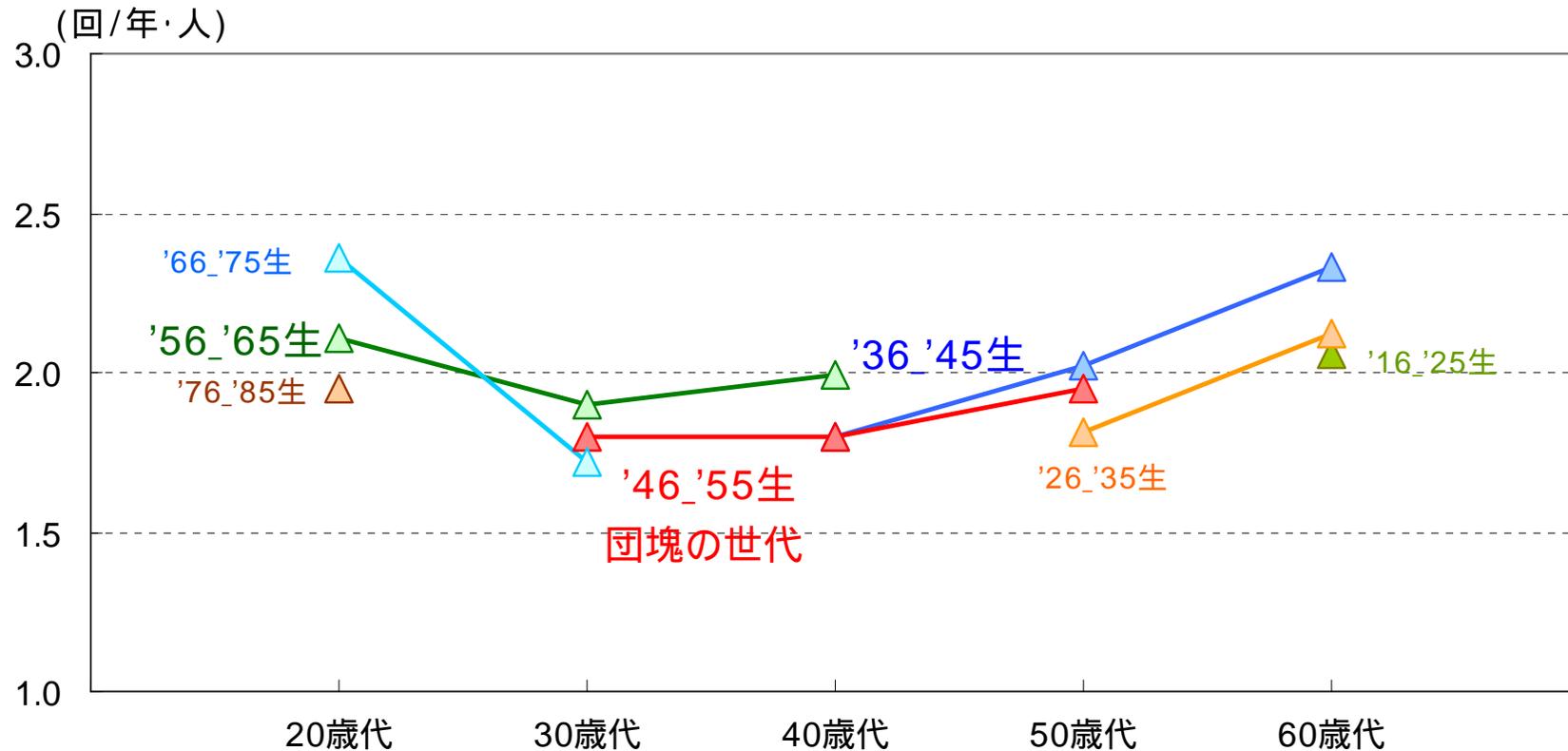


世代別の参加率の変化(全活動)



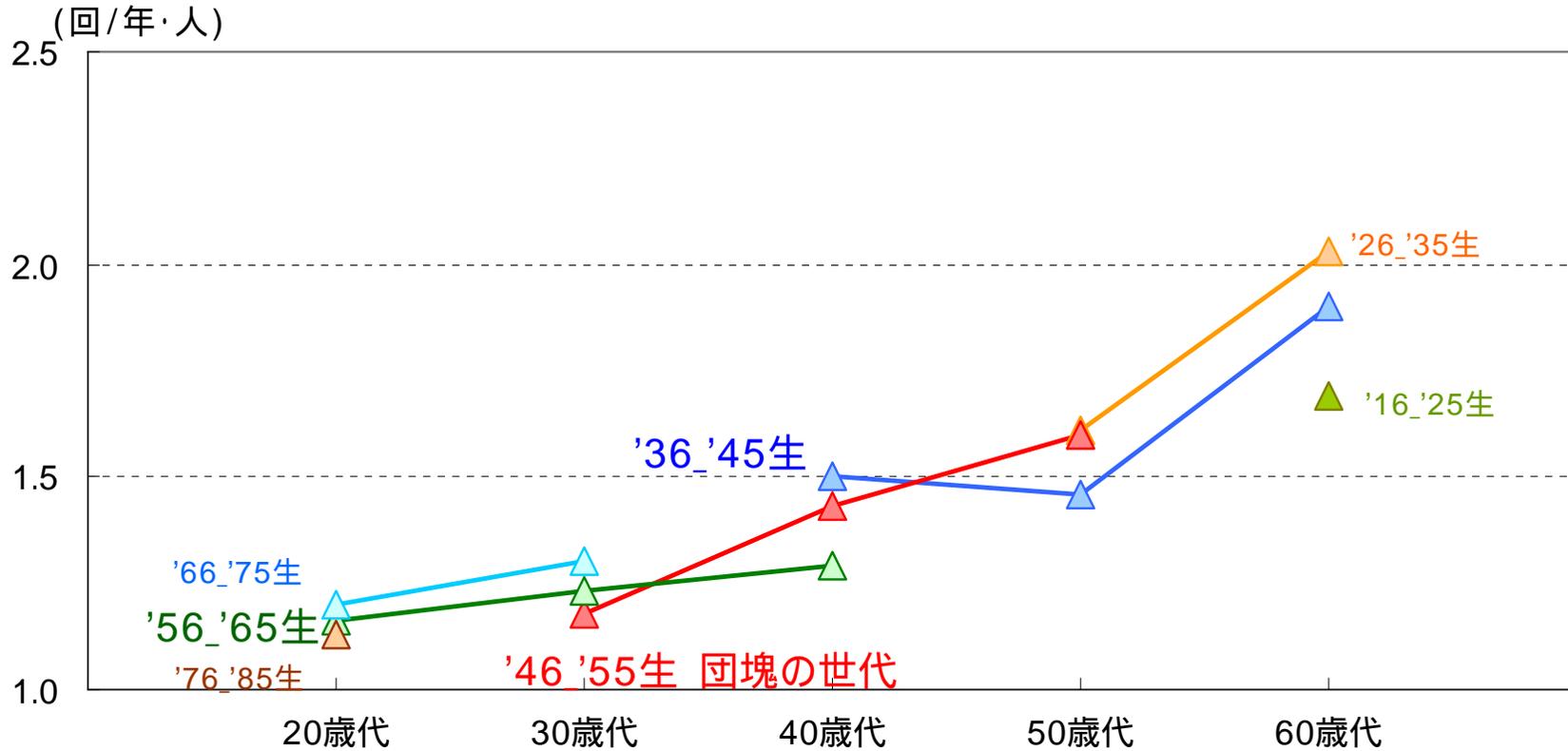
時代変化の影響が大きい

世代別の参加者1人あたりの回数の変化 (全活動)



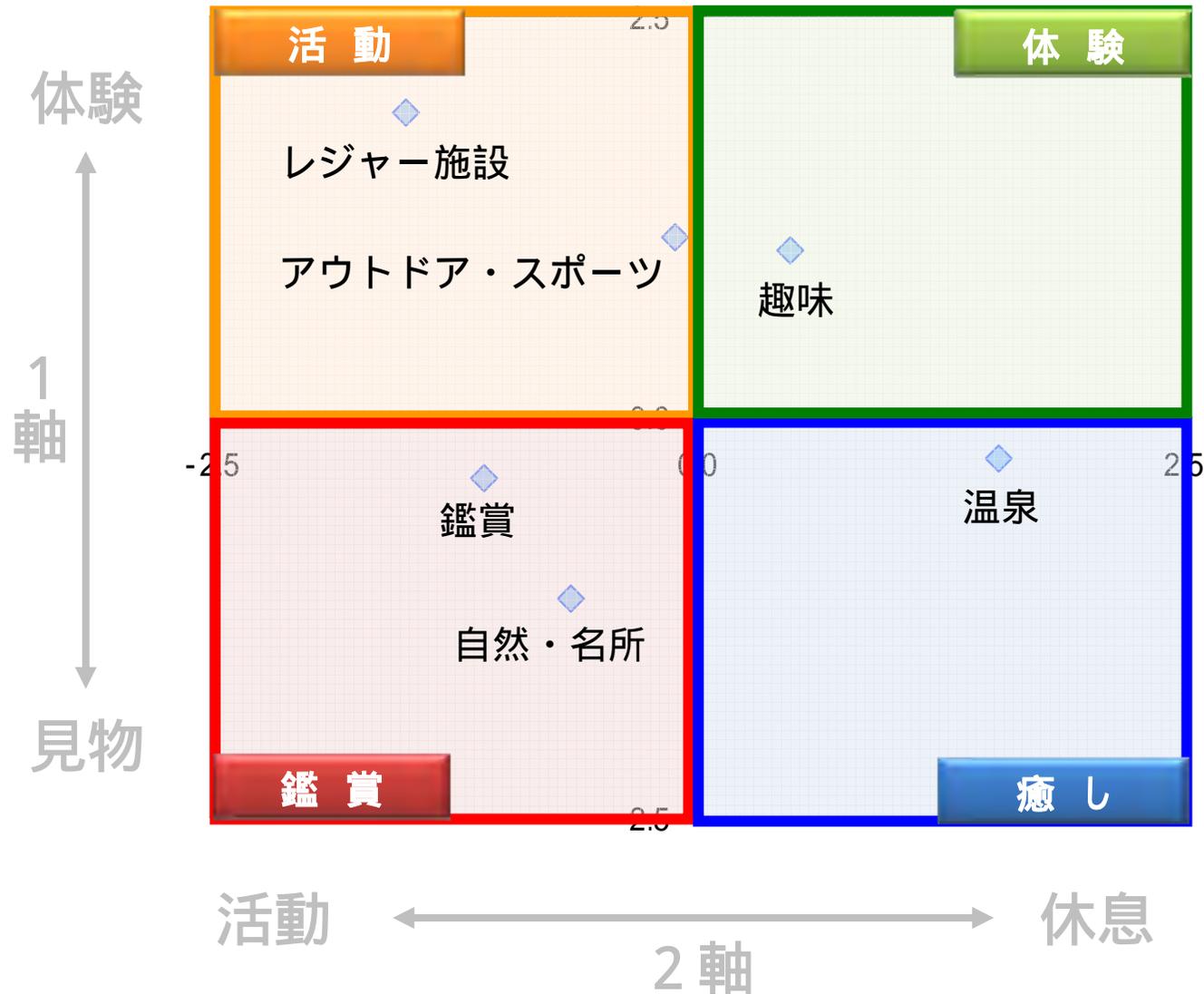
**世代の特徴が影響
団塊の世代は前後の世代より少ない**

世代別の参加者1人あたりの回数の変化 (温泉浴)

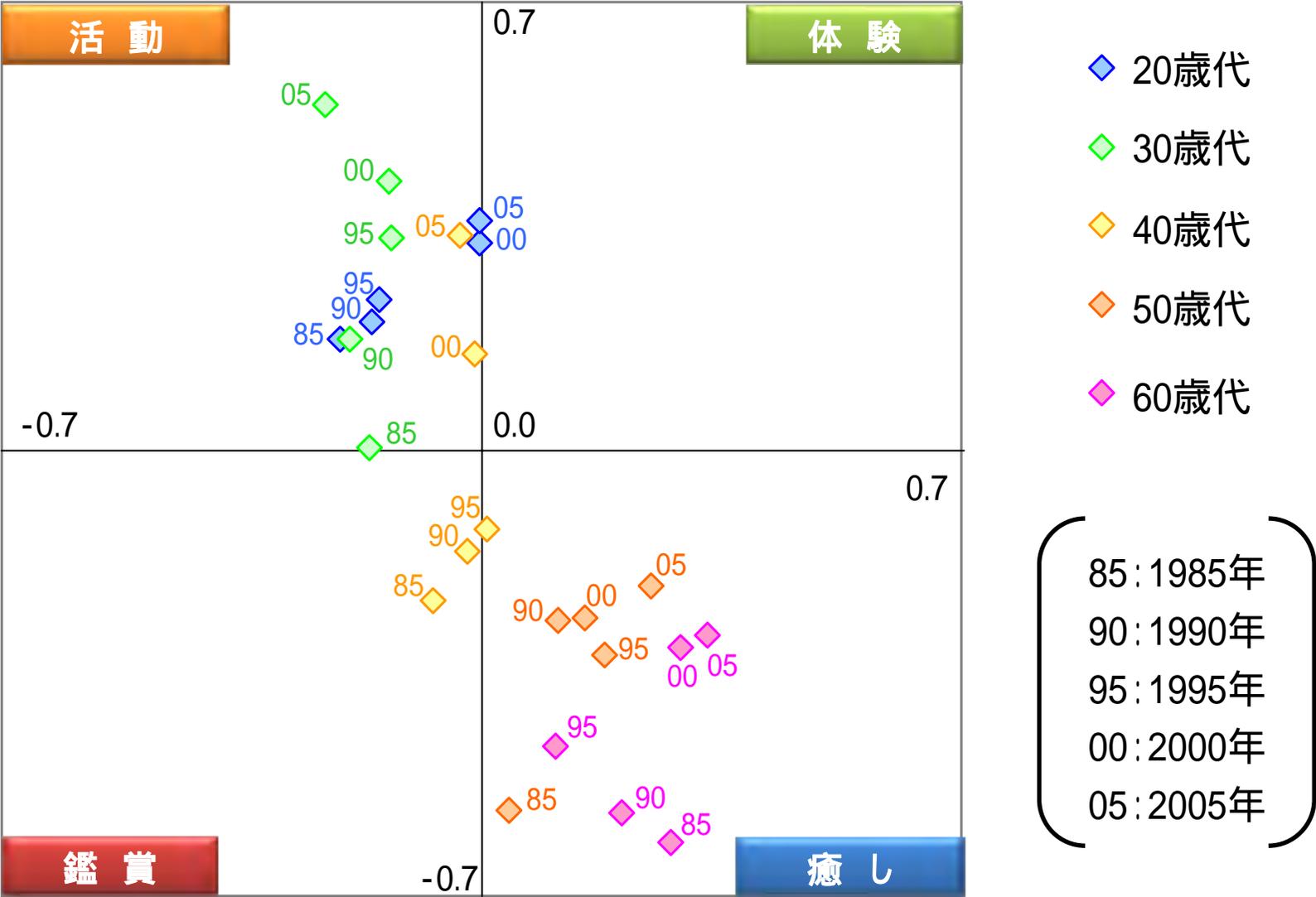


団塊の世代は、回数も多く、伸びも大きい

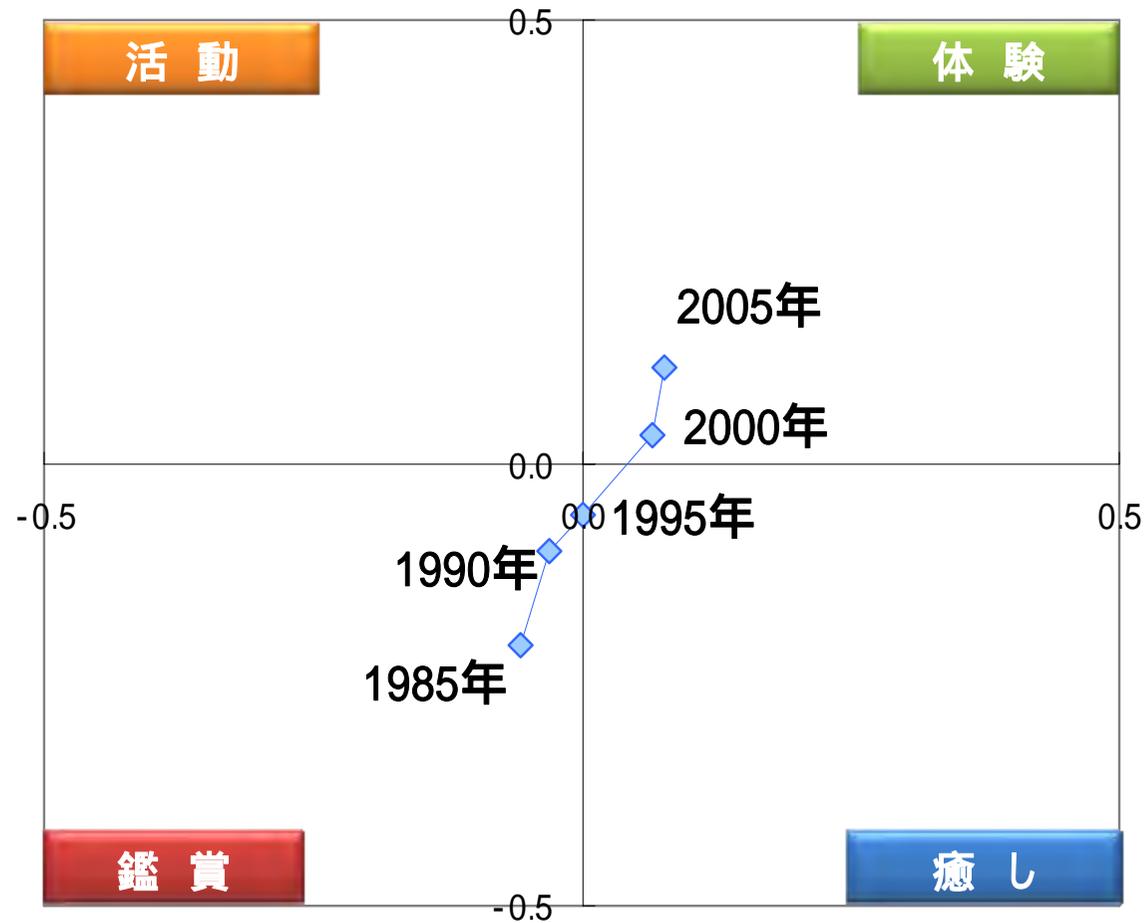
観光地における活動の散布図



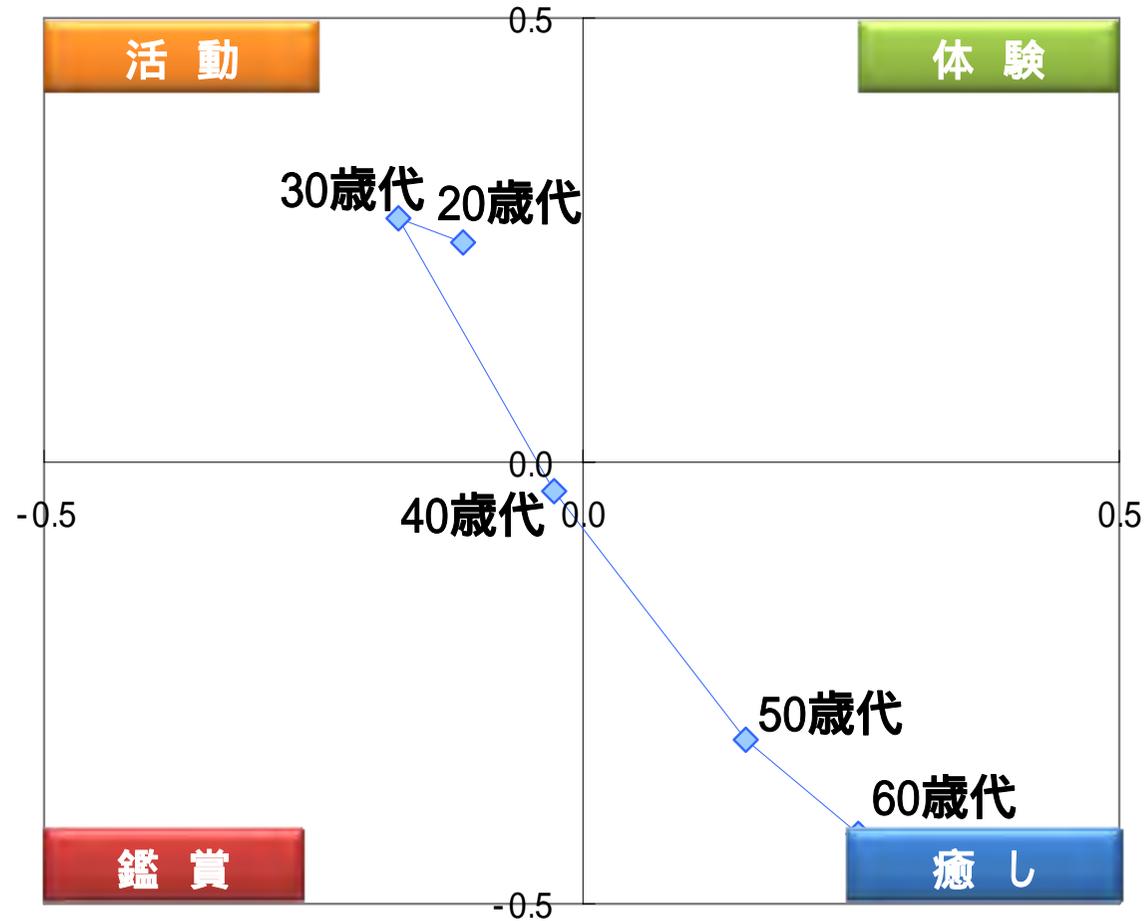
サンプルスコアの散布図



サンプルスコアの散布図(時代変化)



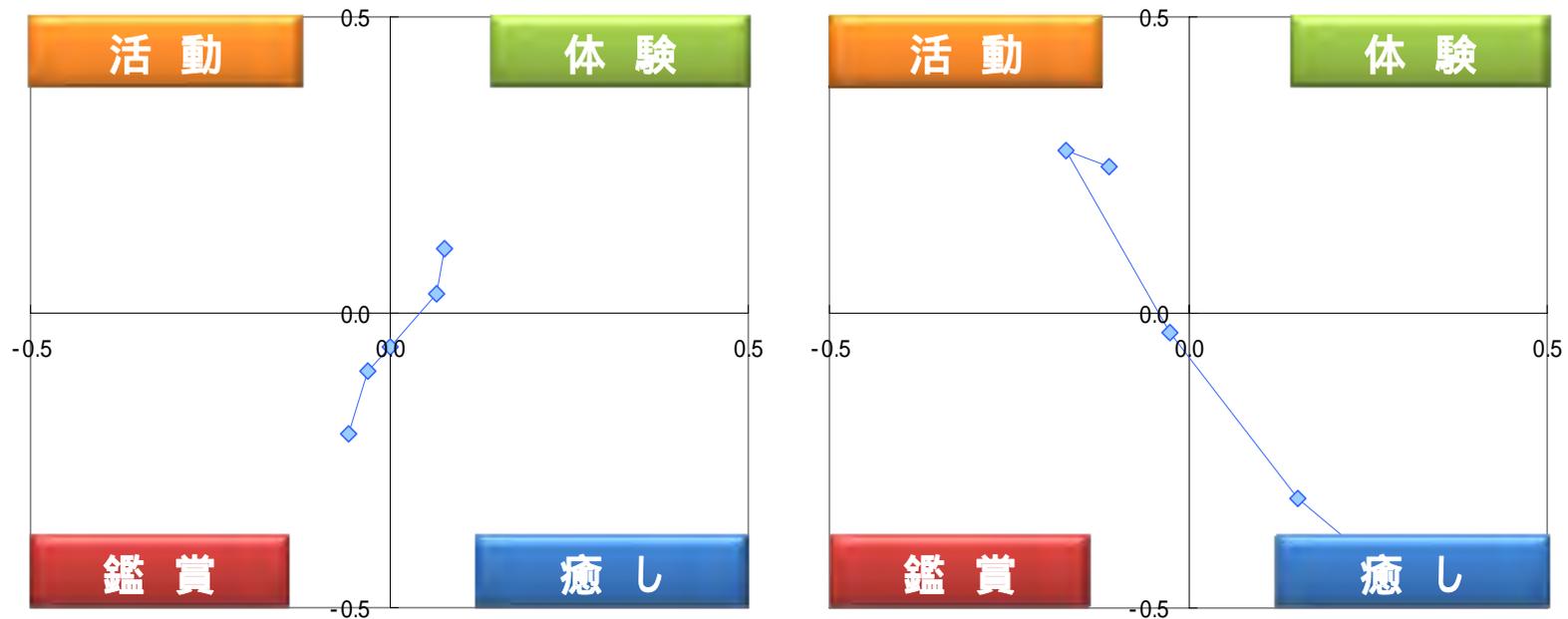
サンプルスコアの散布図(年代変化)



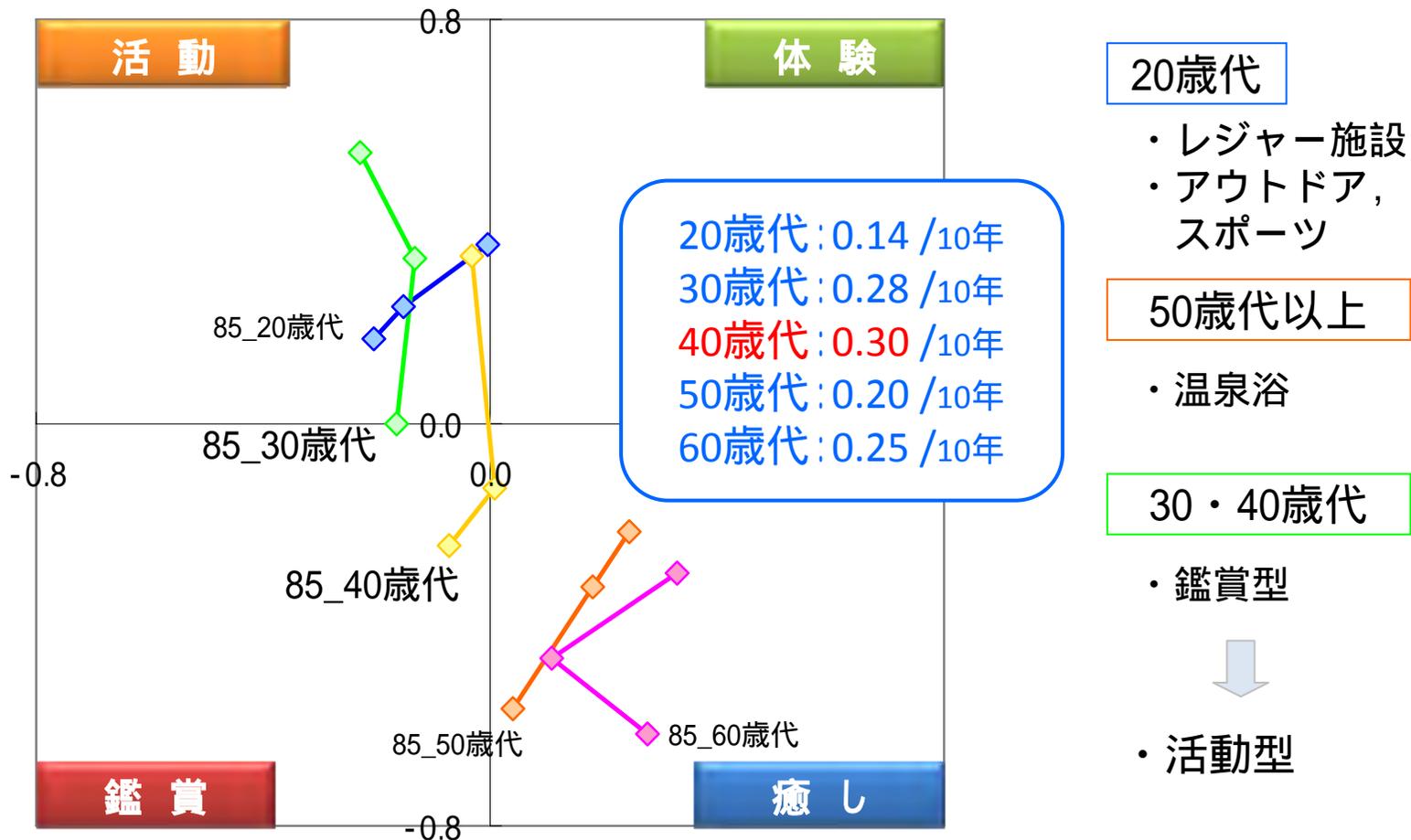
時代変化と年代変化の比較

時代変化 : 0.17 /10年

年代変化 : 0.22 /10年



サンプルスコアの平均値の散布図 (年齢階層別時代変化)



国内宿泊観光旅行者の動向のまとめ

個票データを用いたことにより、
参加者数と参加者1人あたりの回数の関係や
観光地における活動別の変化を、明らかにした

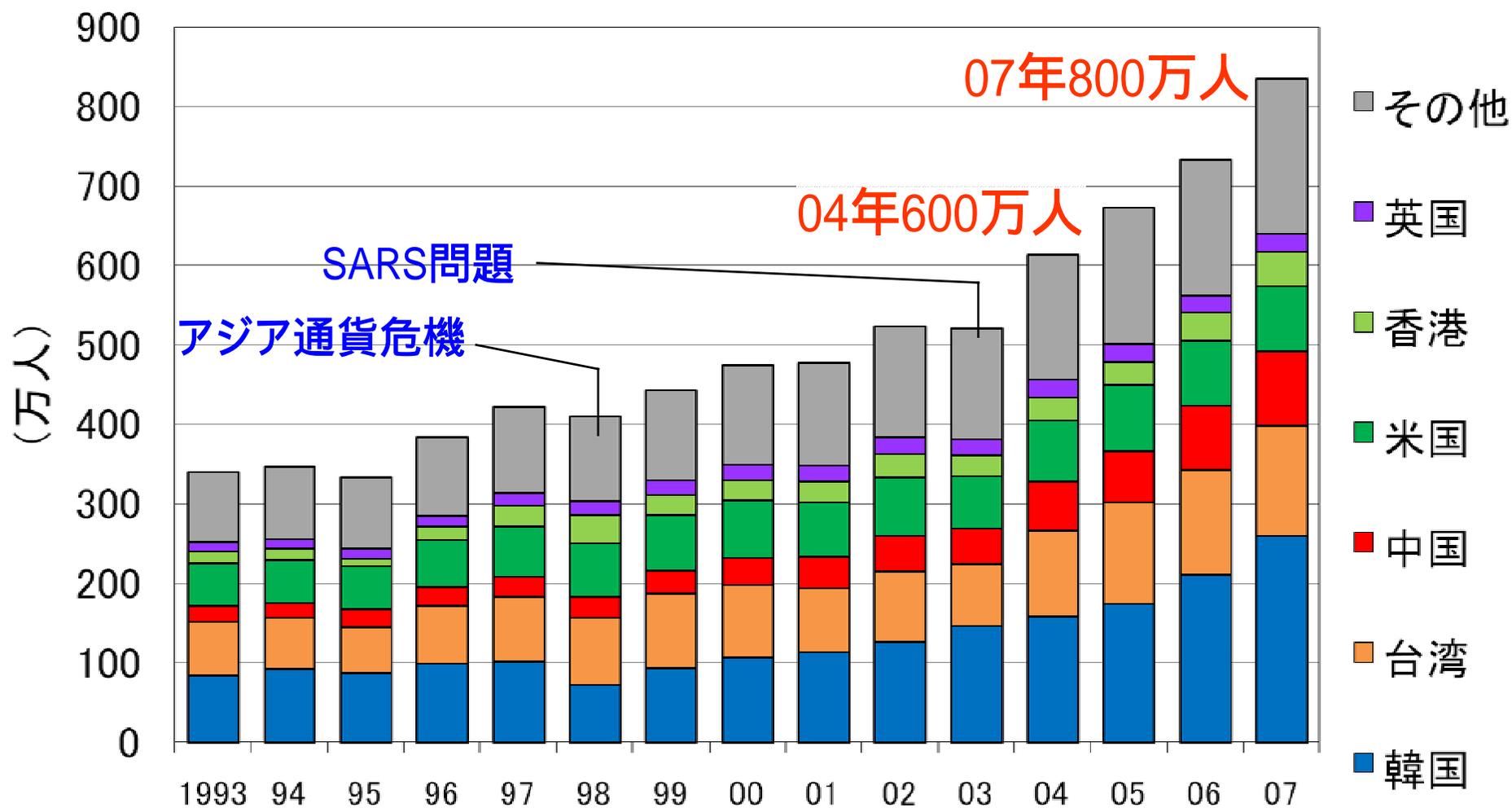
参加者数を増やす施策、参加者1人あたりの
回数を増やす施策、そのターゲット、タイミング

ターゲットを明確にし、適切な施策を行うことにより、年間数兆円程度の効果あり

観光需要の構造の変化を把握することが重要

3. 訪日外国人観光旅行者の動向

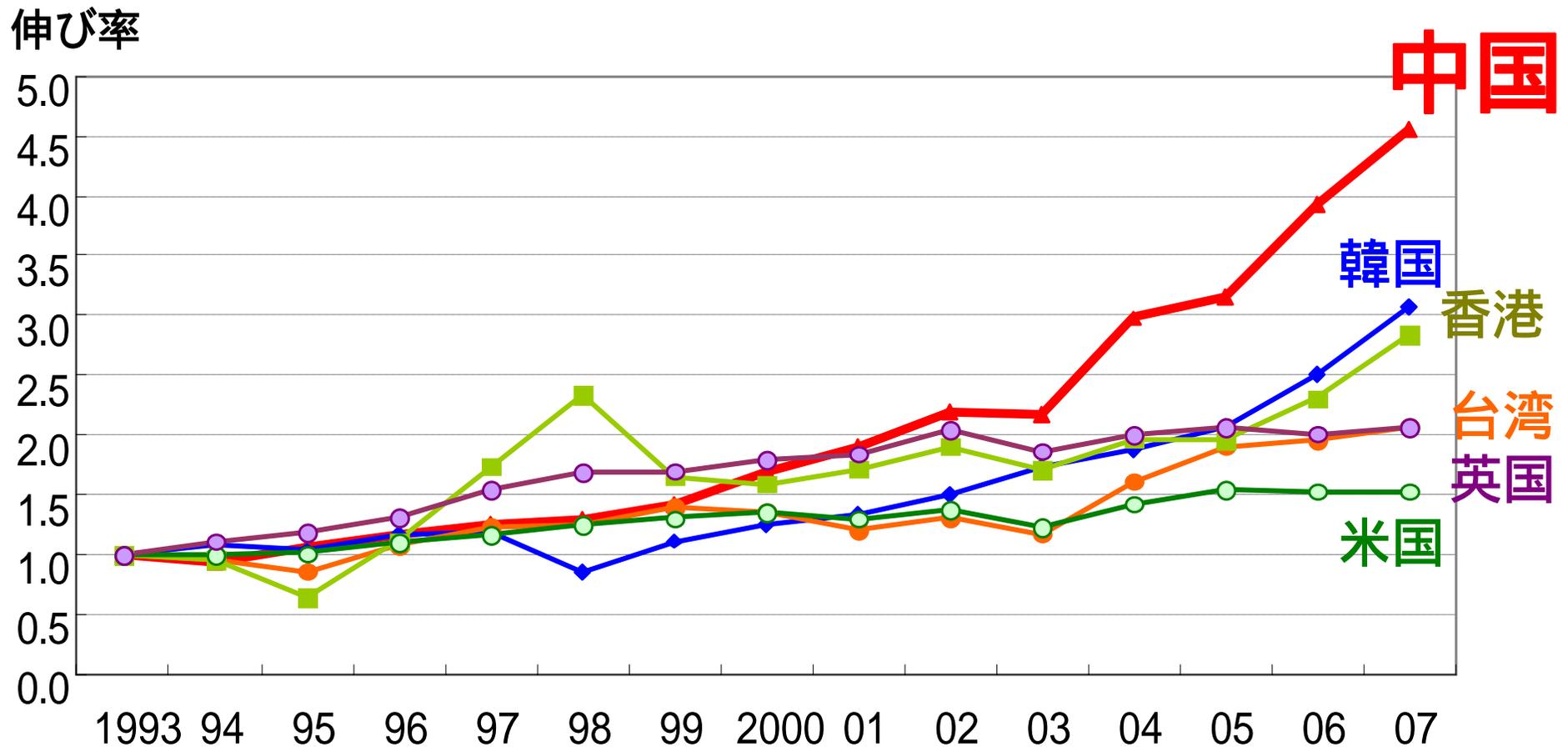
訪日外国人旅行者の国別割合



国際観光振興機構 (JNTO)データより作成

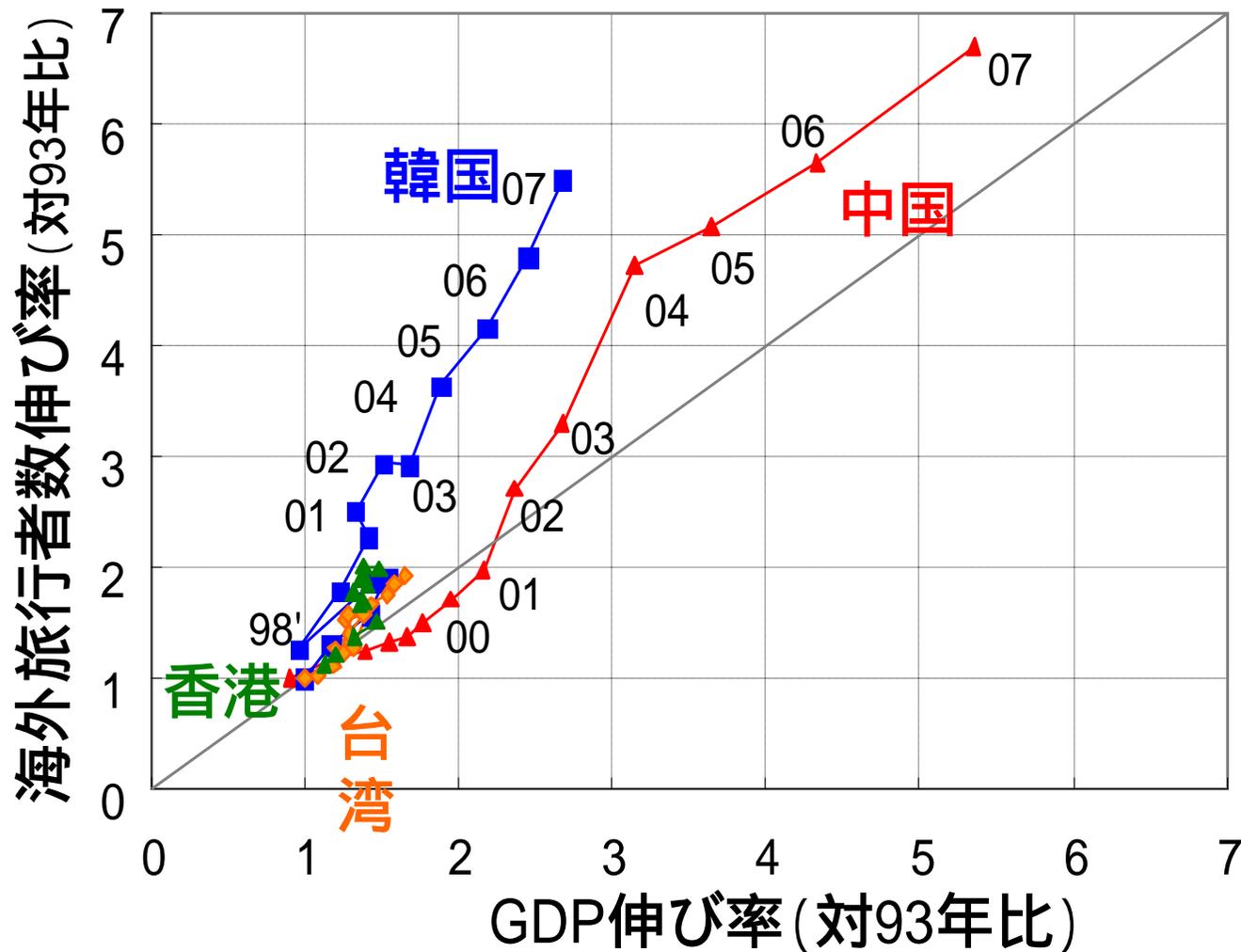
国別訪日外国人旅行者の伸び率

近年の**中国**の伸びが著しい



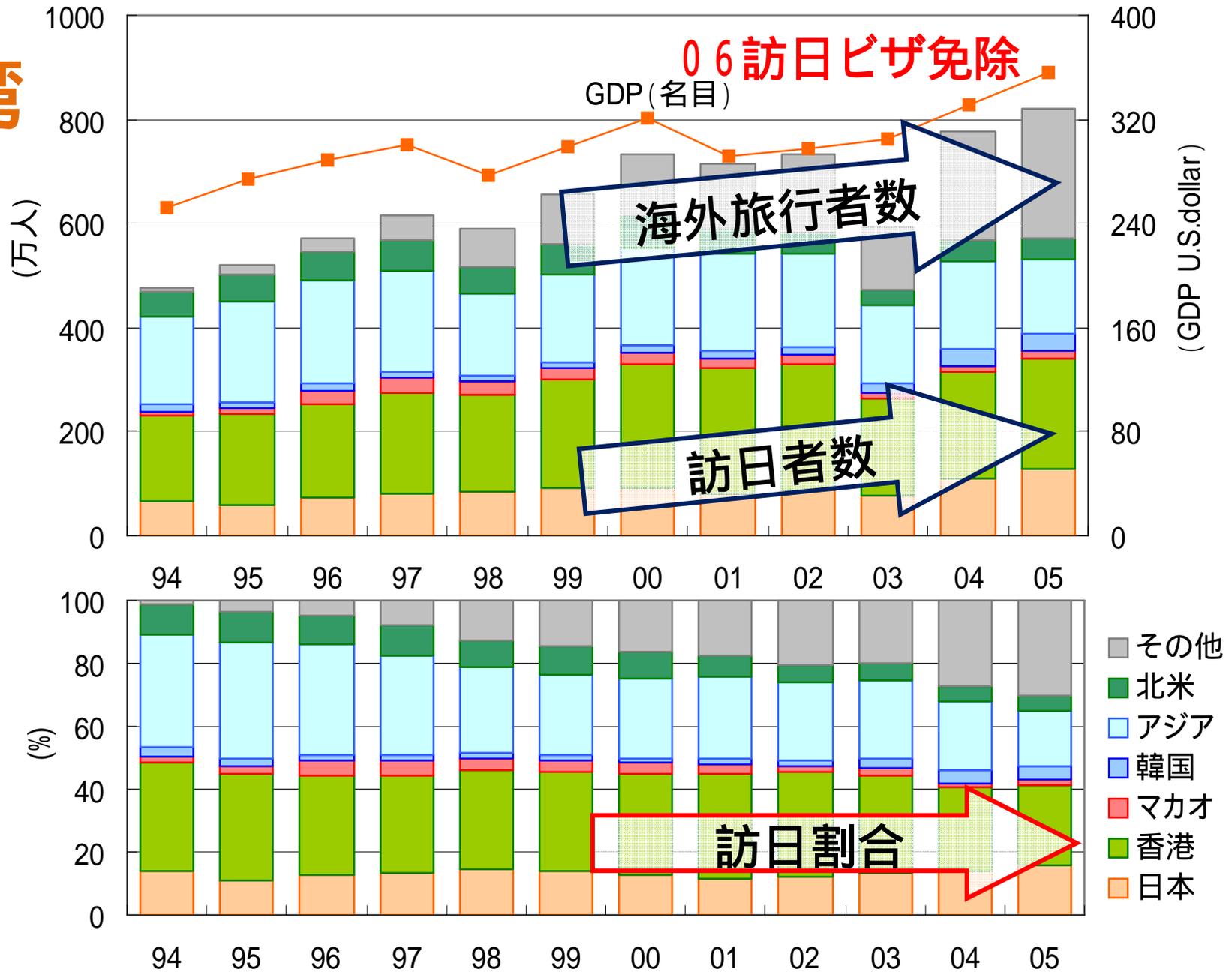
国際観光振興機構 (JNTO) データより作成

中国、韓国、台湾、香港の 海外旅行者の伸び率とGDPの伸び率の関係



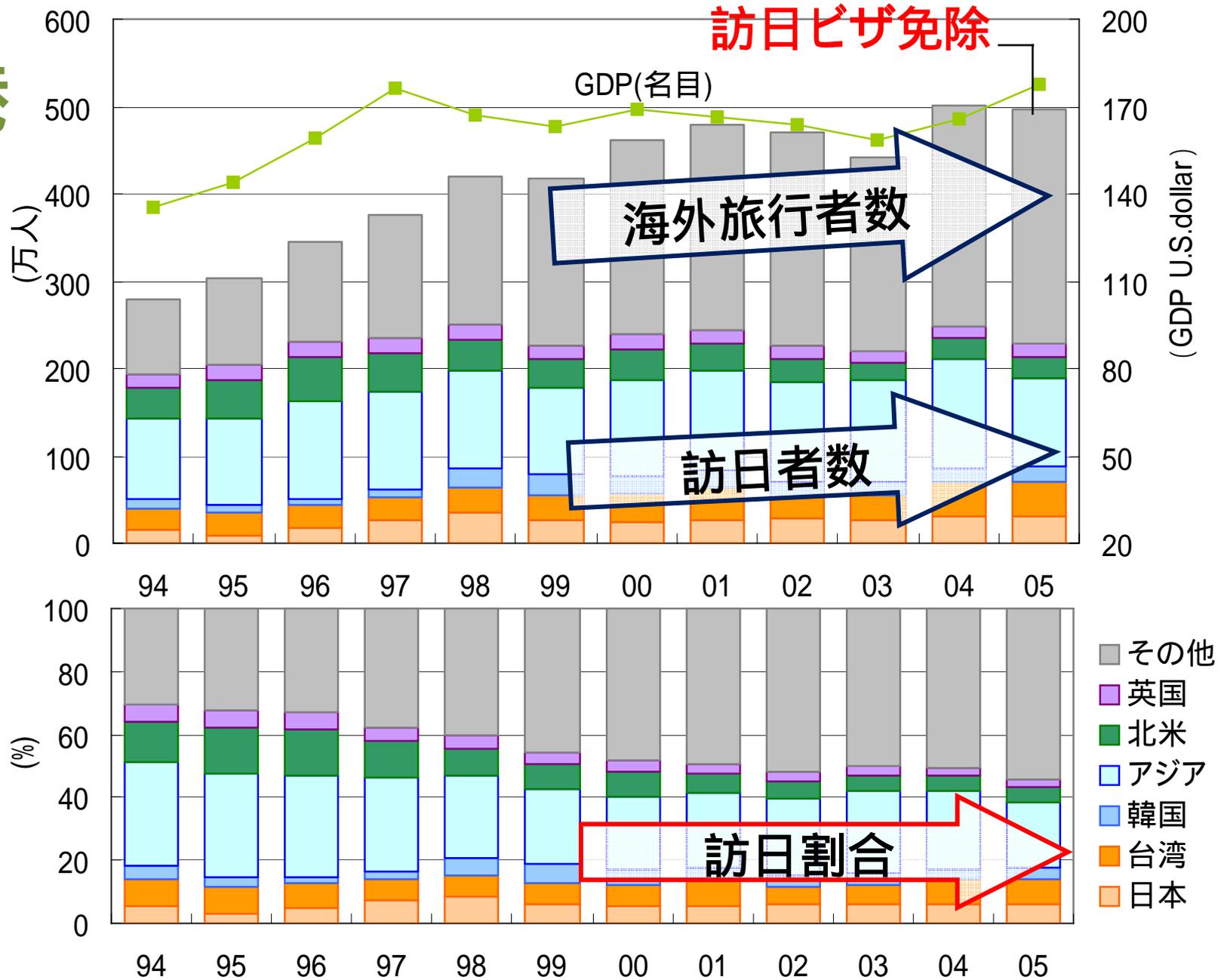
GDP: IMF、World Economic Outlook Database, October 2008 より作成
海外旅行者数: JNTOデータ

台湾



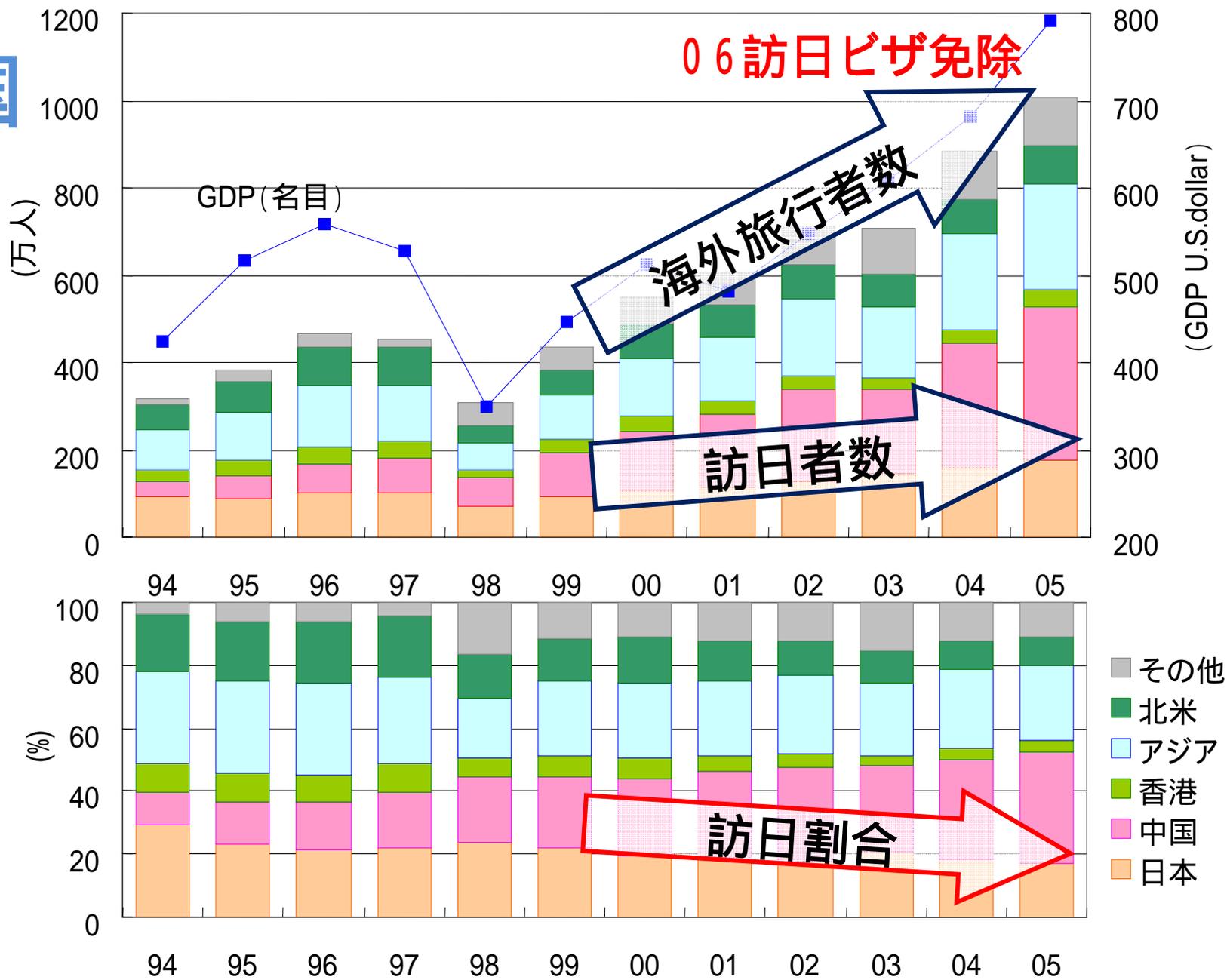
アジア：タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム
 海外旅行者総数・訪日外国人旅客数：JNTO、各国海外旅行者数：世界観光機関資料より作成

香港



アジア：タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム
 注) 海外旅行者数は中国、マカオ除く
 海外旅行者総数・訪日外国人旅客数：JNTO、各国海外旅行者数：世界観光機関資料より作成

韓国

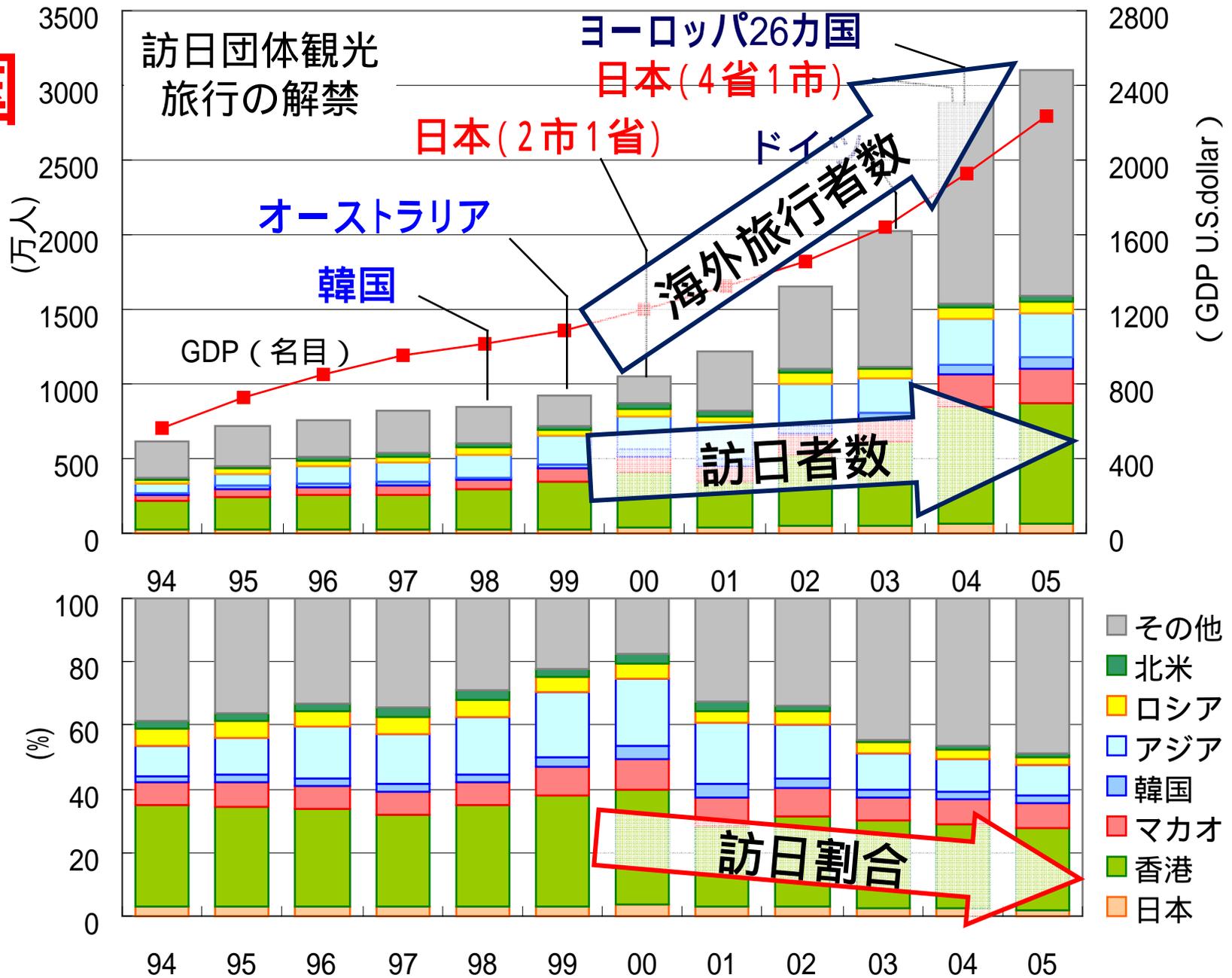


アジア：タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム

注) ベトナムは97、99年以降データあり

海外旅行者総数・訪日外国人旅客数：JNTO、各国海外旅行者数：世界観光機関資料より作成

中国



アジア：タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム
 注1) カナダは98年以降データあり、注2) 海外旅行者数は、香港、マカオ含む
 海外旅行者総数・訪日外国人旅客数：JNTO、各国海外旅行者数：世界観光機関資料より作成

中国に着目

中国は、2015年までに海外旅行者数は1億人(世界4位の観光客輸出国)

訪日外客数が8か月減少の中で、**中国**は前年同月の実績を上回る



しかし、訪日割合は減少…

中国からの旅行者に着目する

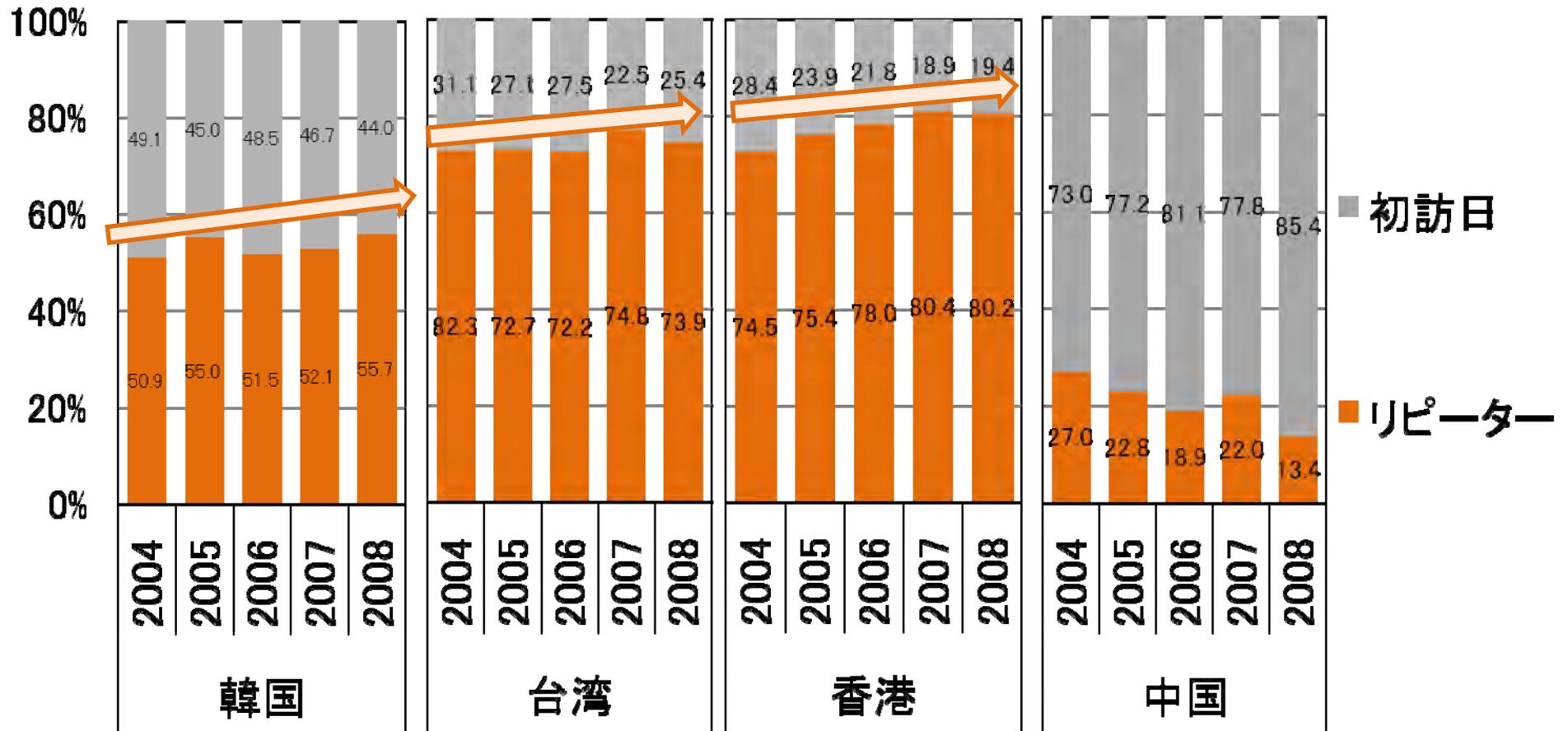
中国、韓国、台湾、香港からの訪日観光旅行者の現状分析

使用データ

調査名称	JNTO訪日外客訪問地調査
調査実施時期	2004年～2008年の夏・秋・冬データ (2008は夏秋のみ)
調査項目	1) 調査対象外客の居住国, 訪日目的, 訪日回数, 旅行形態, 同伴者, 訪日動機など 2) 日本旅行中の訪問地, 滞在期間, 宿泊地など 2006年度以降データについては, 中国, アメリカに関しては各省別及び各州別に居住地域データ有
分析対象	観光目的のみの訪日外国人旅行者
サンプル数	中国(1793), 韓国(8037), 台湾(6928), 香港(2654)

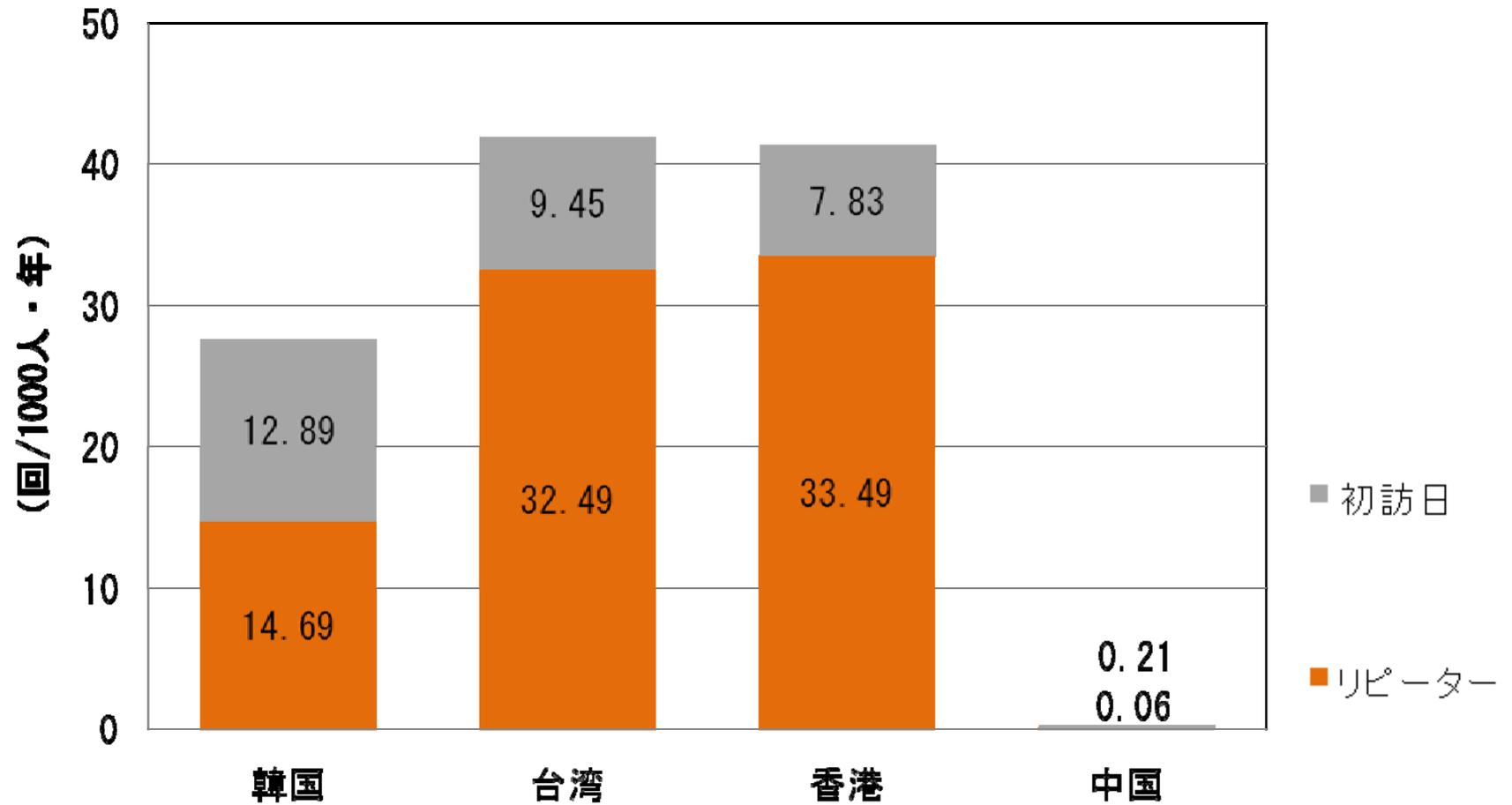
国際観光振興機構(JNTO) との共同研究として実施

訪日回数



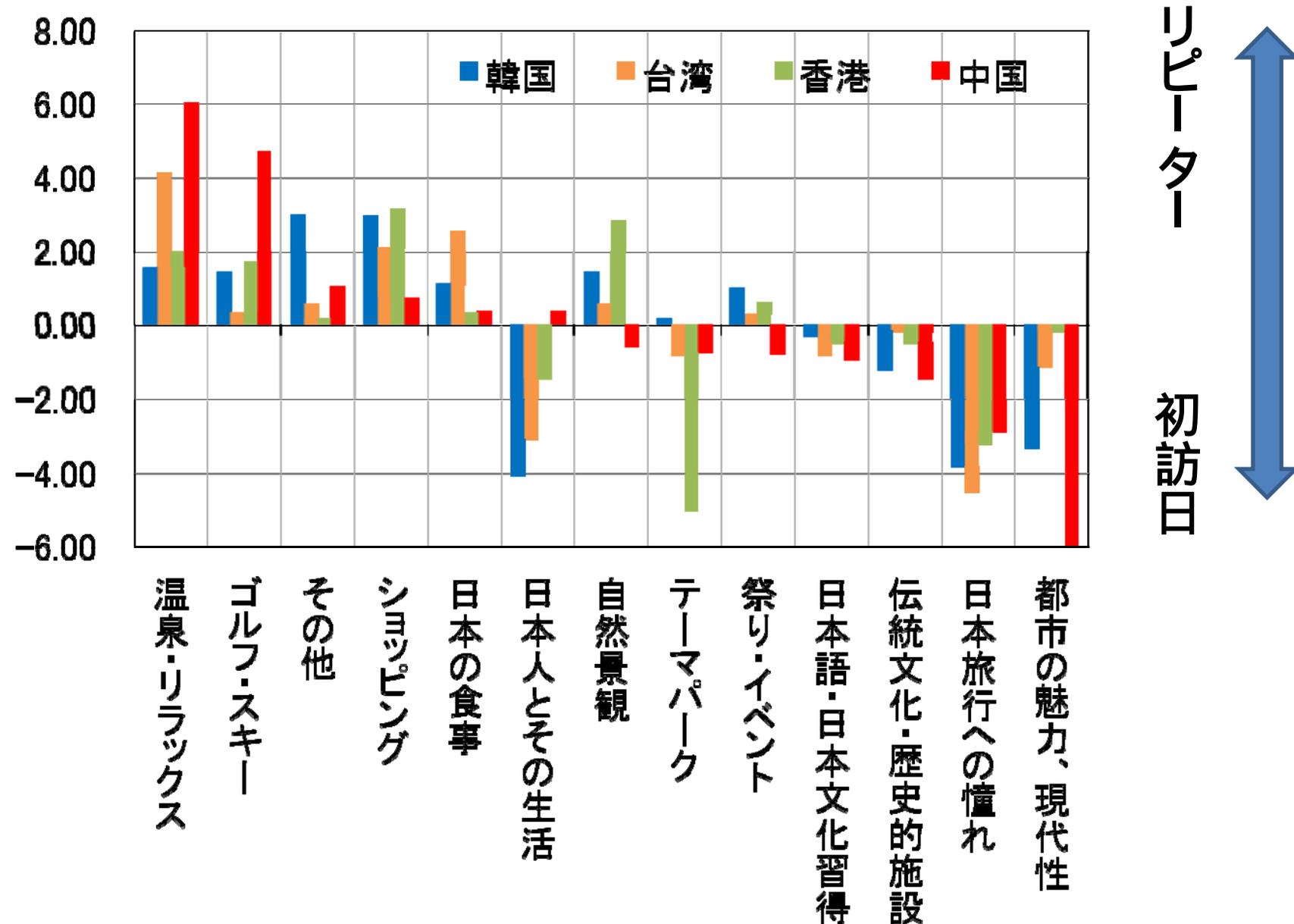
韓国, 台湾, 香港でのリピーターが増加している
中国は初訪日旅行者が多い

人口1000人あたり訪日回数(2007年)

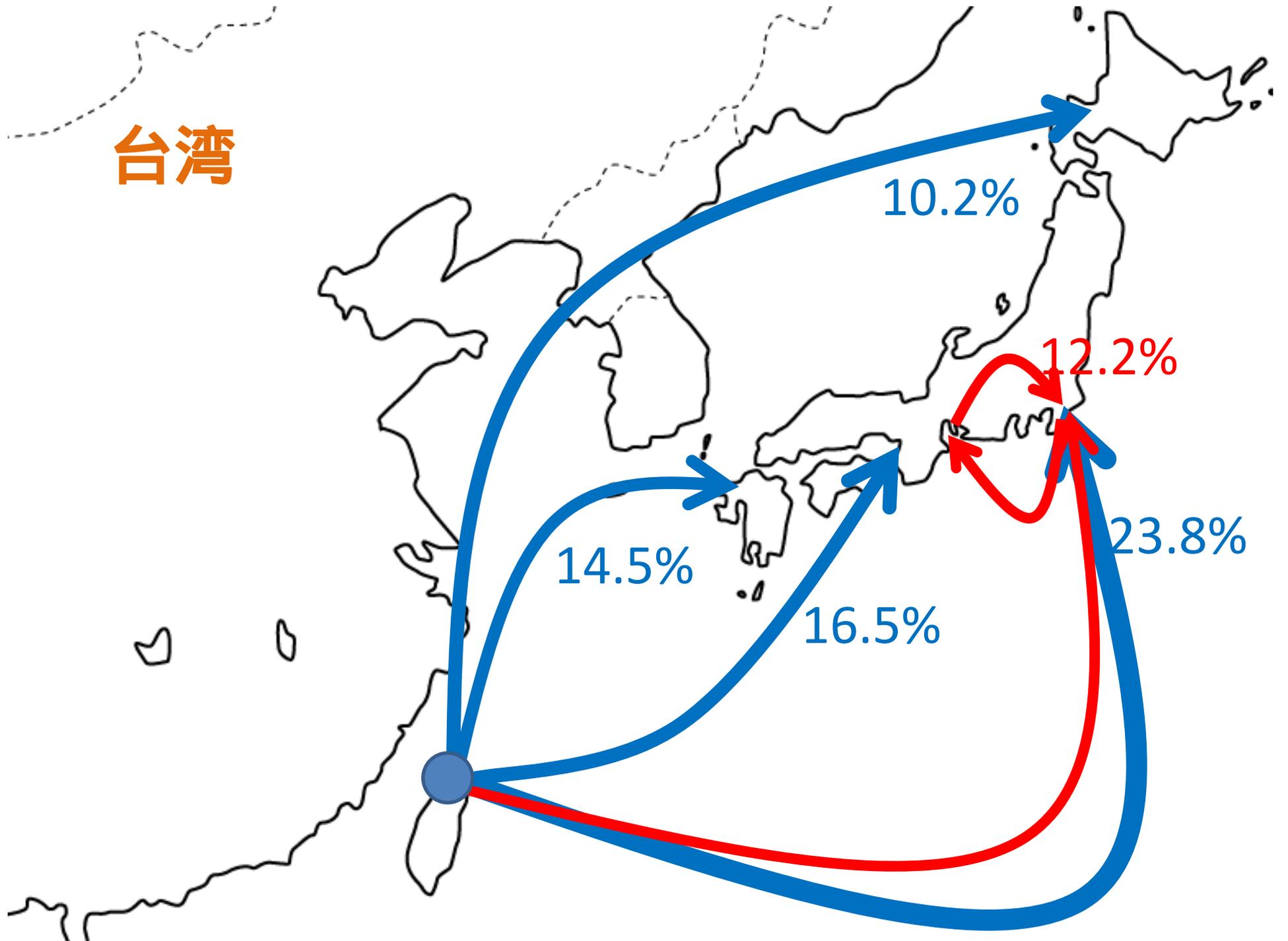


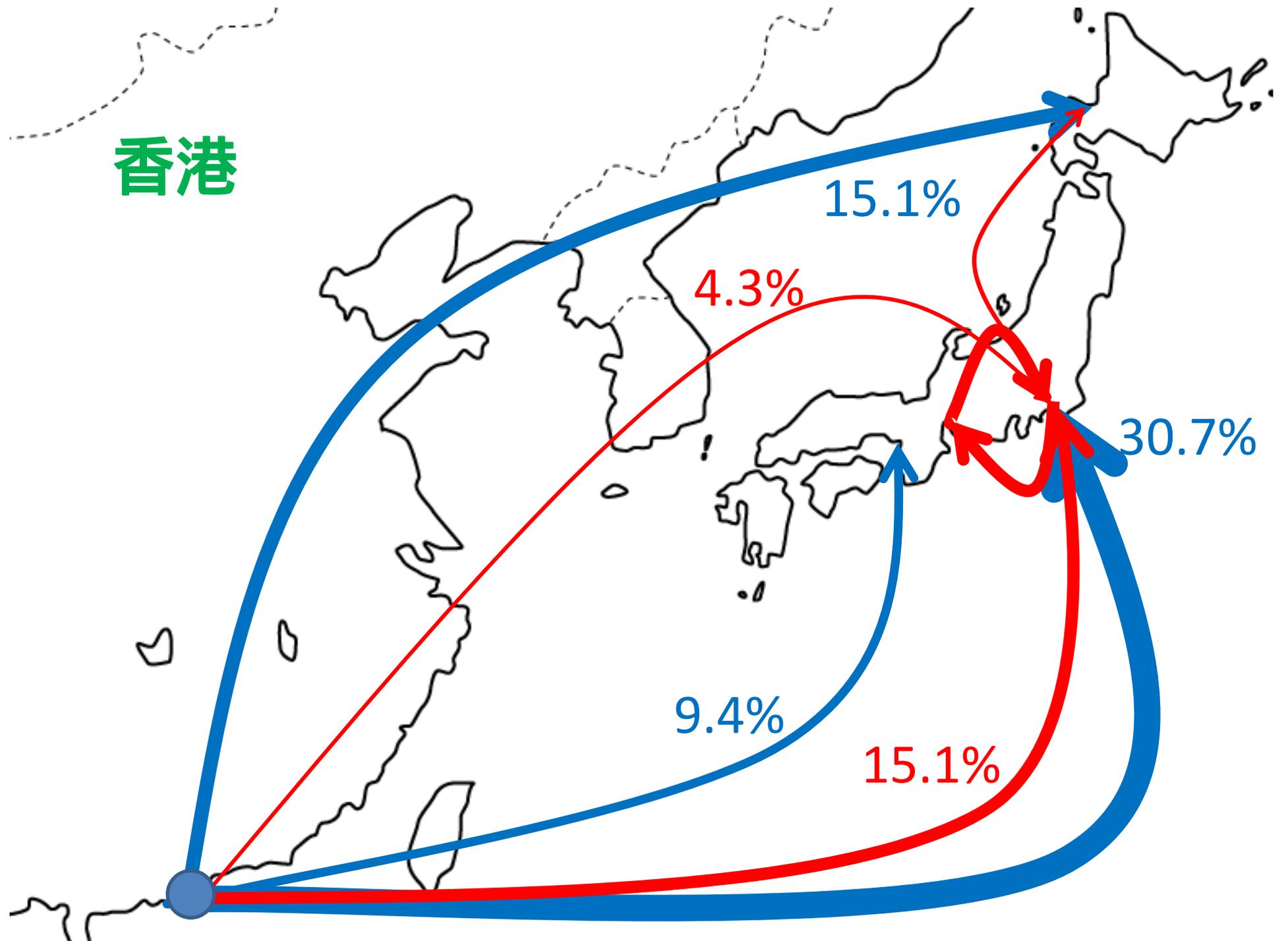
中国では人口あたりの訪日旅行者数が少ない

初訪日とリピーターとの訪日動機の違い(2006年)

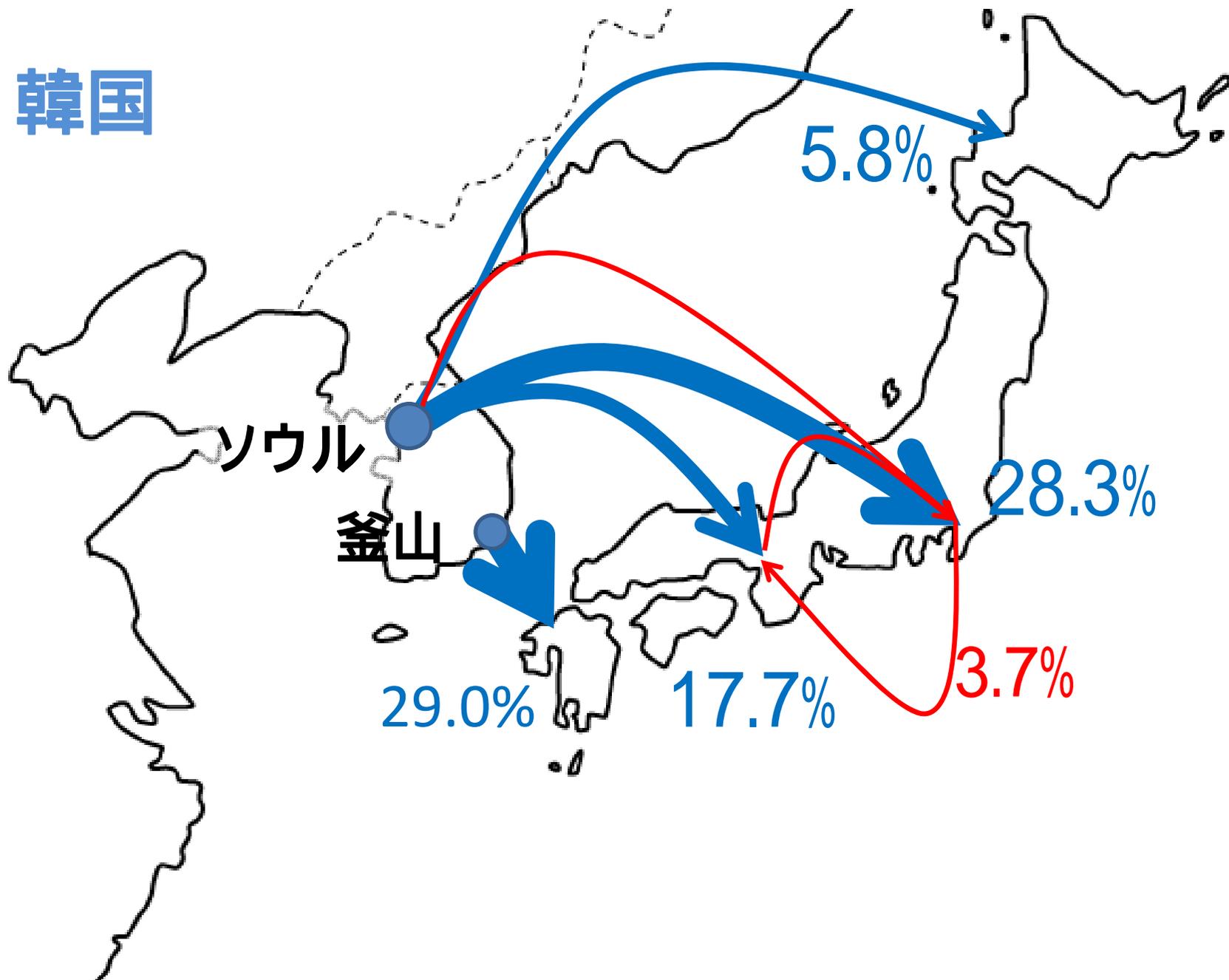


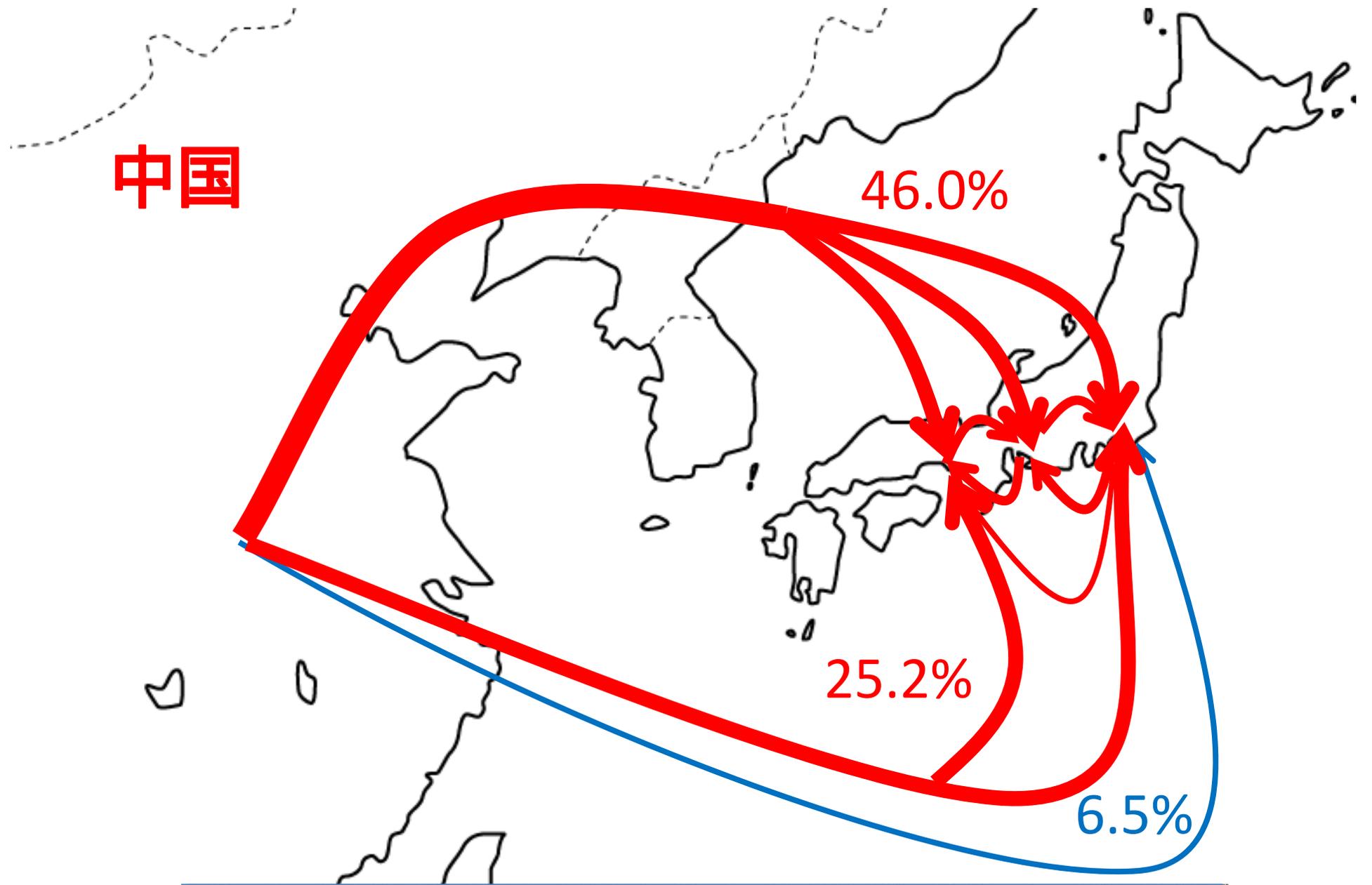
台湾





韓国





複数の都市を訪問する割合が高い

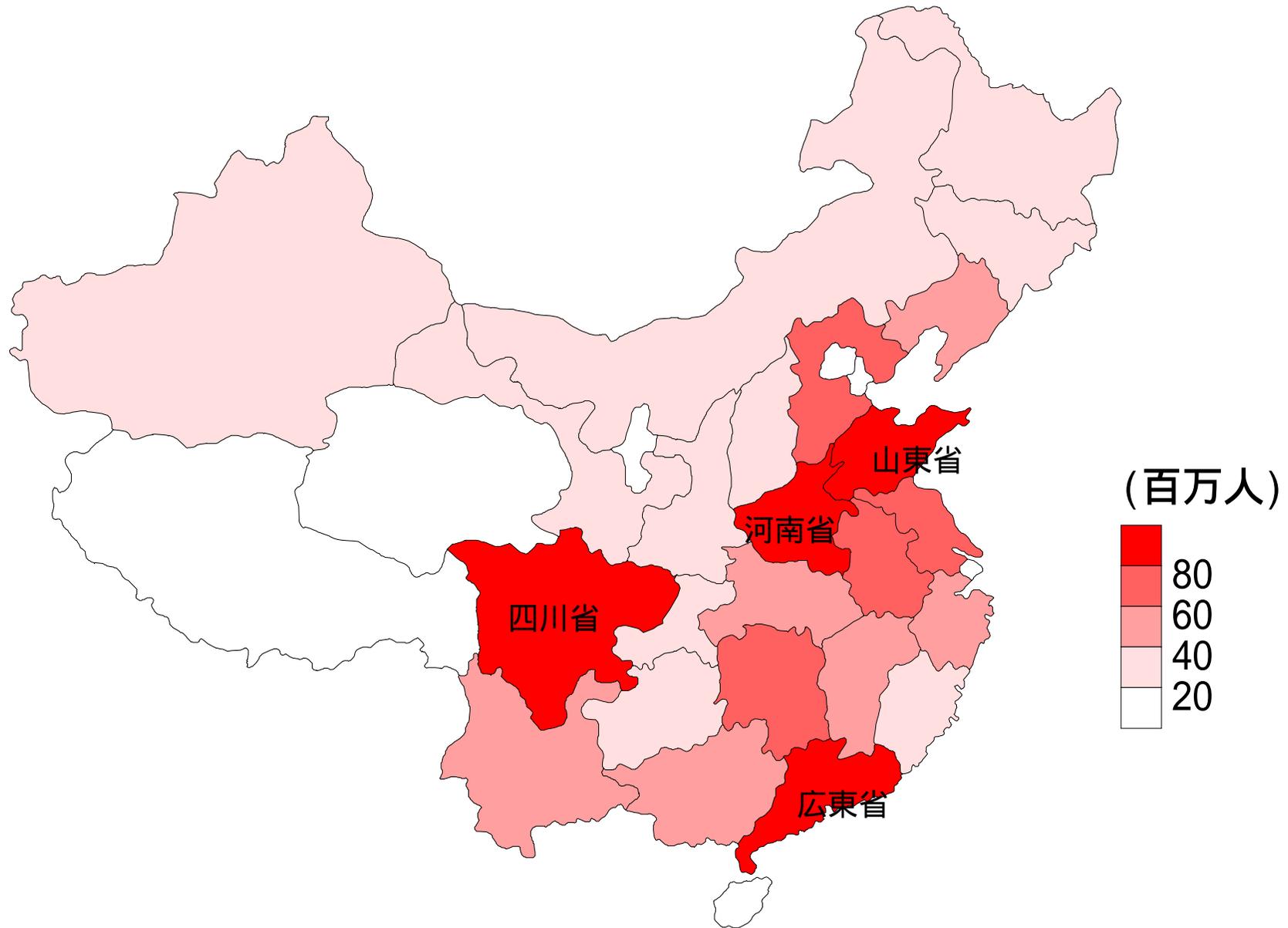
本分析の焦点

国(地域)によって大きな差

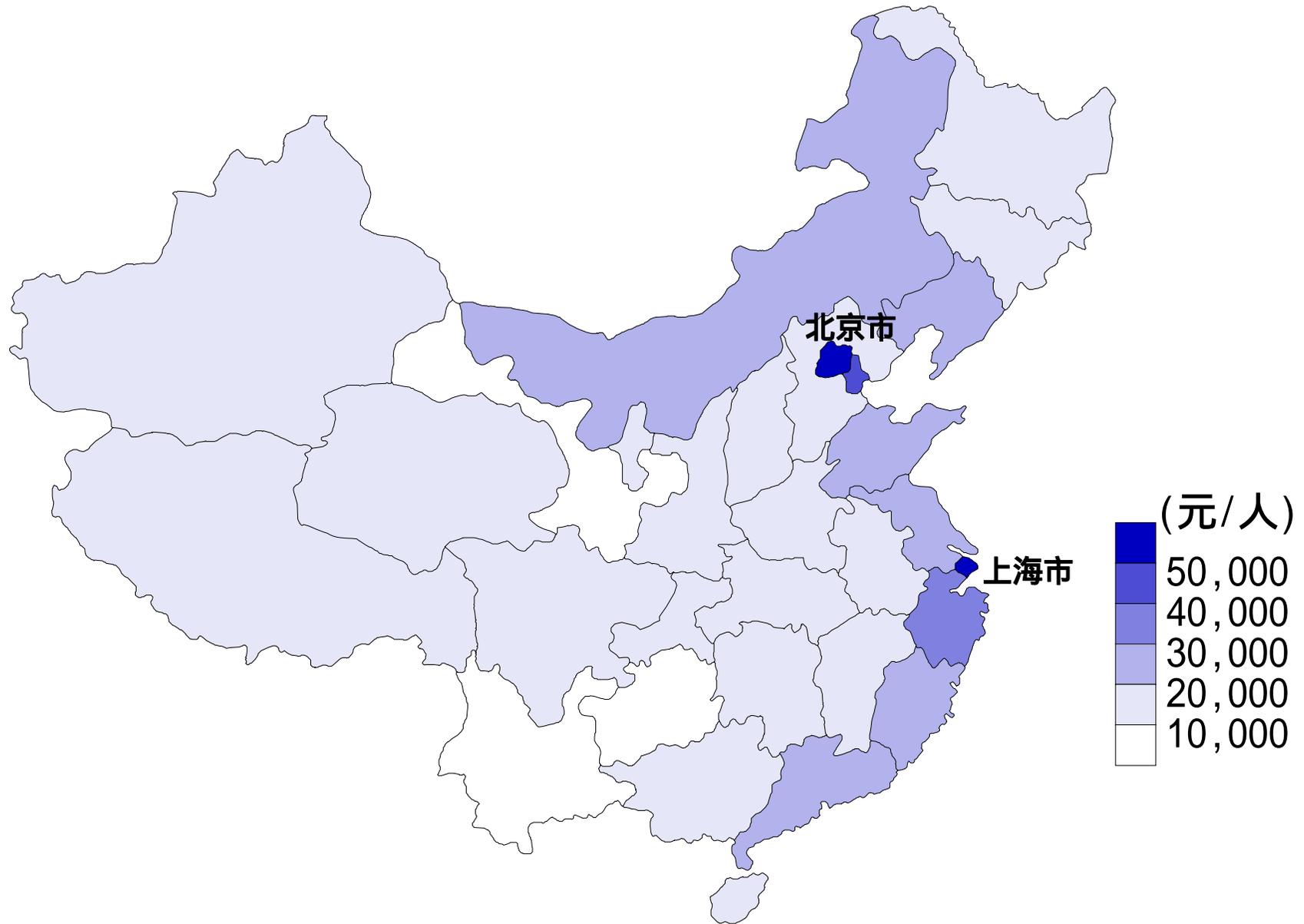
**中国は国土も広く、地域格差も大きいいため、
地域によって特徴が大きく異なる**

**中国を1つの国として捉えるではなく、
いくつかの地域に分割して分析する必要がある**

人口 (2006年)

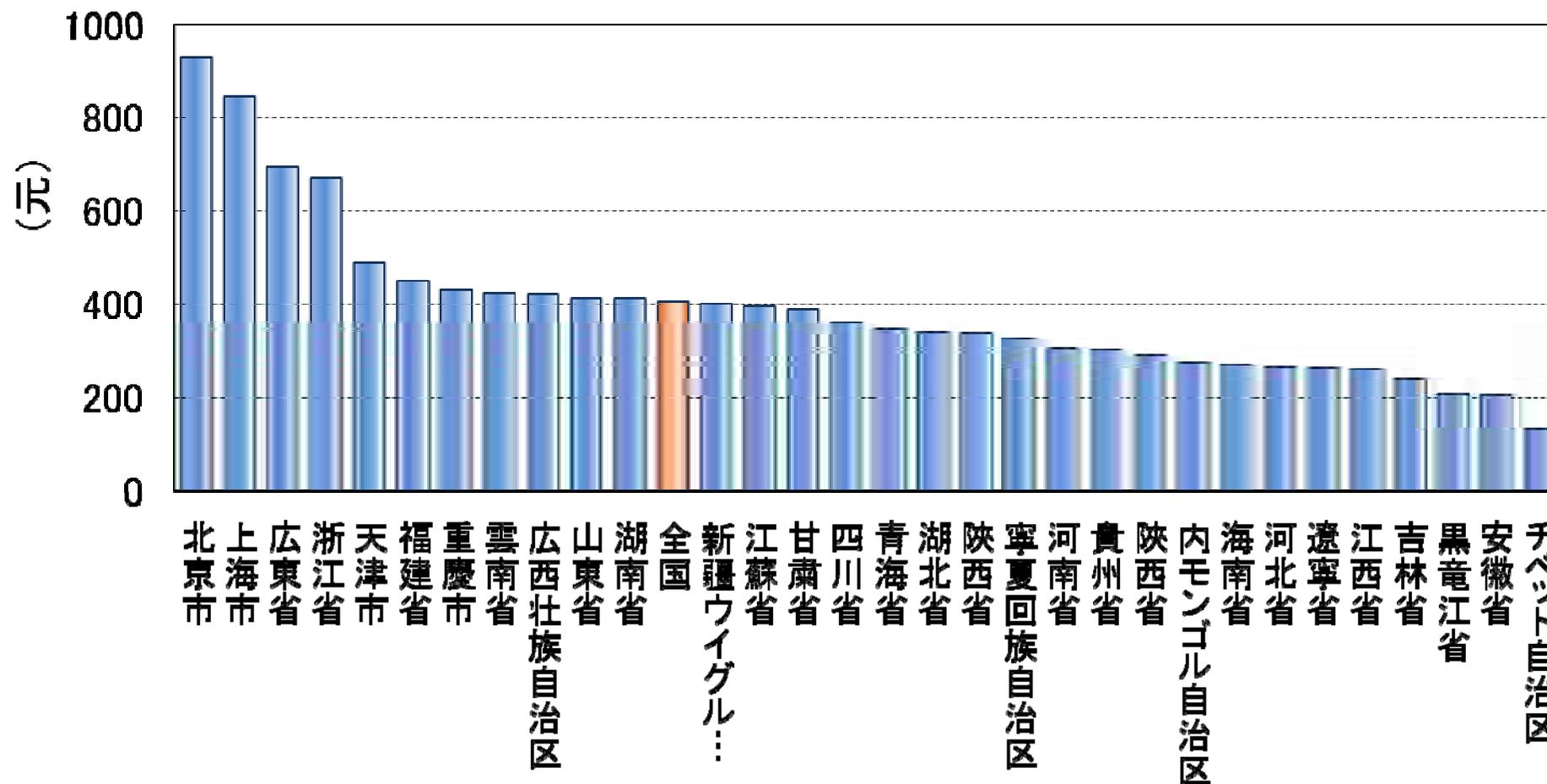


1人あたりGDP (2006年)



行政別の文化・娯楽の消費構造

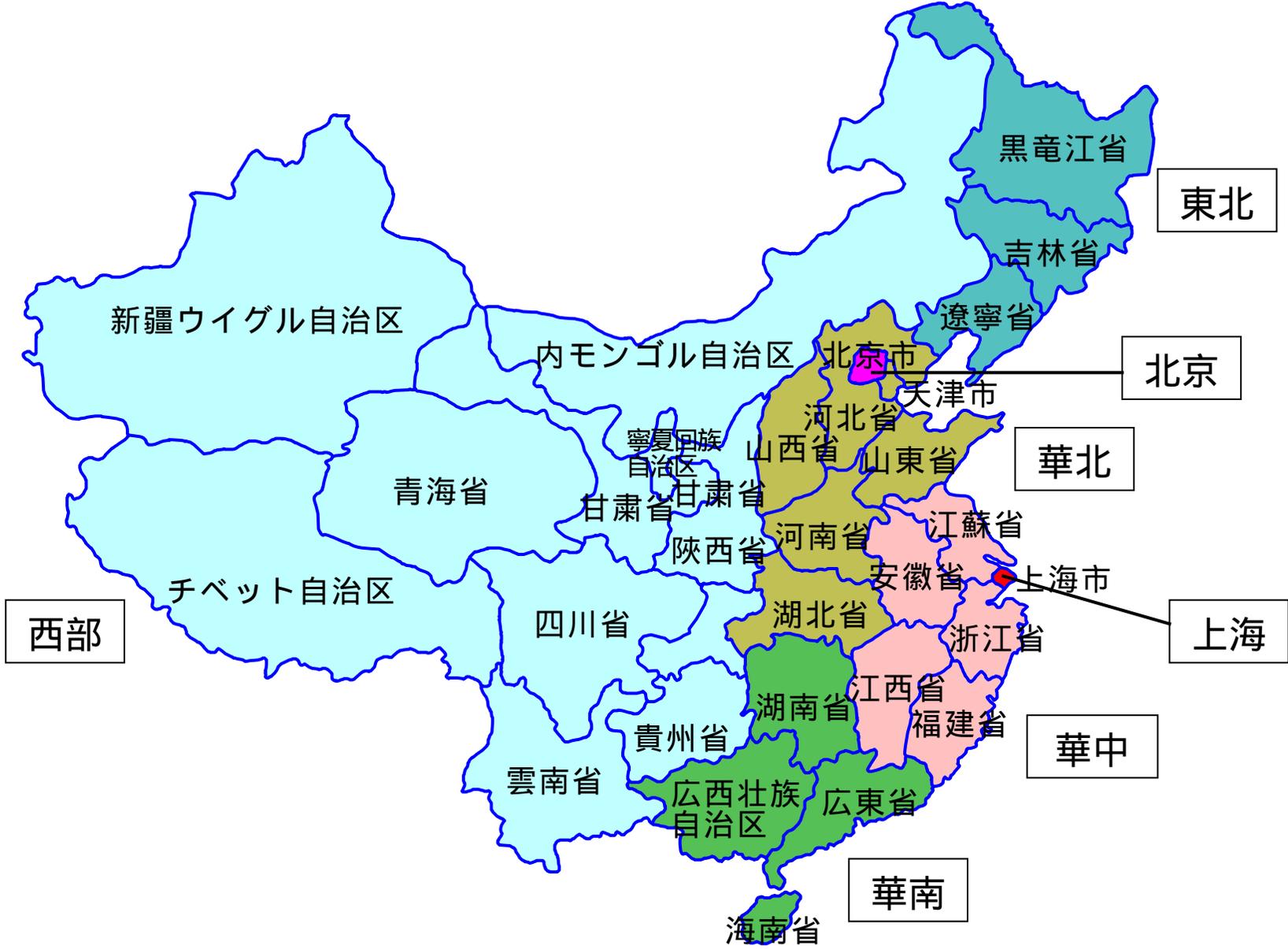
省別の「都市家庭の文化・娯楽の1人あたり消費支出」(2002年)



【参考】

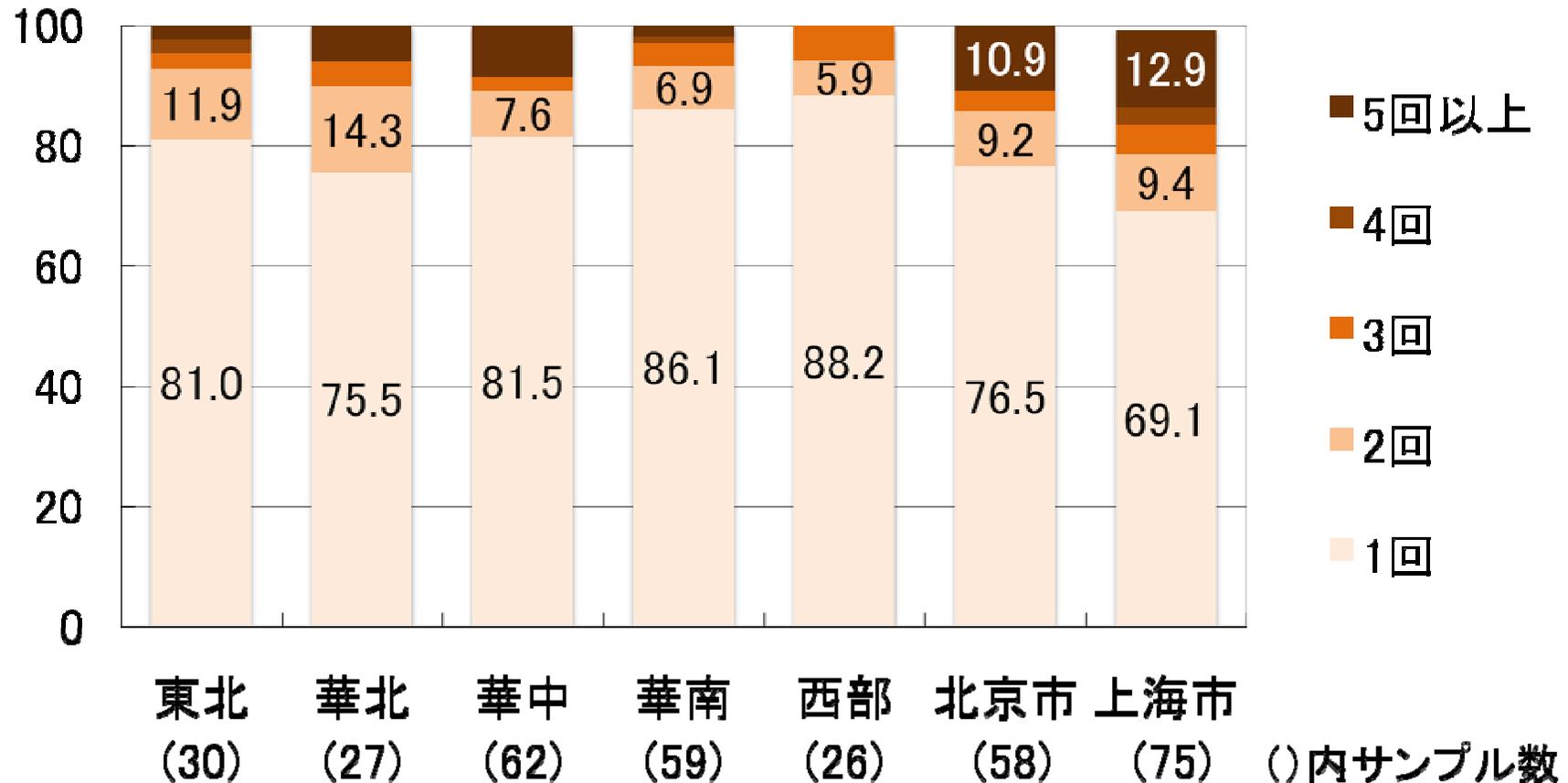
都市人口：城鎮に居住する人口，農村人口：上記以外両者の戸籍での違いあり。

中国地域分け設定



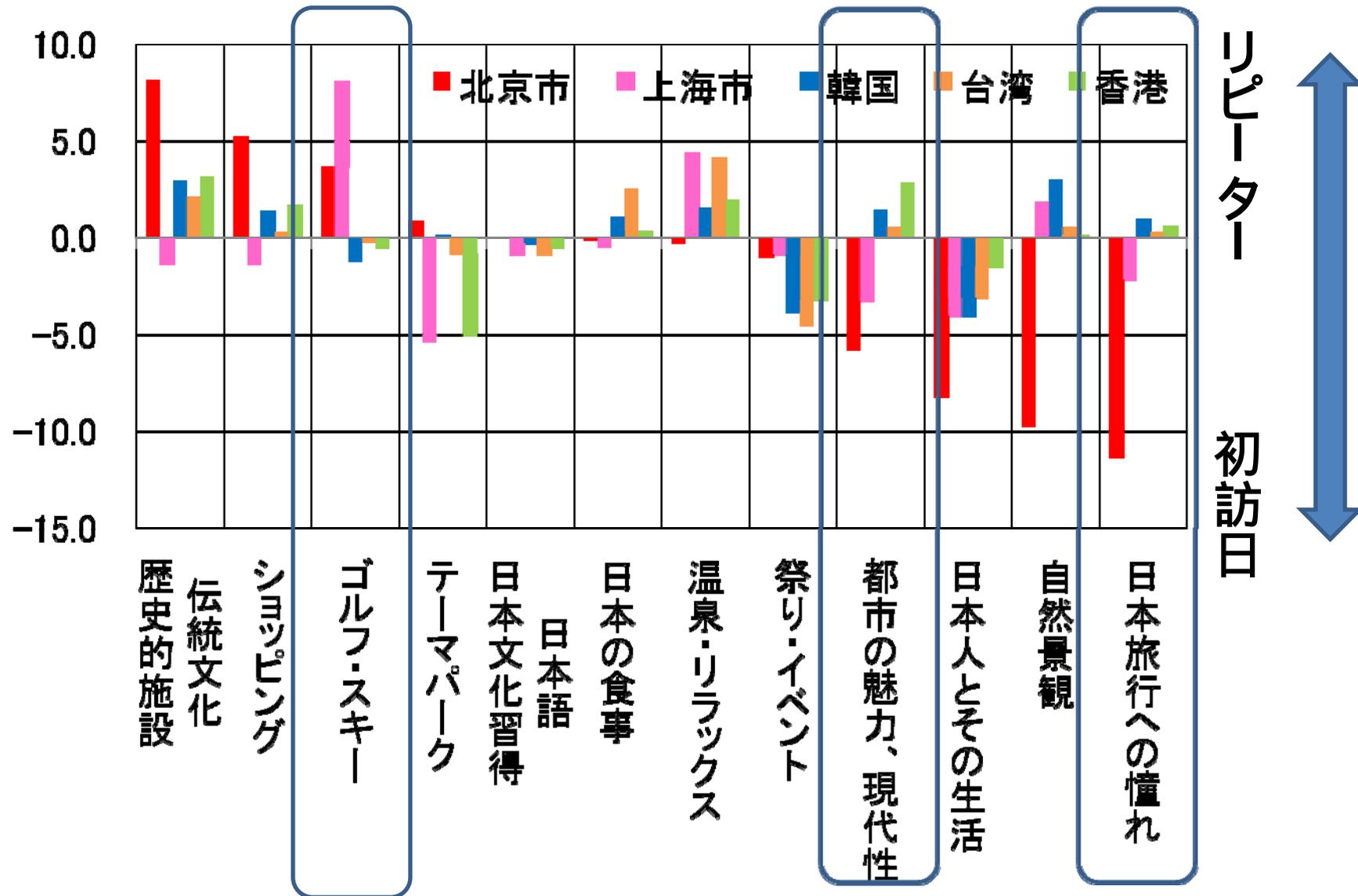
中国地域別訪日回数(2007年)

(%)

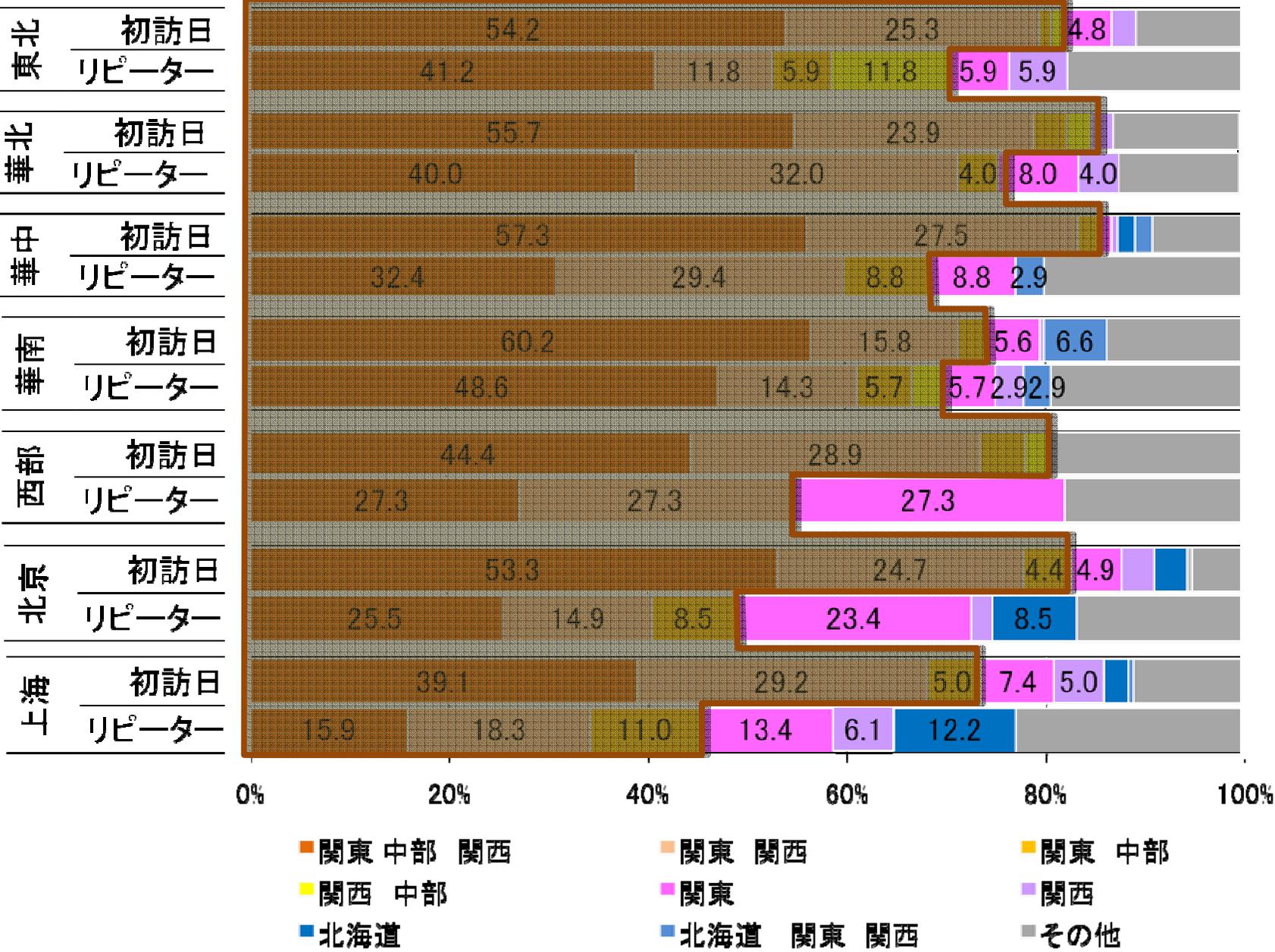


**北京、上海は、リピーターが他の地域に比べて多い
(理由: 北京、上海は訪日団体観光旅行解禁が2000年)**

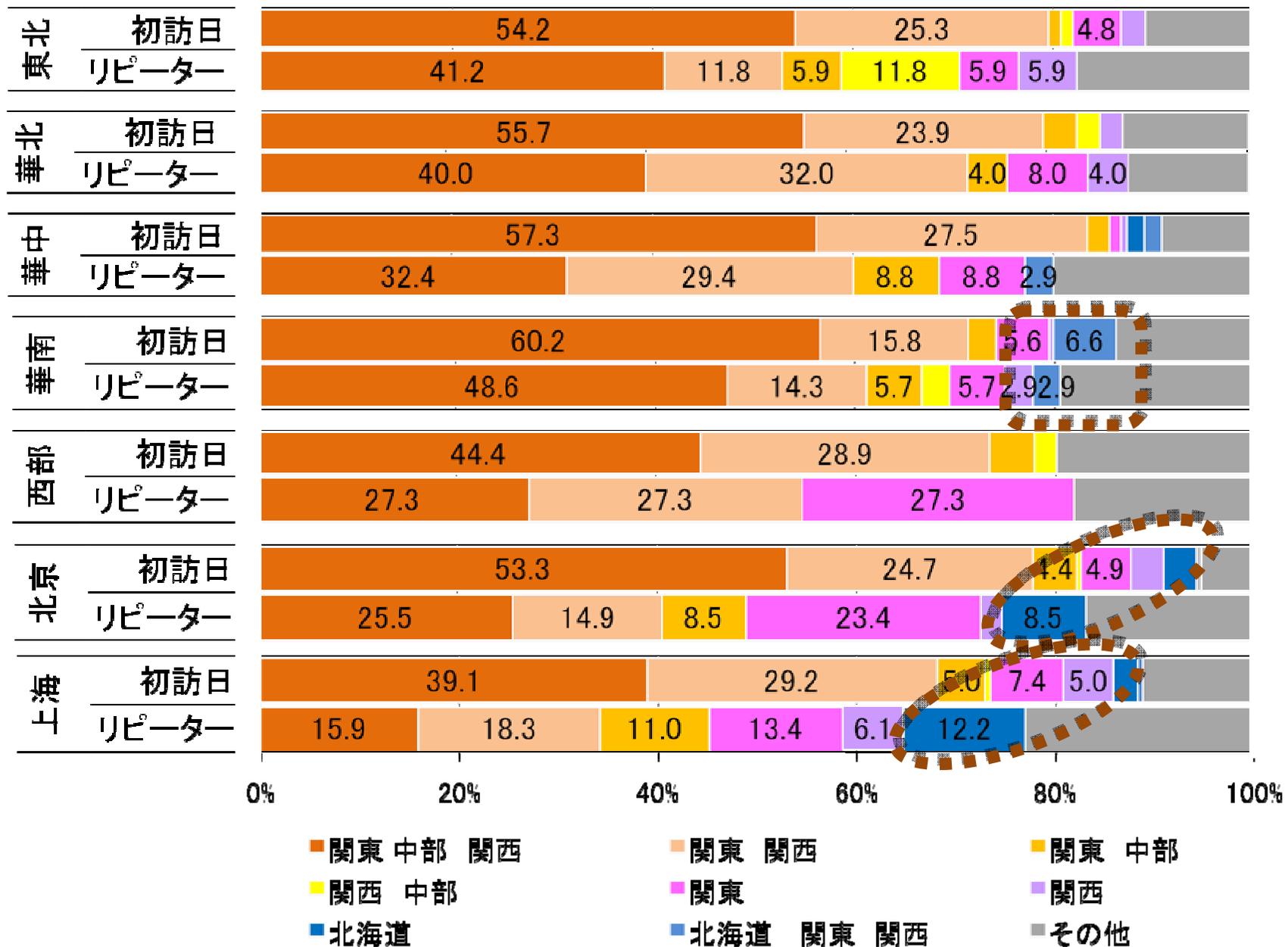
初訪日とリピーターとの訪日動機の違い(2007年)



地域別の訪問地



地域別の訪問地

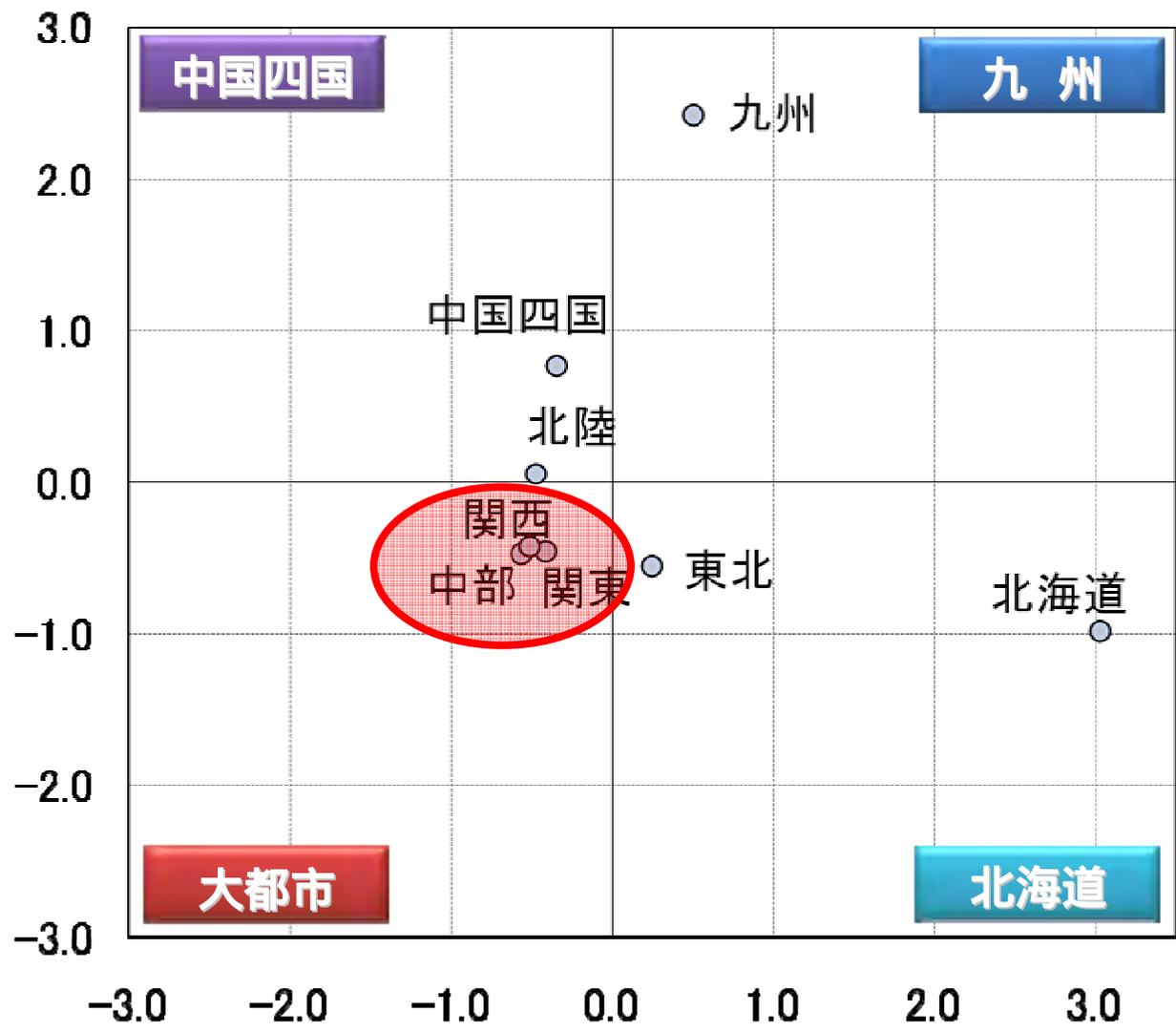


訪問地に着目した属性別の傾向分析

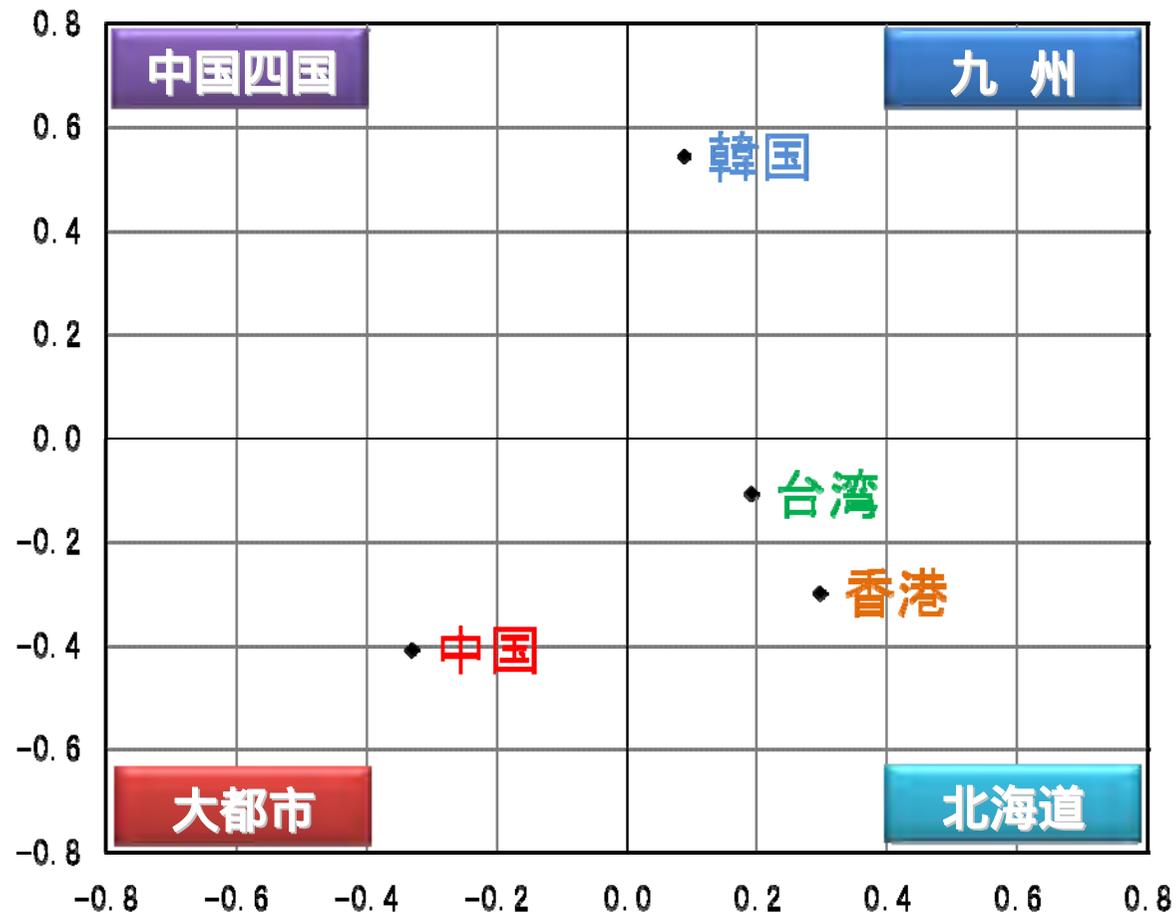
中国地域別，韓国，台湾，香港のサンプル数

	北海道	東北	関東	中部	関西	北陸	九州	中国 四国
中国	88	18	1098	692	1008	13	52	21
韓国	396	163	2405	84	426	1525	1922	85
香港	402	124	1089	53	373	464	111	47
台湾	803	213	2049	323	1120	1193	707	85
合計	1689	518	6641	1152	2927	3195	2792	238

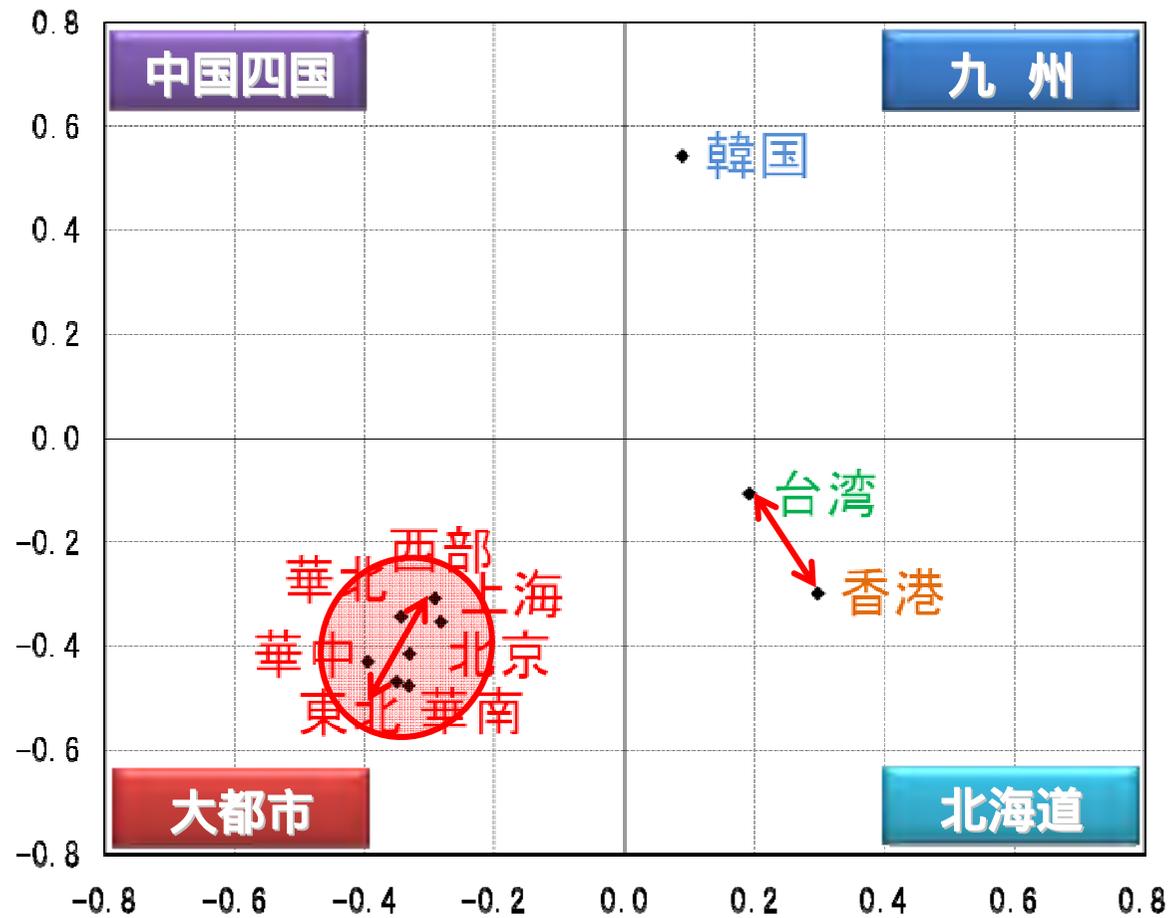
訪問地の散布図



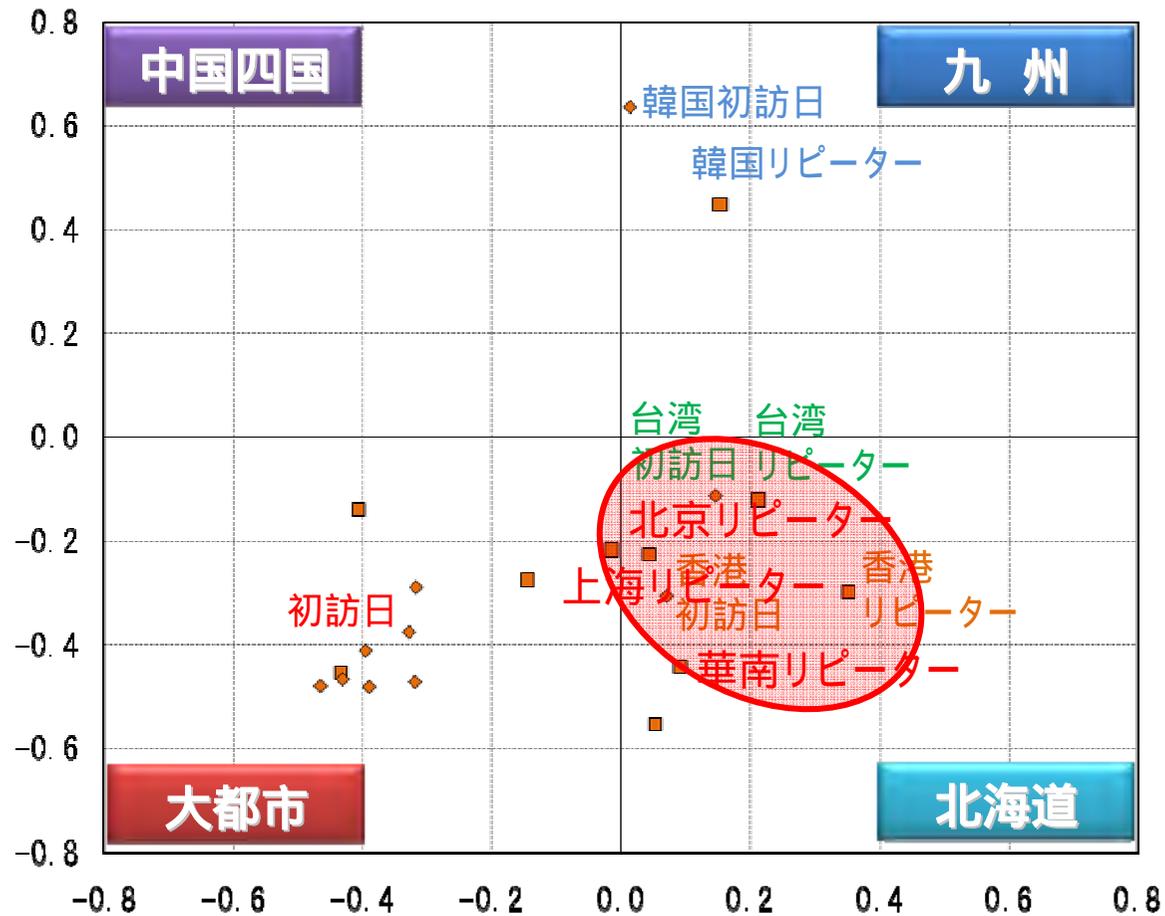
サンプルスコアの散布図



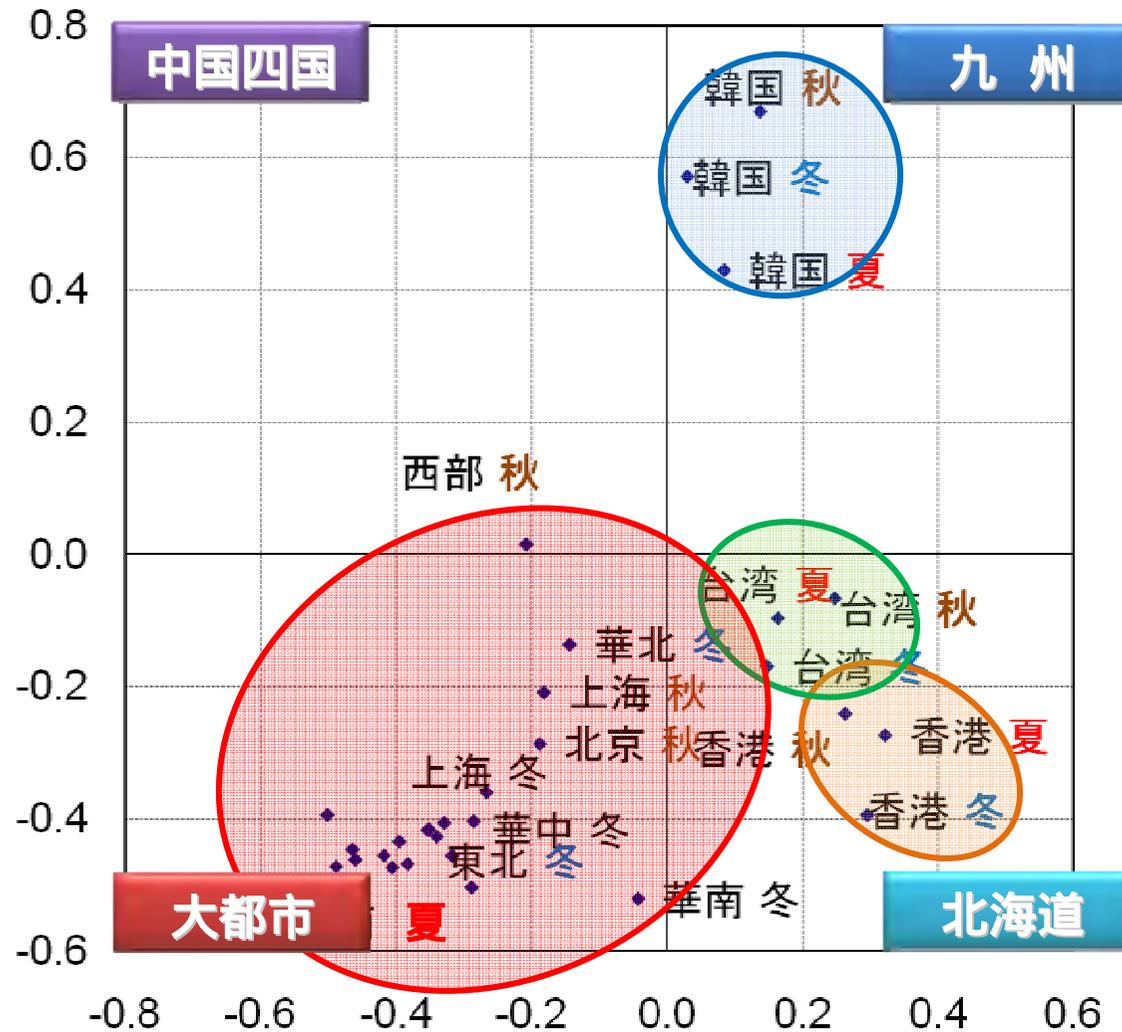
サンプルスコアの散布図



訪日回数別の違い



訪日時期(季節)の違い



韓国, 台湾, 香港では, 季節による変動は見られないが
中国では, 差が生じている.

訪日外国人観光旅行者の動向のまとめ

中国を地域に分割して分析することにより

訪問地の選択に大きな差があること

韓国、台湾、香港とは異なり、中国は訪日経験や季節によって地域差が明確に表れること

中国からのリピーターは、複数都市を周遊するのではなく、台湾と香港から観光旅行者と類似した行動をとること

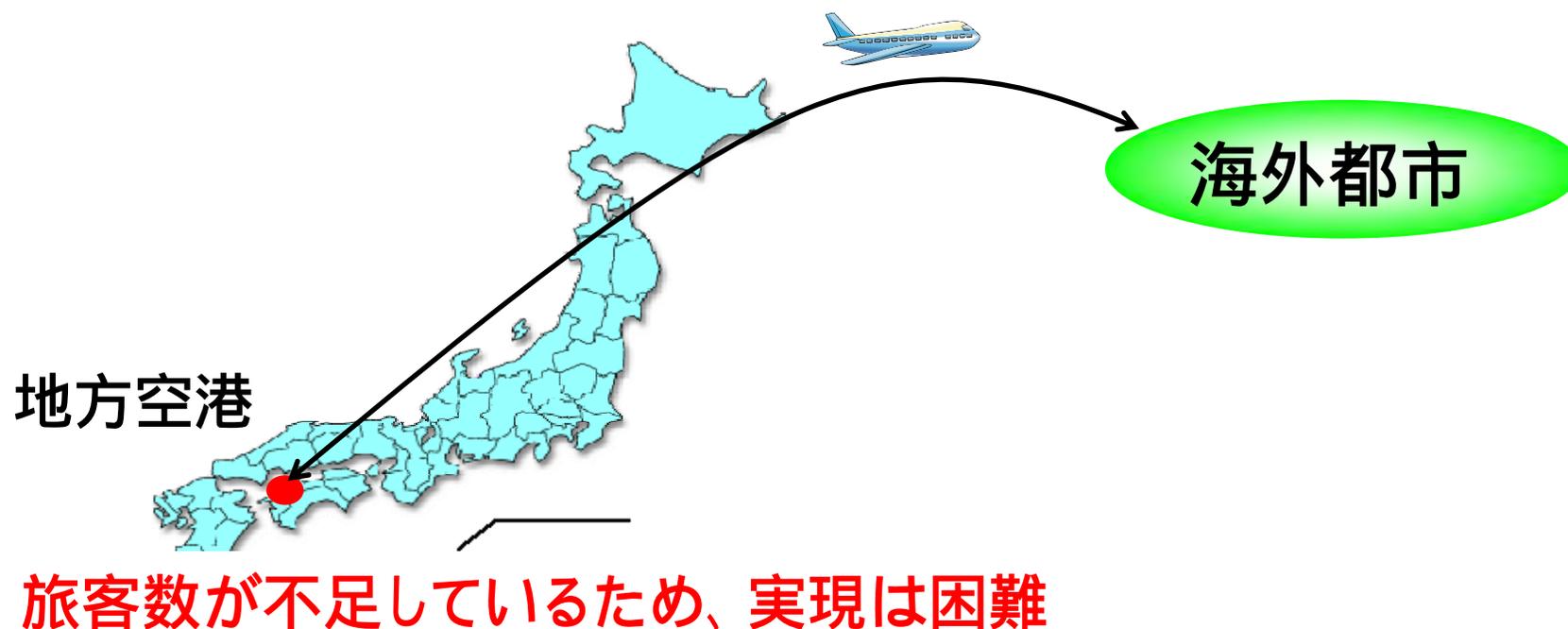
を明らかにした

今後の中国人観光旅行者(特にリピーター)の確保のために、これらの知見を踏まえ、ターゲットを絞った施策(ビザの問題、航空施策などを含む)が必要である

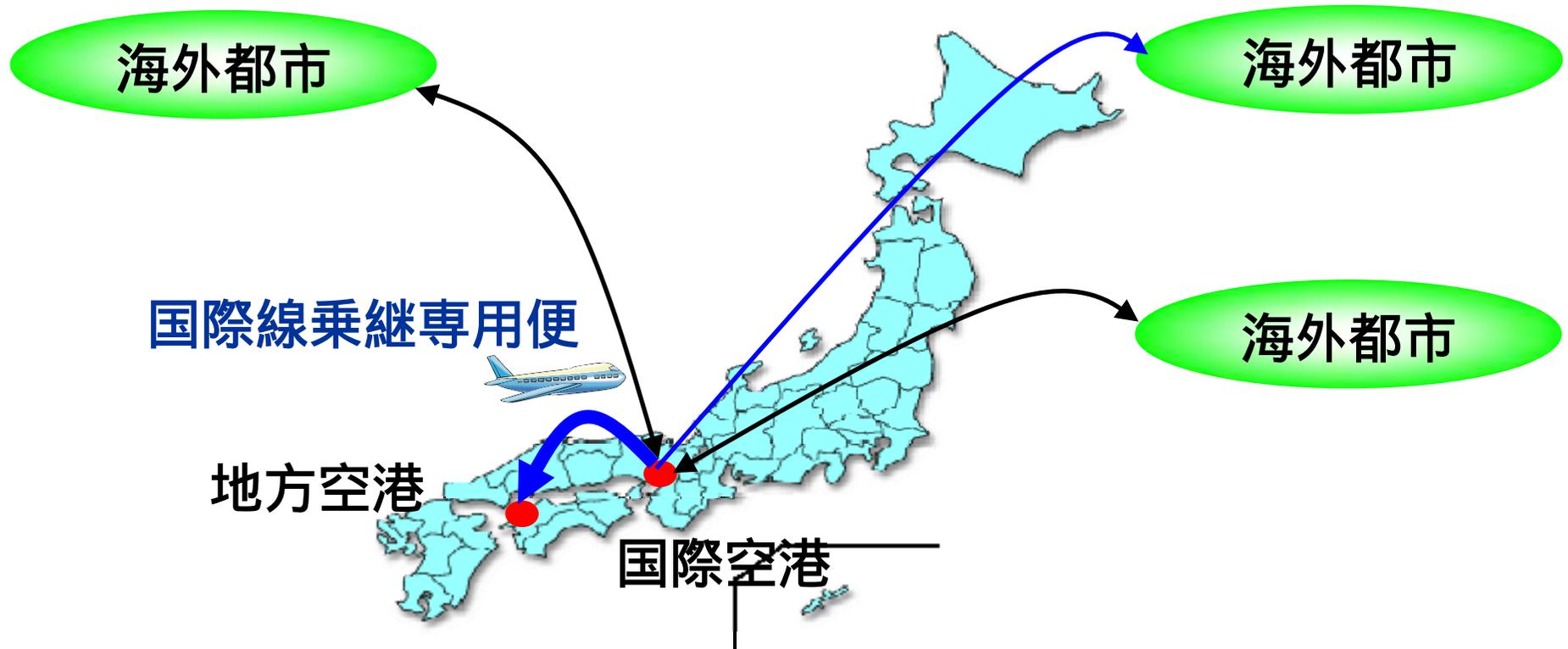
4. 外国エアラインの国内運航の検討

地域戦略上、**地方都市へ国際線を就航させ**、
地方への旅行者を増加させることは重要な課題

地方と海外都市の**直行便**の実現

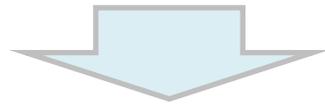


地方と海外都市を1ストップで結ぶ国際線



同一時間帯同一地方路線を利用する国際旅客を集めることで、実現の可能性あり

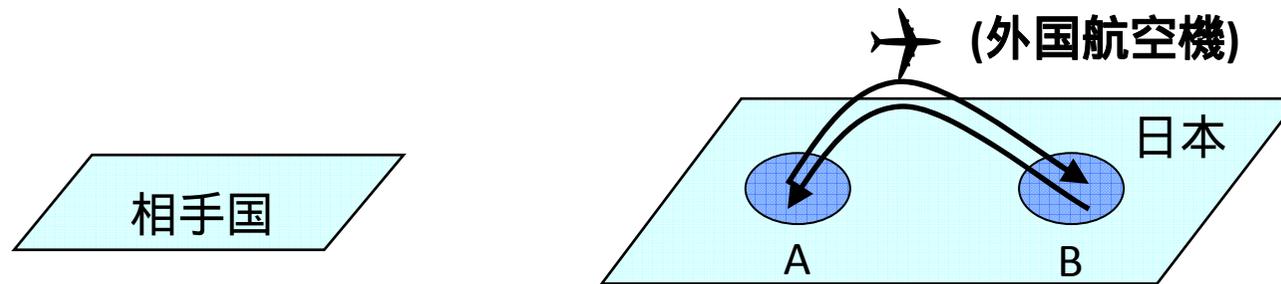
日本のエアラインは、高コスト体質のため、
一部の高需要路線を除き、
地方への国際線乗継専用便の運航はない



より低コストな運航のノウハウを持つ
外国エアラインによる国内運航も
1つの可能性として検討する必要がある

航空法第130条では、 「カボタージュ権」の行使を認めていない

カボタージュ（外国航空機が国内の地点間を輸送する自由）



現状、カボタージュ権を行使するのは難しい

カボタージュ権を行使せず地方空港と
海外都市を1ストップで結ぶ
外国エアラインの就航可能性を検討

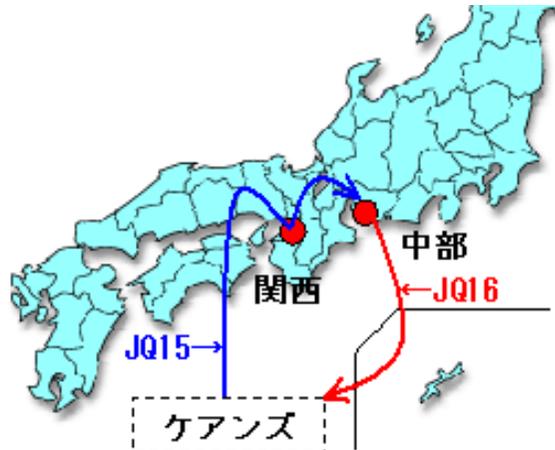
外国エアラインの国内運航の現状把握

国際線（国内の1地点を経由）

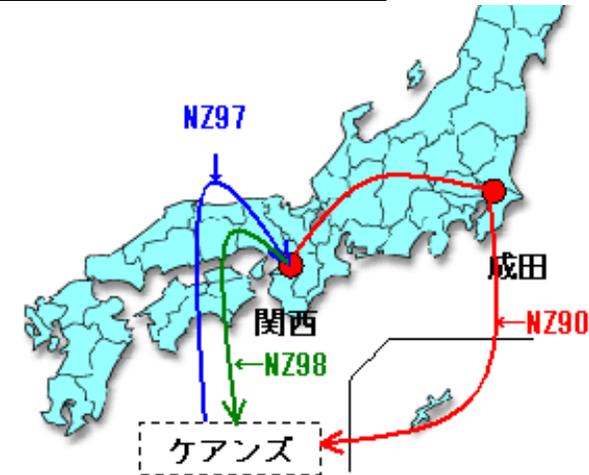
国内線とのコードシェア便

国際線(国内地点を経由するケース) 単一路線

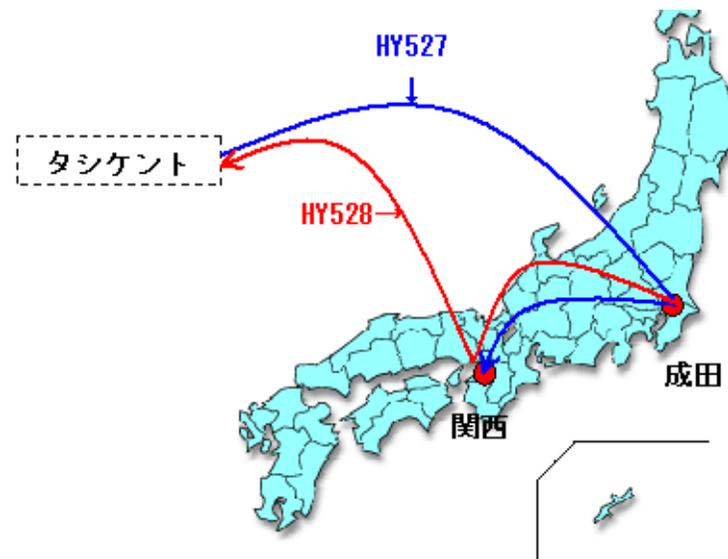
ジェットスター航空



ニュージーランド航空



ウズベキスタン航空

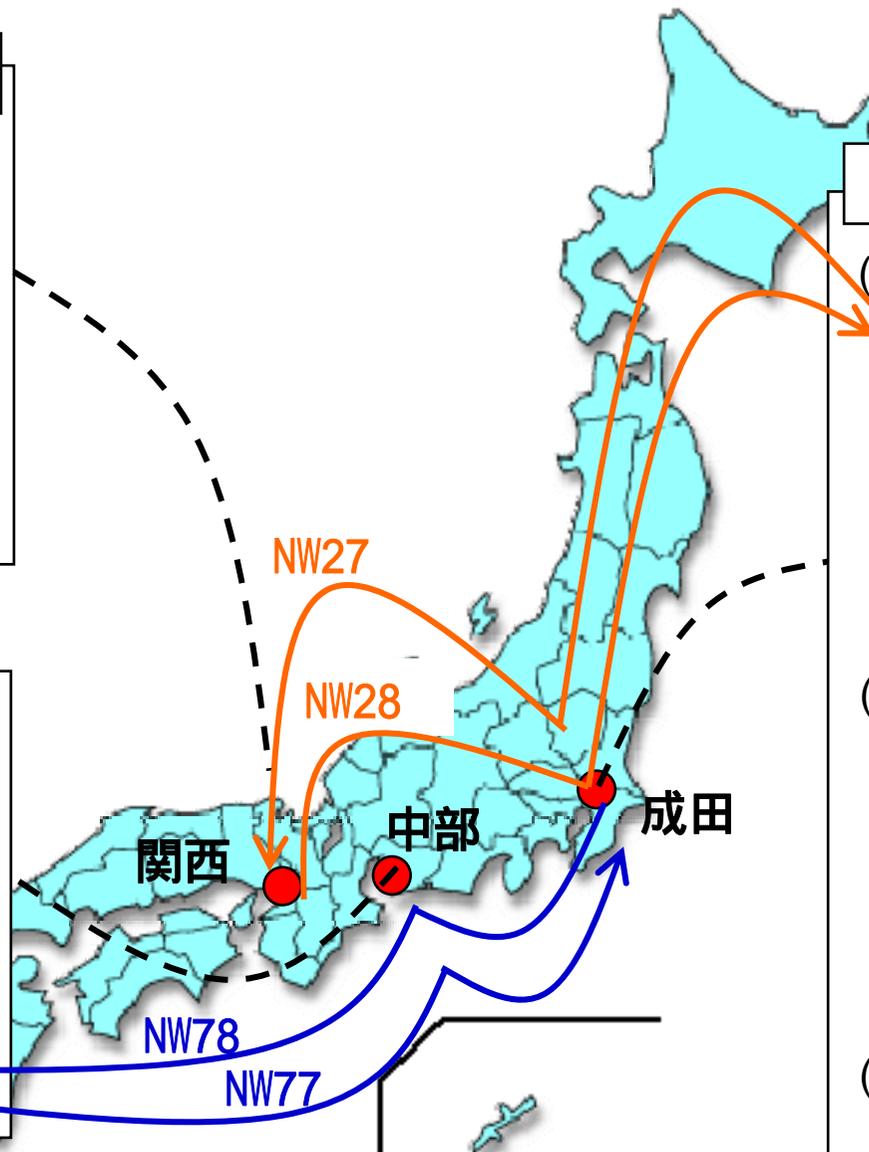


ノースウエスト航空のネットワーク

- NW就航都市(関西)**
- (北米方面)
 - デトロイト
 - ホノルル
 - (アジア方面)
 - 台北
 - (オセアニア方面)
 - サイパン グアム

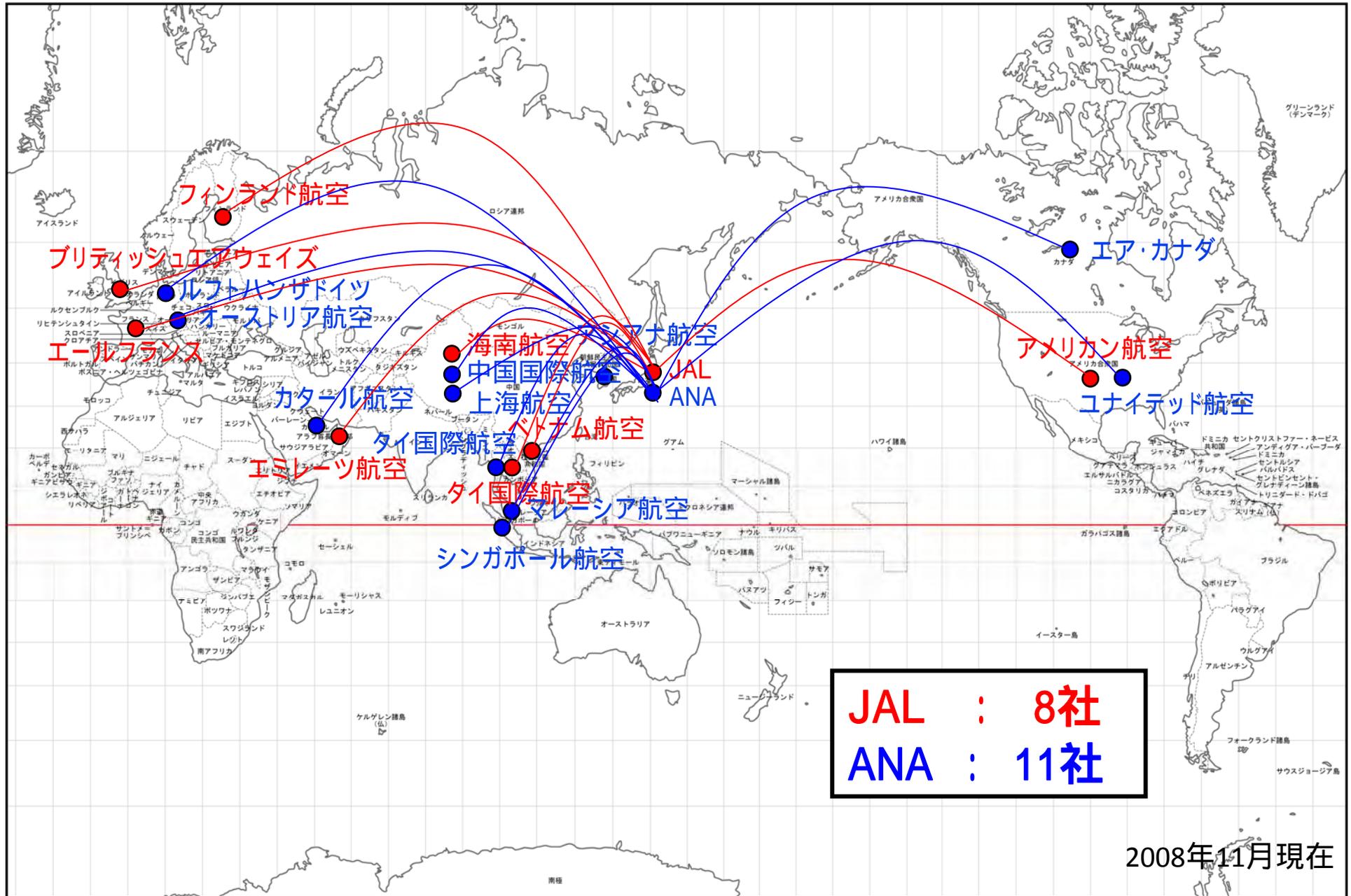
- NW就航都市(中部)**
- (北米方面)
 - デトロイト
 - (アジア方面)
 - マニラ
 - (オセアニア方面)
 - サイパン

- NW就航都市(成田)**
- (北米方面)
 - サンフランシスコ
 - シアトル
 - デトロイト
 - ポートランド
 - ミネアポリス
 - ロサンゼルス
 - (アジア方面)
 - ソウル 香港
 - 釜山 台北
 - 広州 マニラ
 - 上海 バンコク
 - 北京 シンガポール
 - (オセアニア方面)
 - サイパン グアム



NW27とNW28は、国際区間と国内区間で機材が異なる

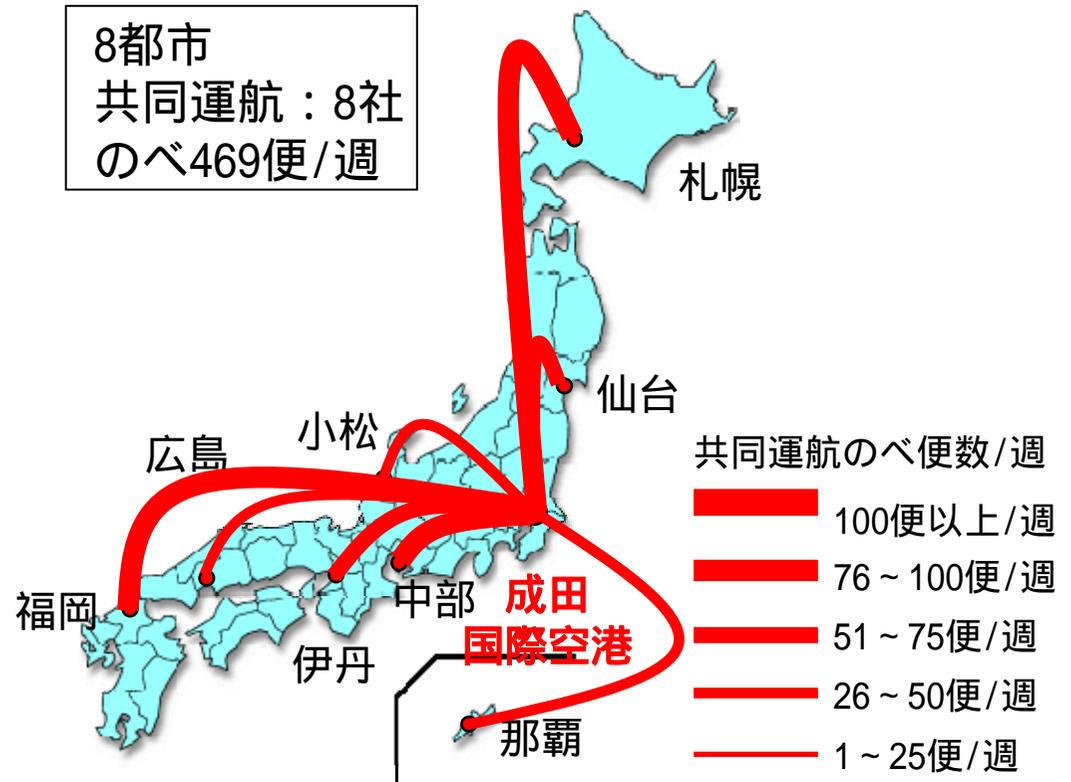
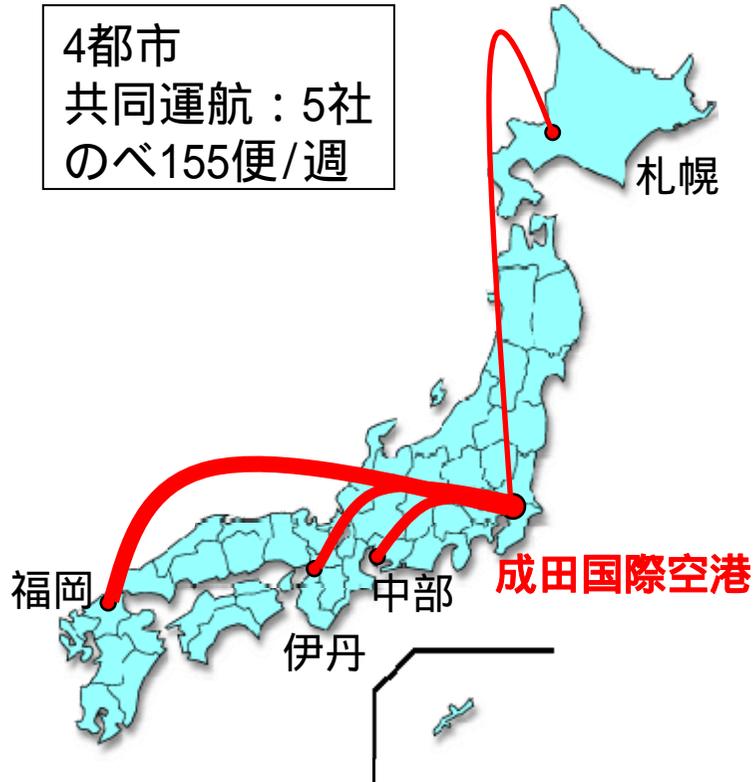
国内コードシェア便の提携会社



コードシェア便のネットワーク(成田発着便)

JAL

ANA



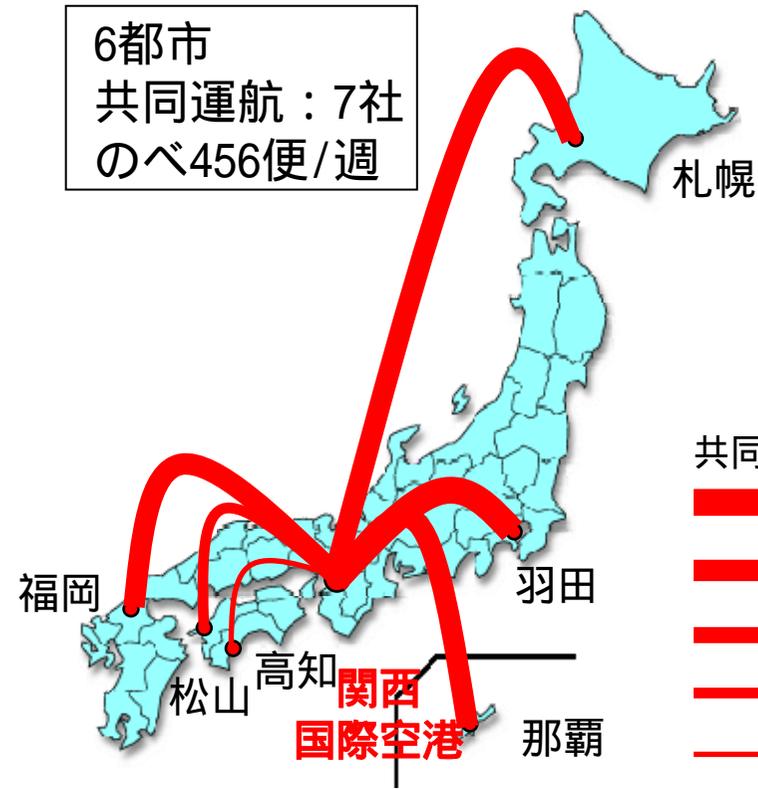
国内便の約90%がコードシェア便

2008年11月現在

コードシェア便のネットワーク(関西発着便)

JAL

ANA



国内便の約60%がコードシェア便

2008年11月現在

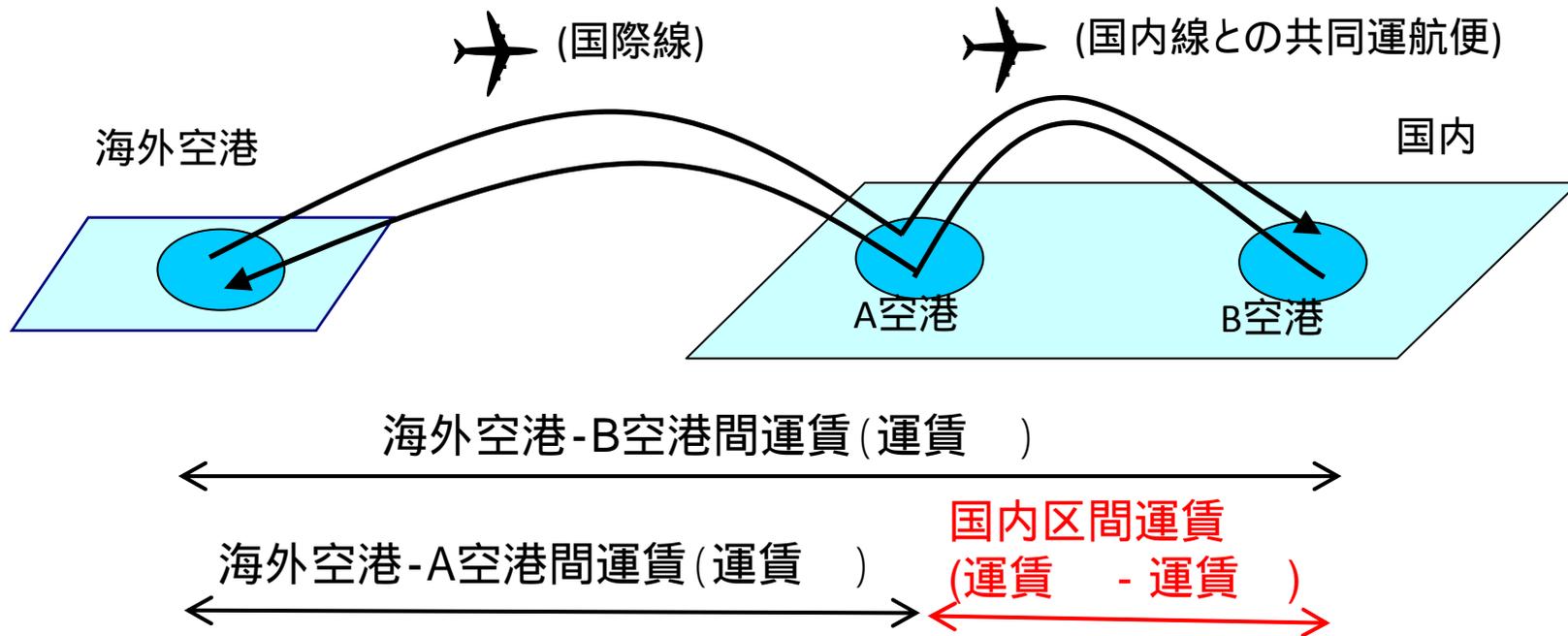
国内運航している外国便の特徴

	現状		本提案
	国際線 (国内地点経由便)	国内線と コードシェア	
使用機材・乗員	外国エアライン	国内エアライン	外国エアライン
経由地における エアライン間の乗継	不可能	外国便は不可能	可能
国内区間旅客輸送	不可能	不可能	-
就航空港	成田, 中部, 関西	成田, 中部, 関西 他多数の地方空港	成田, 中部, 関西 他多数の地方空港
備考	地方路線を運航するだけの旅客の確保は困難	<ul style="list-style-type: none"> ・外国エアラインの低コスト化が実現されていない可能性がある ・国内線ダイヤに依存 ・価格競争が起こりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方発着国際線の実現 ・低コスト化による低運賃化 ・乗継利便性向上 ・価格競争の促進

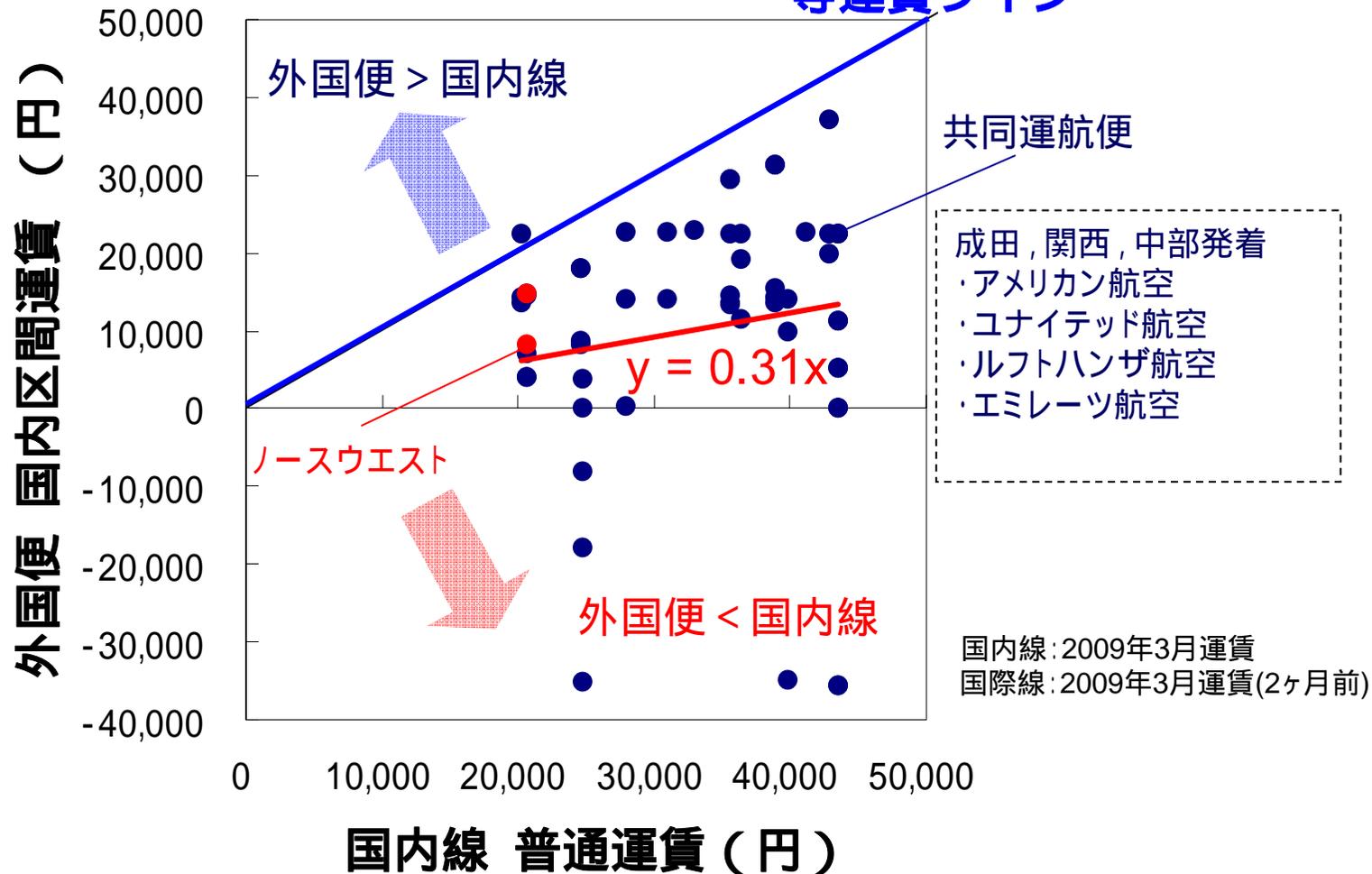
外国エアラインの国内路線運航の可能性の検討内容

- 1 . 航空運賃
- 2 . 乗り継ぎ時間
- 3 . 国際便の発着時間
- 4 . 路線別旅客数
- 5 . 航空法

外国便航空運賃の算定方法

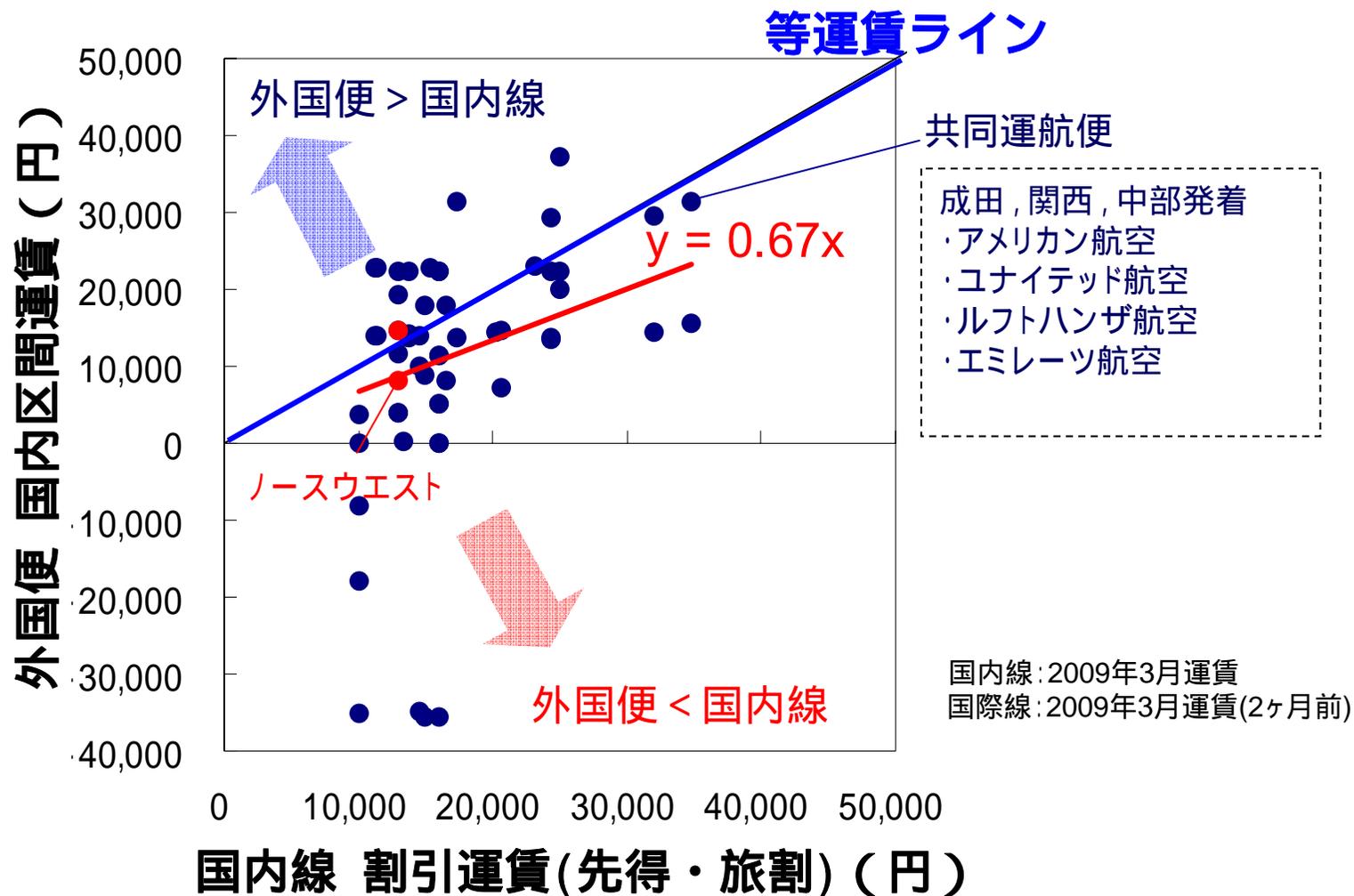


外国便航空運賃 - 国内線(普通運賃)との比較 - 等運賃ライン



一部を除き, 普通運賃より安い

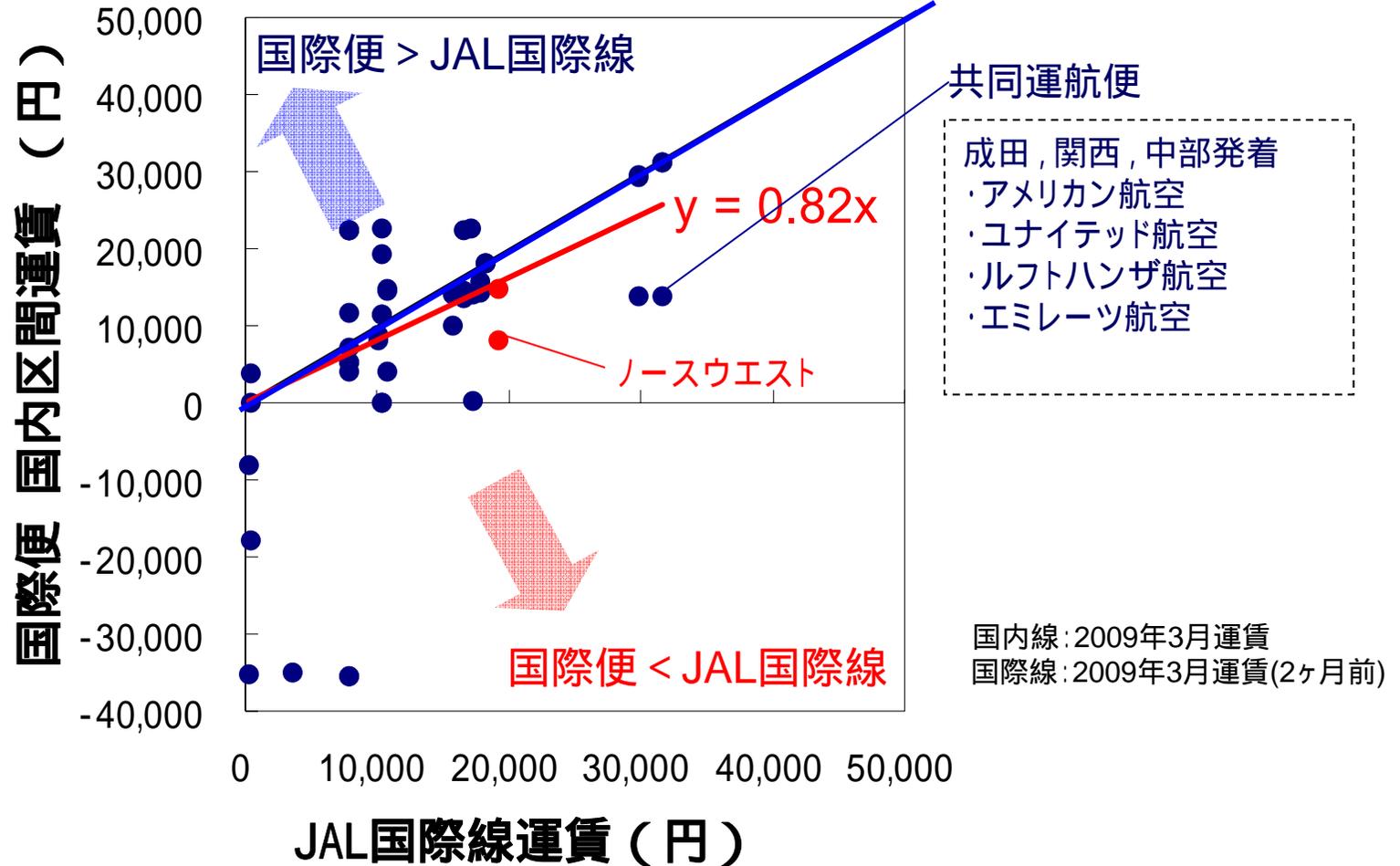
外国便航空運賃 - 国内線(割引運賃)との比較 -



平均的には割引運賃より安い

外国便航空運賃 - JAL国際線との比較 -

等運賃ライン



JAL国際線と同程度

共同運航便の乗り継ぎ時間

外国エアラインによる国内共同運航便の便名数

235便

2008年11月現在

国際線との乗り継ぎ時間

3時間以上 : 89便 (38%)

4時間以上 : 47便 (20%)

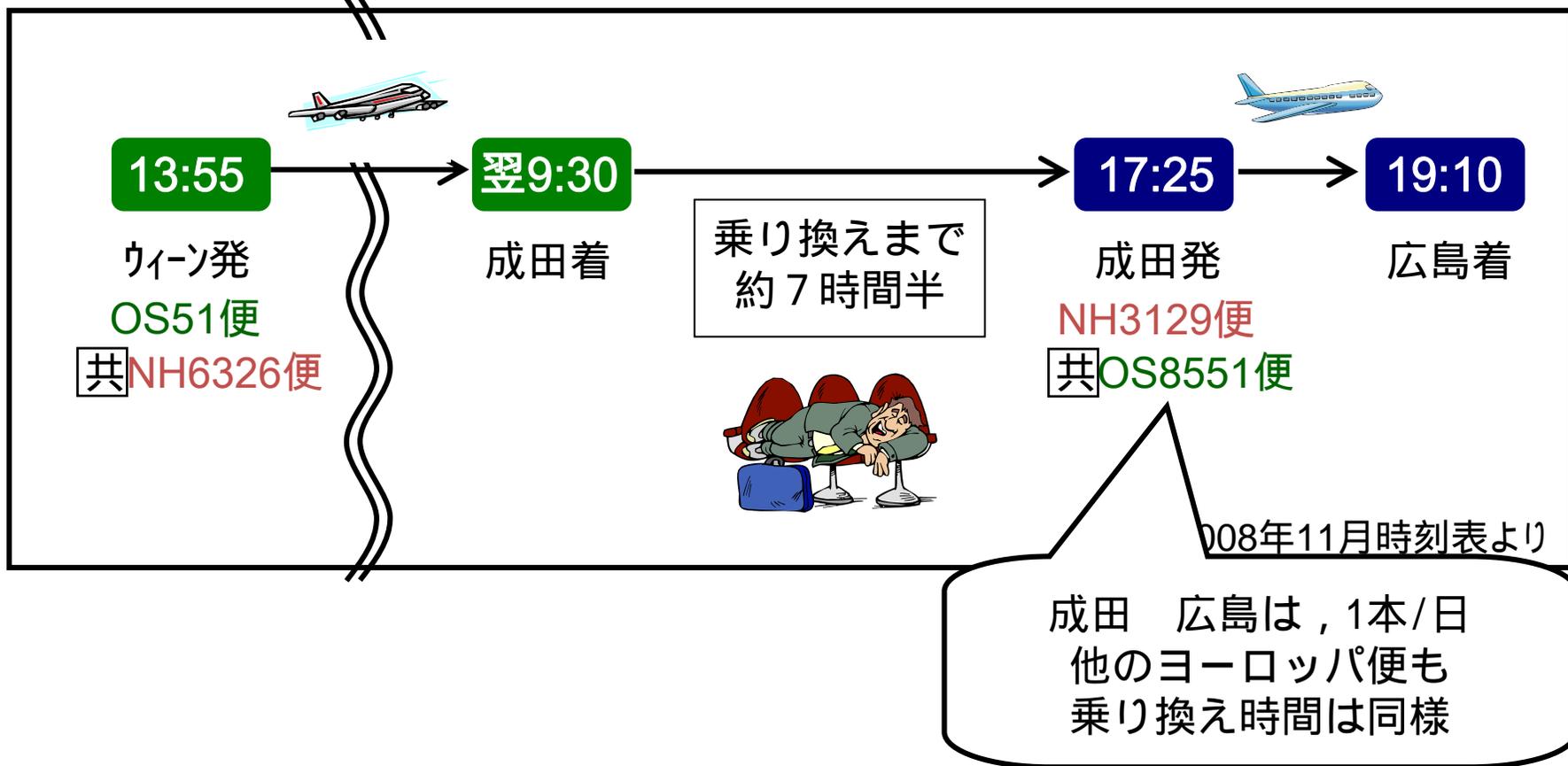
5時間以上 : 37便 (16%) **原因分析**

()内の数字は全便数に占める割合

共同運航便の乗り継ぎ時間が長い要因

原因1 共同運航可能な国内線がない (10便/37便中)

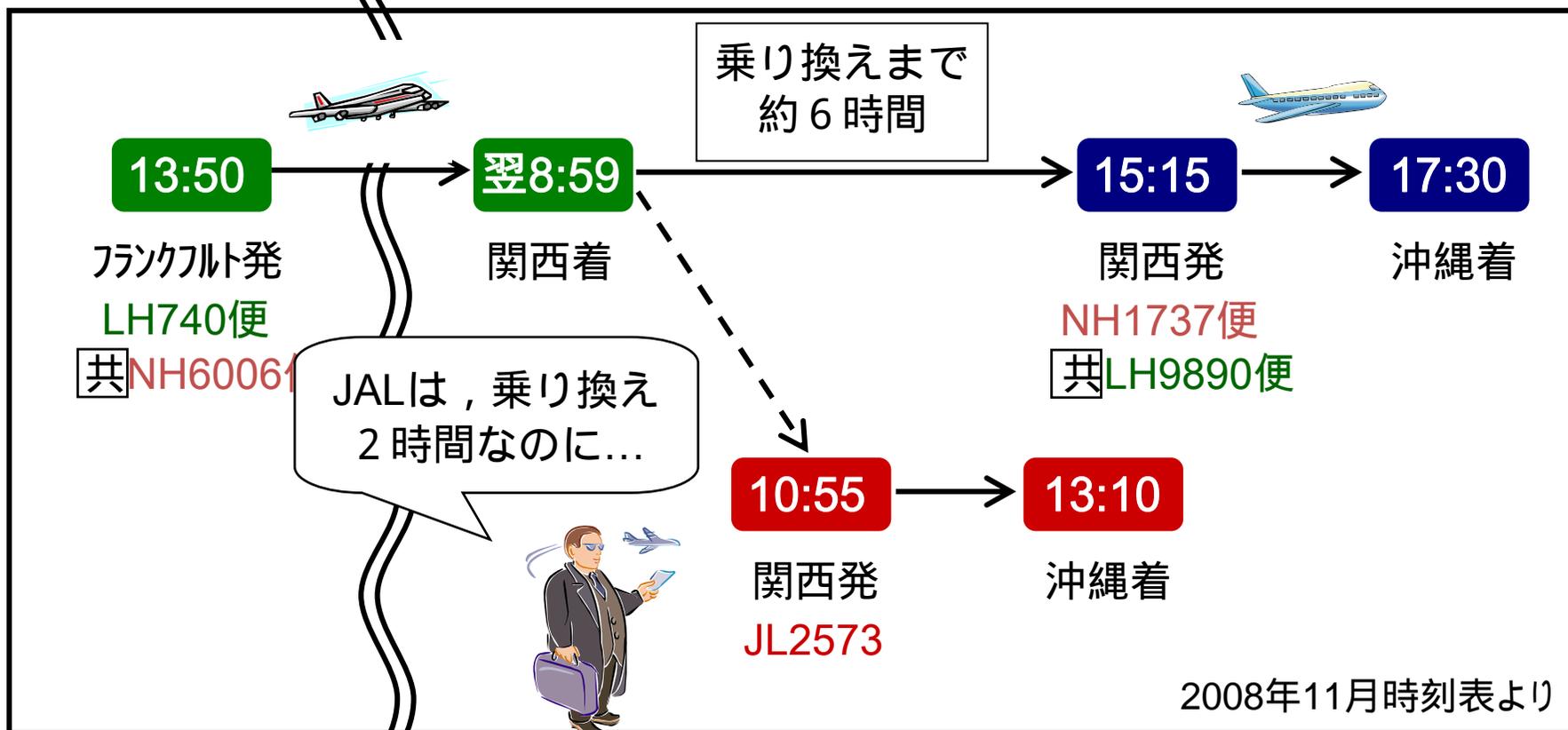
EX) ウィーン 広島 (成田経由) オーストリア航空



共同運航便の乗り継ぎ時間が長い要因

原因2 アライアンスの都合上、共同運航可能な便が限定 (9便/37便中)

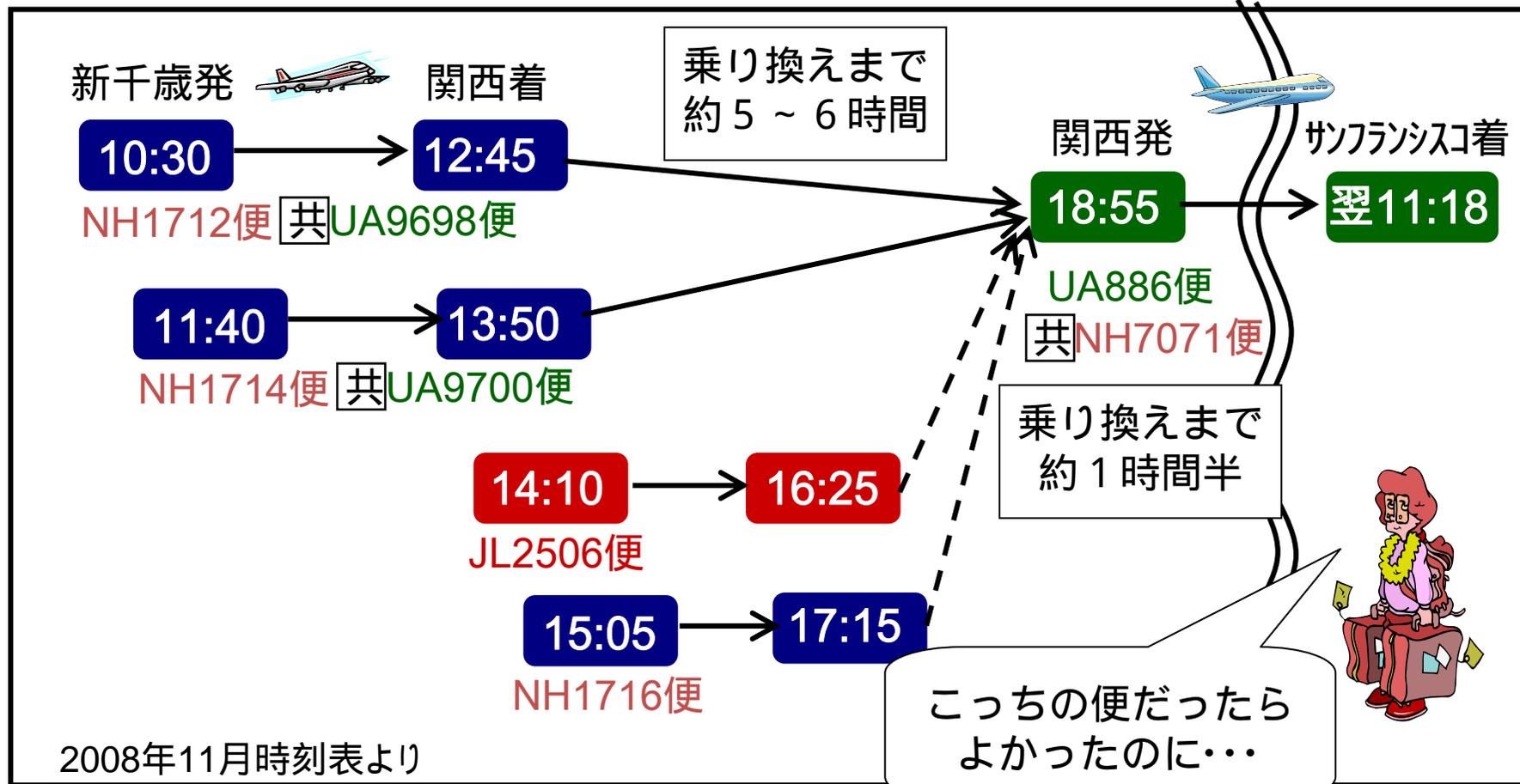
EX) フランクフルト 沖縄（関西経由） ルフトハンザドイツ航空



共同運航便の乗り継ぎ時間が長い要因

原因3 乗り継ぎ時間の良い時間の便と提携していない (19便/37便中)

EX) 新千歳 サンフランシスコ (関西経由) ユナイテッド航空



旅客需要(ケーススタディー)

【検討路線】

関西 = 福岡

関西 = 松山

関西 = 新千歳

中部 = 福岡

成田 = 福岡

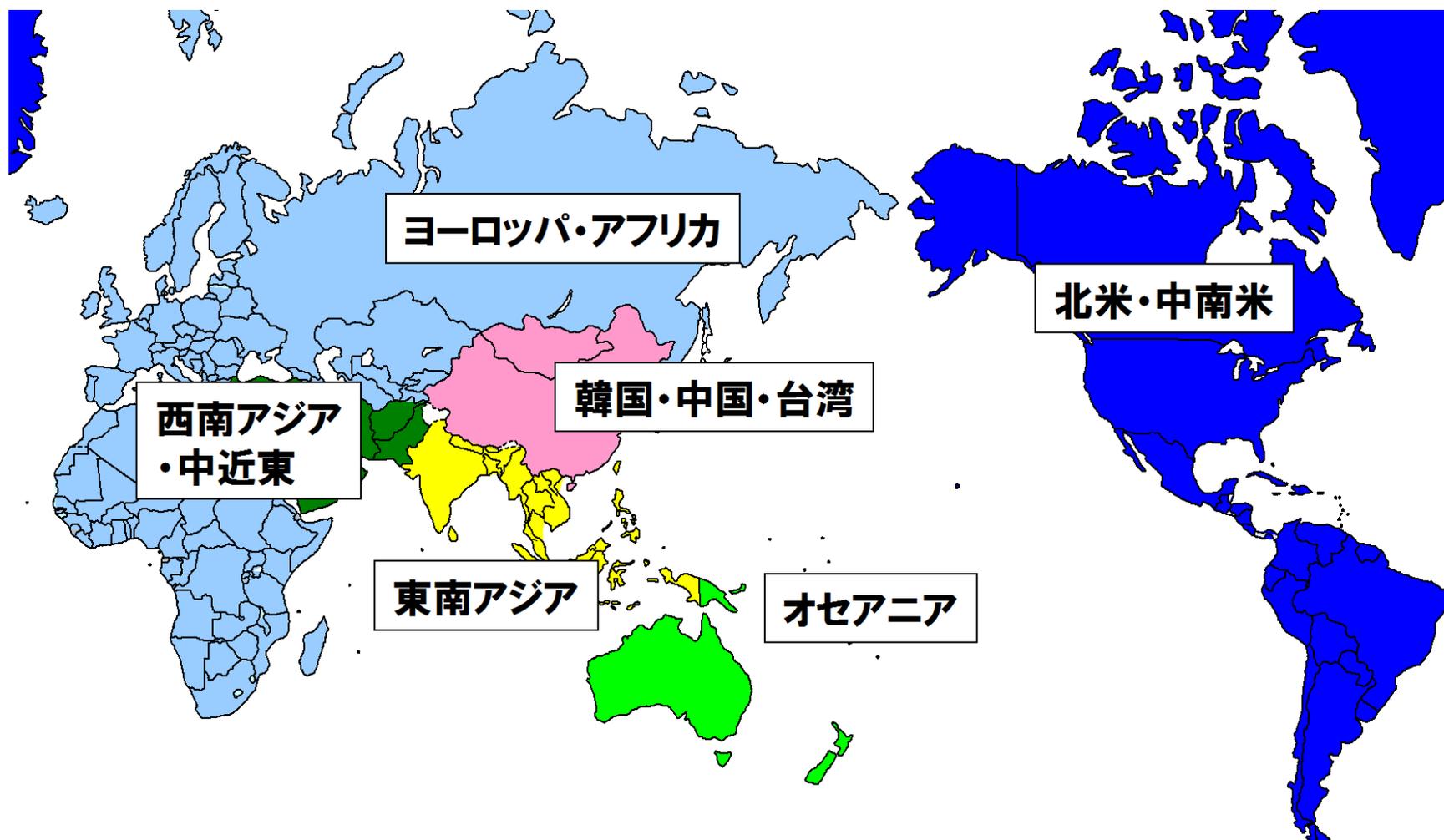
成田 = 新千歳

成田 = 伊丹

【使用データ】

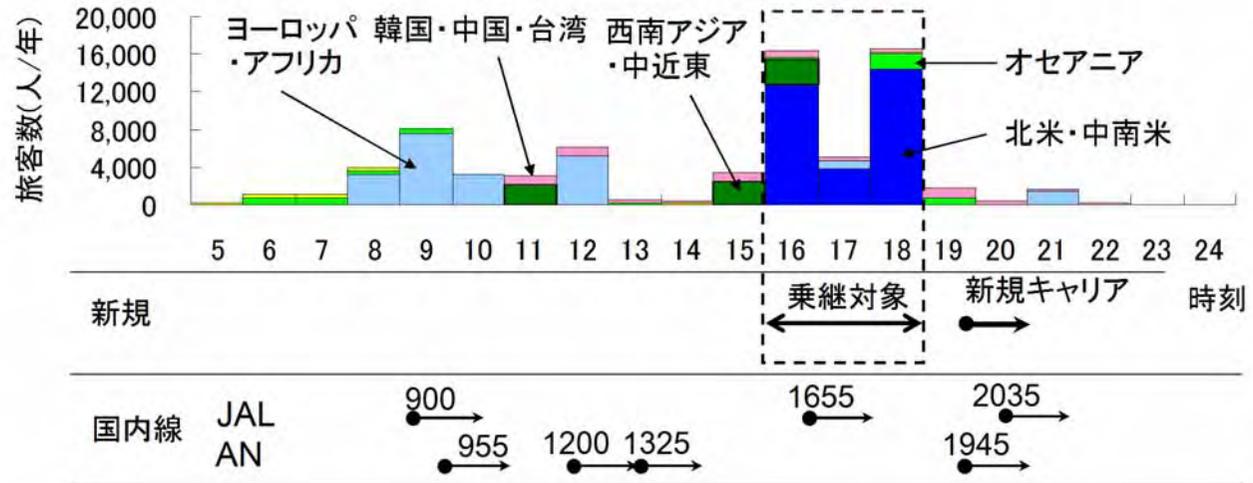
- ・平成18年度 国際航空旅客動態調査
- ・JTB時刻表 2009年4月

出国エリア区分

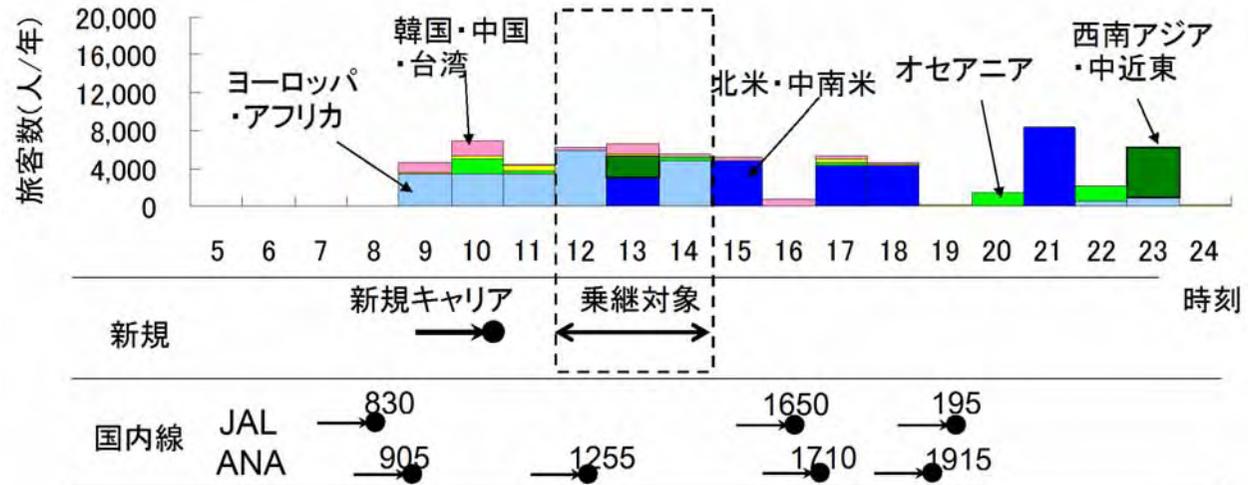


ケーススタディー ~ 関西=福岡の場合 ~

海外 **関西**
福岡旅客



福岡 **関西**
海外旅客



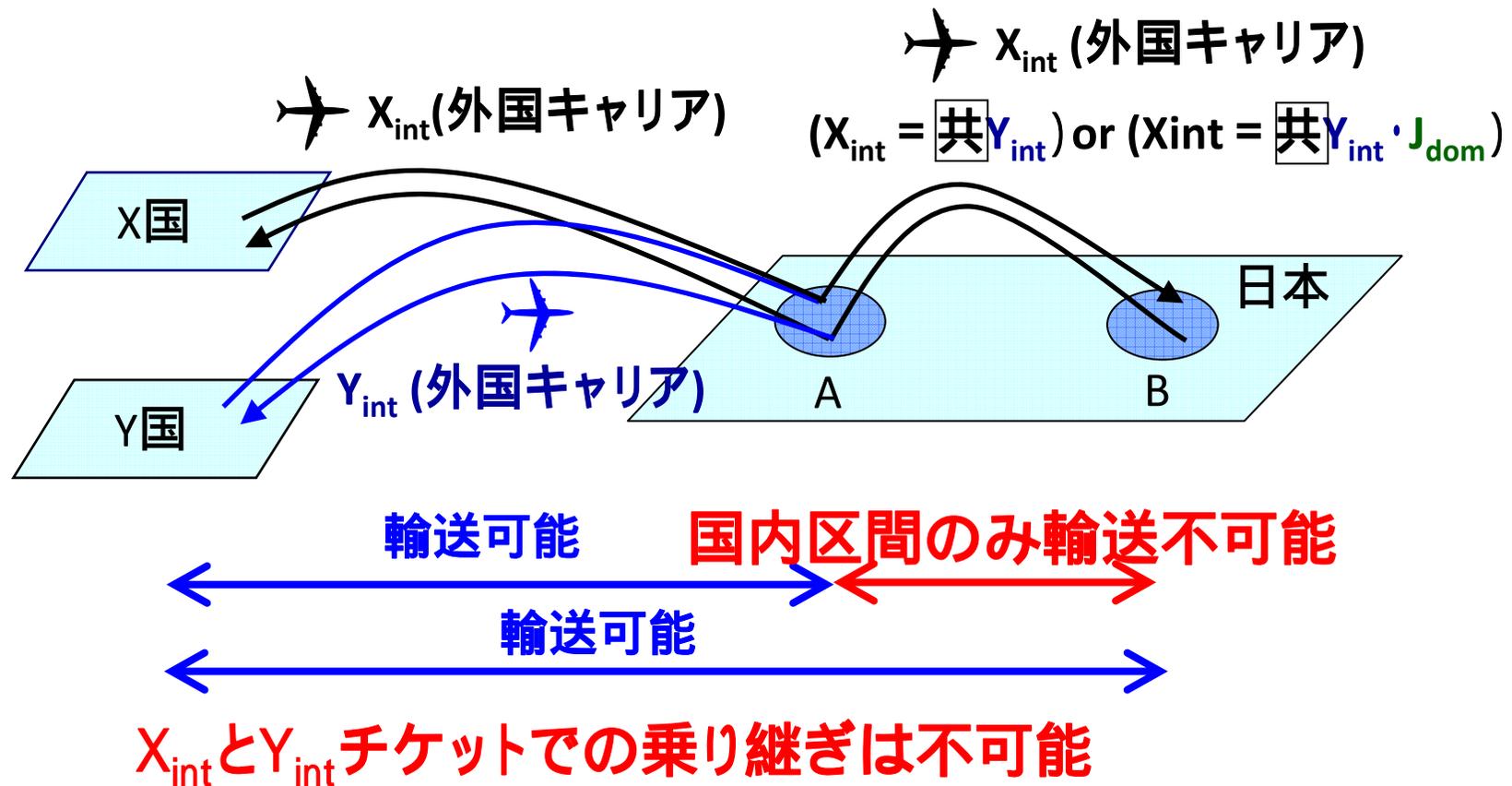
		外国エアライン 国際線利用者	国際線利用者	成田経由客 の2割が関西 経由にシフト
最大乗り継ぎ時間		3時間	3時間	3時間
旅客数(年間)	関西 福岡	27,495人	38,055人	45,600人
	福岡 関西	12,423人	18,258人	27,275人
	往復	39,918人	56,313人	72,875人
1日あたりの片道平均旅客数		55人	77人	100人
ロードファクター	90席クラス	61%	86%	111%
	120席クラス	46%	64%	83%
	160席クラス	34%	48%	62%

利便性向上による他交通からのモーダルシフトなどにより、さらなる需要も期待できる

- ・福岡発欧米便の実現
- ・関西国際空港の有効活用が期待できる

航空法上の可能性

外国エアラインの機材に、他のエアラインのコード(便名)をつけることは、航空法上OK



実現に向けた検討項目

誘発需要を含めた航空需要の推計

事故発生時の責任、事故調査の主体とそれに伴う安全性規則ならびに調査方法の明確化

国際区間と国内区間でチェンジオブゲージを行う際の国内区間の機材の駐機スペースの検討

入出国手続きカウンターを設置の検討

アライアンスを超えたコードシェアの実行

関税法と入国管理法上問題の整理

外国エアラインの国内運航のまとめ

新たな運行形態を提案し、航空運賃、乗り継ぎ時間、国際線発着時間、旅客需要、航空法の観点から検討

現在の航空法を変えることなく、運賃の低下、乗り継ぎ時間の短縮が可能な便が運航可能であることを示した

交流人口の増加、地域の活性化、乗り継ぎ空港の有効利用、混雑空港の解消、地方空港の収入増加… 一石 鳥

5. まとめ

地域の活性化という視点から、国内観光、インバウンド観光、航空施策について、データを基に定量的な検討を行った

定性的な議論だけでなく、定量的に示したことは、大きな成果である

地域戦略のための、観光戦略、航空戦略という観点では、今まさに検討すべき、重要な課題である

最後に・・・

ここでの分析に加え、

地方の衰退観光地の再開発(毛塚、早川研究)

若年層の旅行離れに対する検討(奥山研究)

混雑空港の航空遅延(坂下研究)

首都圏空港容量の拡大施策(平田研究)

などを組み合わせ、効果的な観光政策、航空政策
の実施がなされることにより、

地域の活性化がすすむことを期待する